

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第166集

羽 根 遺 跡

2010

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛 知 県 埋 蔵 文 化 財 セ ン タ ー

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第166集

羽根遺跡

2010

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

序

愛知県南東部に位置する豊川市は、豊川稲荷の門前町として知られており、また自動車部品や鉄道車両製造等の工場が並ぶ産業都市としても発展しています。東三河の中心に位置するこの地は、古くから三河の中心として栄え、古代には国府・国分寺・国分尼寺が設置されました。東海道・姫街道などの陸上交通が発達し、人々の往来は活発で、様々な文化が発展したといえましょう。

今回発掘調査をしました羽根遺跡は、東海道の赤坂宿の北東に位置し、赤坂から作手・新城方面へと延びる街道沿いに立地をしています。今回の調査では中世から近世を中心に様々な時期の遺構や遺物が確認されています。豊川市域では、これまでも多くの地域で発掘調査が行われており、既に膨大な史料などの蓄積がありますが、今回調査を行った旧音羽町域に関しては本格的な調査があまり行われていないこともあり貴重な成果を加えることができました。本書はその成果をまとめたものであります。

今後、こうした調査成果が、豊川市域の歴史を明らかにする上での助けとなり、埋蔵文化財の保護や啓蒙活動に活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施に際して、地元住民の方々をはじめとする関係者および関係諸機関のご理解とご協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

平成 22 年 3 月

財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団
理事長 林 良三

例 言

1. 本書は愛知県豊川市萩町羽根に所在する羽根遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、県道大代音羽線改良工事に伴う事前調査として、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センターが実施した。
3. 調査期間は平成 20 年 4 月から 9 月までで、4,100 m²の面積を行った。整理および報告書作成作業は平成 21 年 4 月から平成 22 年 3 月にかけて実施した。
4. 調査担当者は、鈴木正貴（本センター調査研究専門員）・川添和暁（本センター調査研究主任）・成瀬友弘（本センター調査研究主事）である。発掘調査は東海アナース株式会社の支援を受けて実施した。なお、東海アナース株式会社のスタッフは本文第 1 章に記した。
5. 調査にあたっては、愛知県教育委員会生涯学習課文化財保護室、愛知県埋蔵文化財調査センター、愛知県建設部道路建設課、豊川市教育委員会をはじめとする、多くの関係諸機関のご協力を得た。
6. 本書の執筆と編集は成瀬友弘が担当したが、一部に分担執筆がある。
第 3 章 第 5～7 節 川添和暁
第 4 章 第 1 節 鬼頭剛
第 2 節 パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
7. 整理作業は成瀬友弘が担当した。整理作業は伊藤あけみ・小島裕子・三浦里美（整理補助員）の協力を得て実施した。木製品・炭化材の樹種同定と放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに、遺物の実測・トレース作業は陶磁器・土器・金属製品は株式会社アコード（主に東野穂澄）に、石製品は川添和暁が行い実測補助を株式会社アルカに作業を委託した。また、編集作業を加藤建設株式会社に、写真撮影を写真工房遊（金子知久）にそれぞれ作業を委託した。
8. 本書に提示した座標数値は、国土交通省に定められた平面直角座標第Ⅶ系に準拠する。海拔表記は東京湾平均海面（T.P.）の数値である。
9. 遺物は、本書に掲載された遺物図版番号を登録番号として整理した。
10. 写真や図面等の調査記録は愛知県埋蔵文化財センターで保管している。
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4161)
11. 出土遺物は愛知県埋蔵文化財調査センターで保管している。
〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方 802-24 (0567-67-4164)
12. 本書の作成に至るまでに、本センター専門委員・職員をはじめとして下記の方々から多くのご指導とご助言を受けている。記して感謝したい。（五十音順：敬称略）
北村和宏・城ヶ谷和広・都築暢也・中野晴久・藤沢良祐

目 次

第 1 章 調査の概要

第 1 節 調査の経緯	1
第 2 節 立地と環境	1
第 3 節 調査の方法と経過	2

第 2 章 遺 構

第 1 節 調査前地形測量	7
第 2 節 基本層序	7
第 3 節 遺 構	11

第 3 章 遺 物

第 1 節 出土遺物の概要	45
第 2 節 土器・陶磁器類	45
第 3 節 金属製品・金属関連遺物	65
第 4 節 木製品・布製品	65
第 5 節 石製品	68
第 6 節 貝製品	69
第 7 節 縄文時代以前の石器	79

第 4 章 自然科学分析

第 1 節 羽根遺跡周辺の地形・地質	81
第 2 節 放射性炭素年代測定	83

第 5 章 考察・総括

第 1 節 遺構の変遷	86
第 2 節 総 括	88

付 表	89
-----------	----

遺構図版	95
------------	----

写真図版	103
------------	-----

抄 録	127
-----------	-----

挿図・挿表目次

第1図	羽根遺跡位置図	1	第33図	炉跡 1557SL 遺構図	41
第2図	羽根遺跡周辺遺跡地図	3	第34図	井戸 1348SE・1594SE 遺構図	43
第3図	羽根遺跡調査区位置図	4	第35図	井戸 1596SE・1597SE・ 1598SE 遺構図	44
第4図	羽根遺跡調査前平面図	8	第36図	501SW 出土遺物 (1)	47
第5図	基本層序1 (A区南壁)	9	第37図	501SW 出土遺物 (2)	48
第6図	基本層序2 (B区中央トレンチ・C区南西壁)	10	第38図	502SU 出土遺物	49
第7図	旧宗桂寺基壇 001SB 遺構図 (1)	12	第39図	503SM 出土遺物 (1)	50
第8図	旧宗桂寺基壇 001SB 遺構図 (2)	13	第40図	503SM 出土遺物 (2)	51
第9図	竪穴建物 322SI 遺構図	14	第41図	A区 溝出土遺物	52
第10図	掘立柱建物 1024SB・1025SB・ 1026SB・1027SB 遺構図	16	第42図	B区 溝出土遺物	53
第11図	掘立柱建物 1028SB・1595SB 遺構図	17	第43図	764SD 出土遺物	55
第12図	溝 031SD・034SD 遺構図	18	第44図	C区 溝出土遺物	56
第13図	溝 048SD 遺構図	19	第45図	1352SK 出土遺物	57
第14図	溝 051SD・060SD・240SD・ 243SD・244SD 遺構図	21	第46図	土坑出土遺物 (1)	59
第15図	溝 051SD 遺構図	22	第47図	土坑出土遺物 (2)	60
第16図	石組み 052SS・溝 053SD 遺構図	23	第48図	SX等出土遺物	61
第17図	溝 070SD 遺構図	24	第49図	柱穴等出土遺物	63
第18図	溝 246SD・386SD 遺構図	25	第50図	包含層掘削・検出時出土遺物	64
第19図	土坑 239SX・ 溝 381SD・325SD・380SD 遺構図	26	第51図	出土銭貨	66
第20図	溝 1201SD・1256SD・1341SD・ 1580SD 遺構図	27	第52図	金属製品	67
第21図	溝 1341SD 遺構図	28	第53図	鍛冶関連遺物	67
第22図	溝 1385SD・1385SD (下層) 遺構図	29	第54図	木製品	68
第23図	溝 1412SD・1648SD 遺構図	30	第55図	石塔類 (1)	70
第24図	石垣 501SW 遺構図	31	第56図	石塔類 (2)	71
第25図	石垣 510SW・ 盛り土 503SM 遺構図	32	第57図	石塔類 (3)	72
第26図	盛り土 503SM 遺構図	33	第58図	石塔類 (4)	73
第27図	土坑 205SK・206SX・247SK・ 248SK 遺構図	34	第59図	石塔類 (5)	74
第28図	土坑 256SP・257SP 遺構図	35	第60図	石塔類 (6)	75
第29図	土坑 643SK・644SK・884SK・ 950SK 遺構図	37	第61図	石塔類 (7)	76
第30図	土坑 1358SK・1500SK 遺構図	38	第62図	石塔類 (8)	77
第31図	土坑 828SK・829SK・1351SK・ 1527SK 遺構図	39	第63図	石塔類接合事例	77
第32図	土坑 1539SK・炉跡 555SL 遺構図	40	第64図	石塔類以外の石器・石製品	78
			第65図	貝製品	79
			第66図	縄文時代に属すると考えられる石器	80
			第67図	羽根遺跡周辺の地質図	82
			第68図	羽根遺跡周辺の等高線図	82
			第69図	羽根遺跡主要遺構変遷図	87
			表1	測定試料及び処理	84
			表2	放射性炭素年代測定及び暦年校正の 結果	85

調査の概要

第1章 調査の概要

第1節 調査の経緯

羽根遺跡は、愛知県豊川市萩町に位置する遺跡である。本遺跡の調査はまず豊川市赤坂町から岡崎市大代町に至る県道大代音羽線のバイパス道路の建設工事が計画されたことに伴い平成19年度に愛知県教育委員会による遺跡の有無を確認する試掘調査が行われた。この結果当該地域に遺跡が存在することが認められたため、事前調査を愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じて委託を受けた（財）愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター

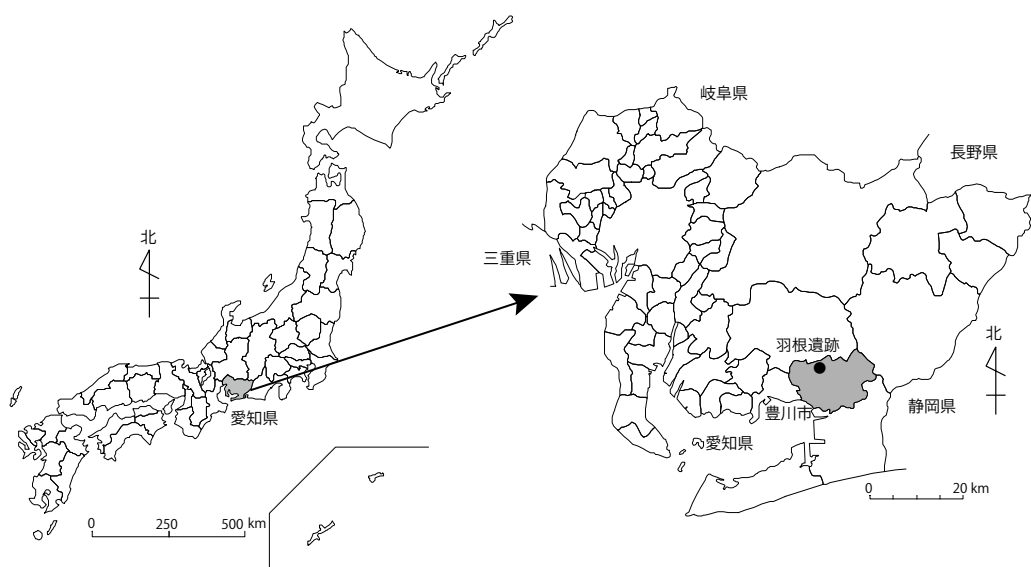
ターが実施した。調査期間は平成20年4月から平成20年9月であり、調査面積は4,100 m²であった。調査は全体をA・B・C・D・Eの5調査区に分けて実施した。

また、本書作成にかかる整理作業は平成20・21年度で実施した。1次整理はコンテナ60箱分の出土遺物の洗浄を発掘調査と併行して実施した。2次整理及び本書の執筆・編集作業を平成21年度に実施した。

第2節 立地と環境

羽根遺跡は、豊川市萩町羽根（旧宝飯郡音羽町萩）に所在し、山陰川に向かって傾斜をする丘陵北側斜面の裾部に北東から南西に向かって約200 mの範囲に広がっている遺跡で、標高は70～80 mを測る。北側中央付近から北東方向に向け山の尾根にあがる道が延びており、山は豊川市立萩小学校の自然観察の場として活用されていた。

当遺跡周辺では、丘陵尾根を挟んだ南側斜面末端には後期旧石器時代の良好な資料が出土した駒場遺跡や、東には古代の三河国分寺跡・国分尼寺跡が所在している。旧音羽町域では縄文時代の遺跡として毘沙門遺跡・堂ノ上遺跡・中林遺跡等があげられる。弥生時代の遺跡としては平山遺跡・毘沙門遺跡・岩手遺跡・城の越遺跡・上林遺跡等がある。古墳時代では東山古墳群・



第1図 羽根遺跡位置図

羽根遺跡

下林古墳・雨田古墳等が存在する。律令時代にはいるとこの付近は三河国宝飯郡宮道郷に属し、東海道の宮地駅家が置かれたと考えられている。この駅家はその後赤坂宿となり、江戸時代には東海道の宿場町として地域の中心となり栄えた。本遺跡の時期である中世から近世の萩の状況は、室町時代には熱田大宮司家の萩氏の支配をうけており、萩氏は幕府の奉公衆としても名を連ねていた。その後戦国の動乱期に入る

と萩は奥平氏の支配を受けた。江戸時代に入ると萩の支配は当初幕府領であったものが1698年(元禄11)には鍋島氏領に、その後1785年(天明5)に田沼氏領、1787年(天明7)に幕府領、1802年(享和2)以降は安藤氏領と変遷を重ねた。江戸時代の萩は東海道赤坂宿と密接に結びついており、赤坂宿の定助郷八か村の1つとして人馬役の負担等を負っていた。

第3節 調査の方法と経過

発掘調査は愛知県埋蔵文化財センターが東海アナース株式会社の支援を受け実施した。調査担当者は鈴木正貴・川添和暁・成瀬友弘である。東海アナースのスタッフは下記の通りである。

現場代理人：末次正法、調査補助員：古川久雄、測量技師：若林純也・山本真二、作業班長：西沢俊明、調査補助：松浦昭文・海原良二・早川晴生・竹中充、作業員：伊藤明生・伊藤正吾・伊藤真彦・岩田友一・上田敬子・太田研一・大場たか子・金子久雄・小林育子・小柳津あい子・田中愛子・田中博明・利根一元・鳥居和子・鳥居仙一郎・中尾敏彦・中尾ヨネ子・中田房子・夏目今朝松・野原寛・藤田正子・松本純子・松本直志・三輪淑子・森新八郎

調査区は便宜上、調査区を横切る沢を挟んで北側をA区、南側をB・C・D区、D区と道を挟んだ西側をE区に分けて実施し、A区→C区→Ab区(A区北への拡張部分)→B区→D区→E区の順に行った。

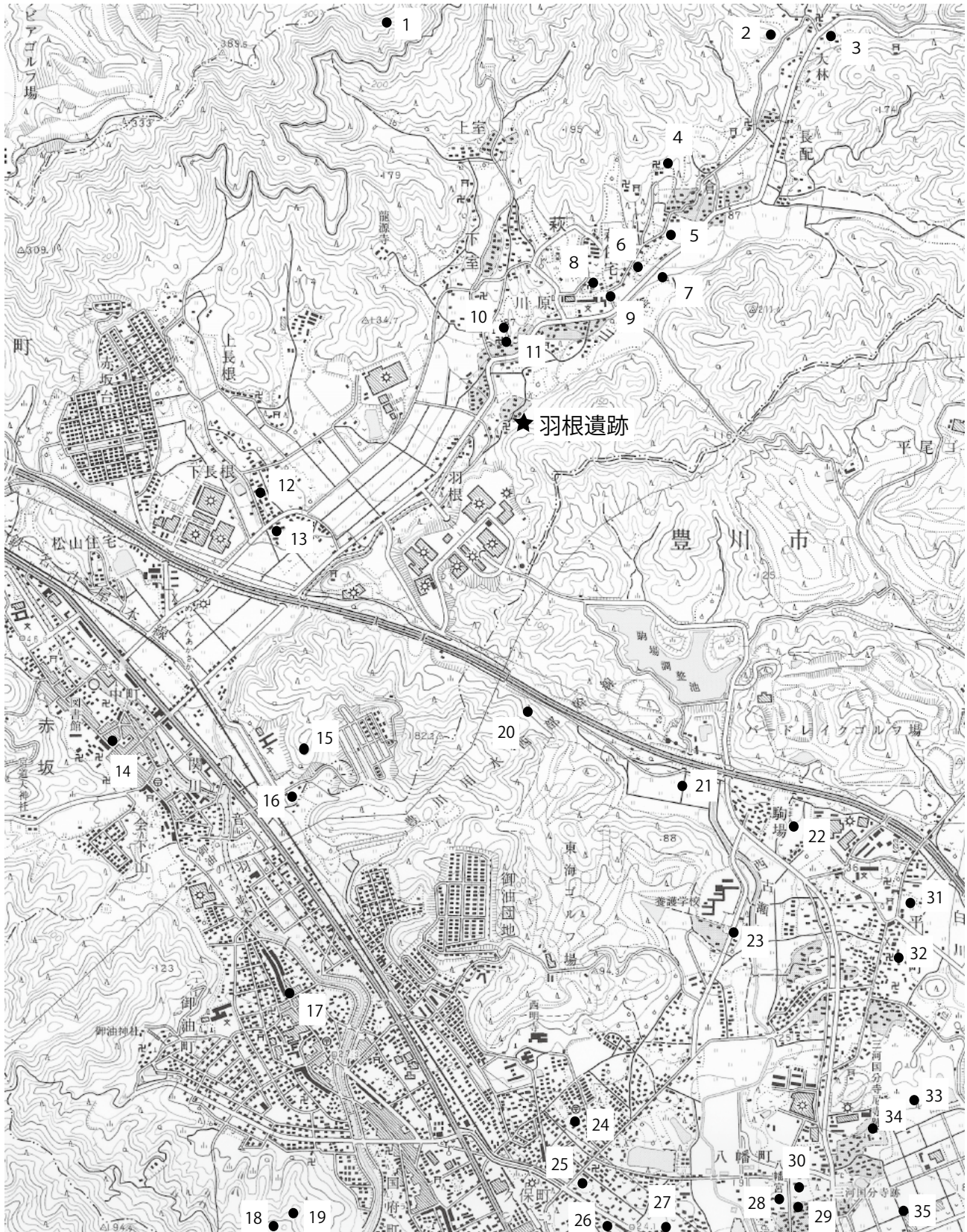
調査方法は、斜面地に遺跡が展開することもあり調査区の調査前地形測量を行った後、バックホウにより褐色砂質土等の表土を除去し、江戸時代の遺構面まで掘削した。遺構は最終的には、鎌倉時代、戦国時代、江戸時代の各時期の遺構が存在していたことが明らかになったが、遺跡全体を時代別に掘り分けることは困難で

結果的に江戸時代を中心とした遺構を第1面、鎌倉時代から戦国時代の遺構を第2面として調査を実施した。しかしこの区分は時期的なまとまりを保証するものでなく、上位から順に検出・掘削した便宜上の遺構面に過ぎない。

調査区は5mグリッドを設定し、遺物は原則このグリッドごとに取り上げている。土坑類は半裁掘削、溝等は土層観察用のベルトを残して掘削し、必要な記録を採取した後に全掘作業を行った。遺構の実測は電子平板による測量を実施し、成果品はすべてデジタルデータで作成した。写真は6×7リバーサルフィルムとデジタルカメラによる撮影を調査補助員古川久雄が行った。

平成20年8月9日には地元向け現地説明会を開催し、検出された遺構と出土した遺物について説明を行った。約90人の参加者があった。また、出土した遺物については現場で洗浄作業を実施し、その量は洗浄を終了した時点で27リットル入りコンテナで60箱に及ぶ。現地作業は平成11年9月1日に終了した。

整理・報告書作成印刷作業は平成21年度に成瀬が担当して弥富市の愛知県埋蔵文化財センターで実施した。遺物は整理補助員の協力を得て接合・選別作業を実施し、報告書に掲載する遺物については陶磁器・土器・金属製品等の実測・トレースは株式会社アコードに、石器につ



- 1 船岩遺跡 2 萩城跡 3 岩手遺跡 4 善住寺横穴古墳 5 中林遺跡 6 城の腰遺跡 7 城の腰城跡 8 堂ノ上遺跡 A 9 堂ノ上遺跡 10 雨田遺跡
 11 雨田古墳 12 上林遺跡 13 下林古墳 14 近世赤坂宿 15 東山5号古墳 16 東山遺跡 17 近世御油宿 18 国府第4号墳 19 国府第5号墳
 20 源祖遺跡 21 駒場遺跡 22 天間遺跡 23 門田遺跡 24 黒仏遺跡 25 船山第1号墳 26 久保古墳 27 白鳥遺跡 28 八幡村古城跡 29 三河国分寺跡
 30 本郷遺跡 31 平尾遺跡 32 中貝津遺跡 33 さんまい山古墓 34 三河国分尼寺跡 35 小柳遺跡

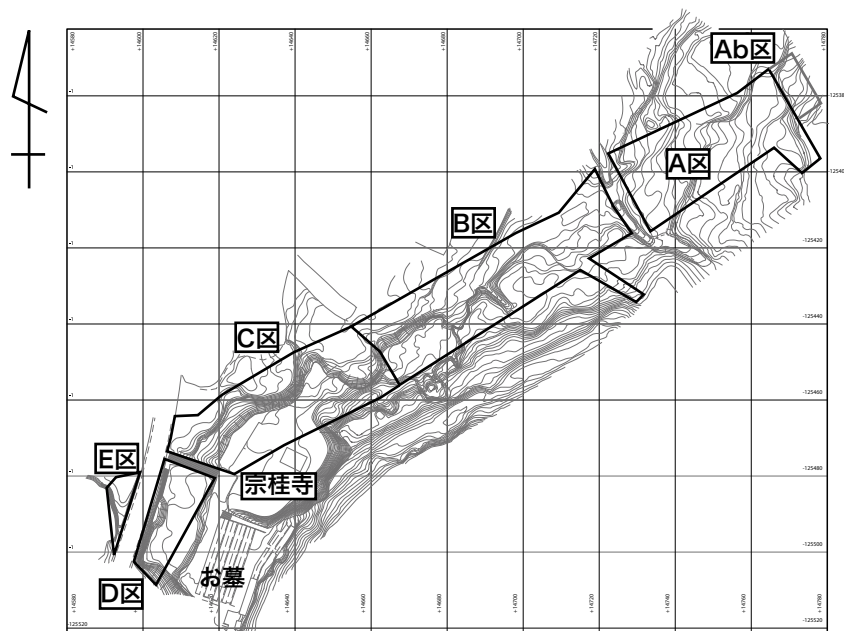
第2図 羽根遺跡周辺遺跡地図 1/25,000

羽根遺跡

いては川添が実測図作成を行い、実測補助・トレースを株式会社アルカに、遺物の写真撮影は写真工房遊に、樹種同定・放射性炭素年代測定を株式会社パレオ・ラボに、報告書編集作業は加藤建設株式会社に、報告書印刷作業はサンメッセ株式会社にそれぞれ作業を委託し行った。整理作業が終了した時点で、遺物は27リットル入りコンテナ75箱に整理され、愛知県に移管された。

調査日誌抄

- 3月28日(金)：東海アナースと現地で初顔合わせ。
- 4月7日(月)：東海アナースと現地で打ち合わせ。
- 4月14日(月)：東海アナースによるプレゼンテーション。
- 4月23日(木)：ラジコンヘリによる調査前地形測量を行う。
- 4月30日(木)：羽根詰所稼働。
- 5月7日(水)：A区表土掘削を開始。作業員を使いC区001SB（旧宗桂寺基壇）の精査。
- 5月8日(木)：A区壁トレンチの掘削開始。トレンチの状態から遺構の状況を確認、部分的に遺構面が2面になることが確認される。A区1面の遺構検出作業を開始。C区001SBの写真撮影・測量を行う。
- 5月19日(月)：A区1面遺構掘削作業を開始。
- 5月20日(火)：東海アナースと電子納品についての説明会。
- 5月22日(木)：県文化財保護室野口哲也、県埋文調査センター都築暢也・北村和宏、城ヶ谷和広来訪。
- 5月26日(月)：豊川市教委前田清彦・栗原将人・細井美那子来訪。
- 5月27日(火)：A区一面遺構清掃とローリングタワーでの写真撮影。
- 5月28日(水)：A区1面のラジコンヘリによる測量用写真・斜め写真撮影。A区1面補足調査開始。
- 5月30日(金)：C区001SB測量用写真撮影。
- 6月2日(月)：C区001SBトレンチ掘削開始。
- 6月5日(木)：C区表土掘削開始。



第3図 羽根遺跡調査区位置図 1/2,000

調査の概要

- 6月6日(木)：県埋文調査センター都築暢也来訪。
- 6月10日(火)：清水泰明・伊藤義幸・寺西孝生・城ヶ谷和広・鬼頭剛来訪。
- 6月11日(水)：C区1面遺構掘削作業開始。
- 6月13日(金)：501SW・石塔の廃棄が集中する502SUを確認。精査を開始。
- 6月17日(火)：県建設部・県埋文調査センターとの連絡会議。501SW・502SUの写真撮影。
- 6月18日(水)：堀木真美子による石垣・積み石等の石材の同定作業。調査前地形測量の補足を行う。鬼頭剛・永井邦仁・早野浩二来訪。
- 6月19日(木)：A区2面に向け重機での包含層掘削作業を開始。A区2面の遺構検出作業を開始。
- 6月24日(火)：A区2面遺構掘削作業を開始。県埋文調査センター都築暢也、東海アナース森繁男・矢田洋士来訪。
- 6月28日(土)：A区2面遺構清掃とラジコンヘリによる写真撮影。撮影後、遺構補足調査を開始。
- 6月30日(月)：東海アナースによる熱中症対策等の安全大会を開催。
- 7月4日(金)：A区補足調査（深掘り調査）を実施。鬼頭剛により土層サンプル採取。
- 7月7日(月)：豊川市教委前田清彦・細井美那子来訪。
- 7月8日(火)：A区埋め戻し作業開始。
- 7月9日(水)：C区1面の遺構清掃とラジコンヘリによる写真撮影。
- 7月10日(木)：C区1面遺構補足調査開始。
- 7月11日(金)：Ab区・B区1面の表土掘削を開始。
- 7月14日(月)：C区2面に向け人力による包含層掘削作業を開始。
- 7月15日(火)：Ab区遺構検出作業・掘削作業を開始。
- 7月16日(水)：Ab区遺構清掃と写真撮影。
- 7月22日(火)：Ab区補足調査（深掘り調査）を実施。鬼頭剛によりサンプル採取。埋め戻し作業も開始。B区1面遺構検出作業を開始・C区2面遺構検出・掘削作業を開始。
- 7月23日(水)：A区・Ab区埋め戻し作業終了。
- 7月24日(木)：C区2面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。撮影後補足調査を開始。C区埋め戻し作業開始。
- 7月25日(金)：B区1面遺構検出作業を開始。堀木真美子により積み石等の石材の同定作業を行う。中近世部会による遺跡検討会を行う。
- 7月29日(火)：B区1面遺構掘削作業を開始。
- 7月31日(木)：県教育・スポーツ振興財団監事視察。C区補足調査（深掘り調査）を実施。鬼頭剛によりサンプル採取。
- 8月1日(金)：B区1面遺構清掃と高所作業車による写真撮影。撮影後補足調査を開始。
- 8月4日(月)：B区2面に向け重機による包含層掘削開始。
- 8月5日(火)：B区2面遺構検出・掘削作業を開始。
- 8月6日(水)：D区表土掘削を開始。荒木集成館岩野見司、永井宏幸来訪。
- 8月7日(木)：B区2面遺構清掃とラジコンヘリによる写真撮影。現地説明会の準備開始。C区埋め戻し作業を終了。
- 8月9日(土)：地元向け現地説明会を開催。約90人参加。
- 8月11日(月)：B区2面補足調査を開始。
- 8月18日(月)：D区遺構検出作業を開始。E区表土掘削作業を開始。
- 8月19日(火)：県建設部・県埋文調査センターとの連絡会議。D区遺構掘削作業を開始。E区遺構検出・掘削作業を開始。
- 8月21日(木)：B区井戸断ち割り調査。B区埋め戻し作業を開始。ラジコンヘリによる

羽根遺跡

遺跡の遠景撮影。

- 8月26日(火)：D・E区遺構清掃とクレーンによる写真撮影。
- 8月27日(水)：D・E区埋め戻し作業を開始。
- 8月28日(木)：D・E区埋め戻し作業を終了。
- 8月29日(金)：B区埋め戻し作業を終了。
- 9月1日(月)：現場作業を終了。
- 9月5日(金)：業者評価委員会を開催。
- 9月8日(月)：センターへ一次整理後の出土遺物の搬入。
- 9月24日(水)：現場のすべての撤去作業が終了。
- 12月2日(火)：センターにて成果品の納品。

第2章 遺 構

第1節 調査前地形測量

羽根遺跡では、調査前より斜面地に小規模な平場が展開していることが確認できたため掘削作業に入る前に地形測量を実施した。(第4図) その結果、A区では山へ向かう道の両側に比較

的小規模な平場が数段確認され、それ以外の区域ではやや規模の大きい平場が展開していることが確認されたため、この平場を考慮に入れて調査を行うこととした。

第2節 基本層序

羽根遺跡における基本的な層序については場所によってやや異なるのでA区・B区・C区についてそれぞれ紹介した。

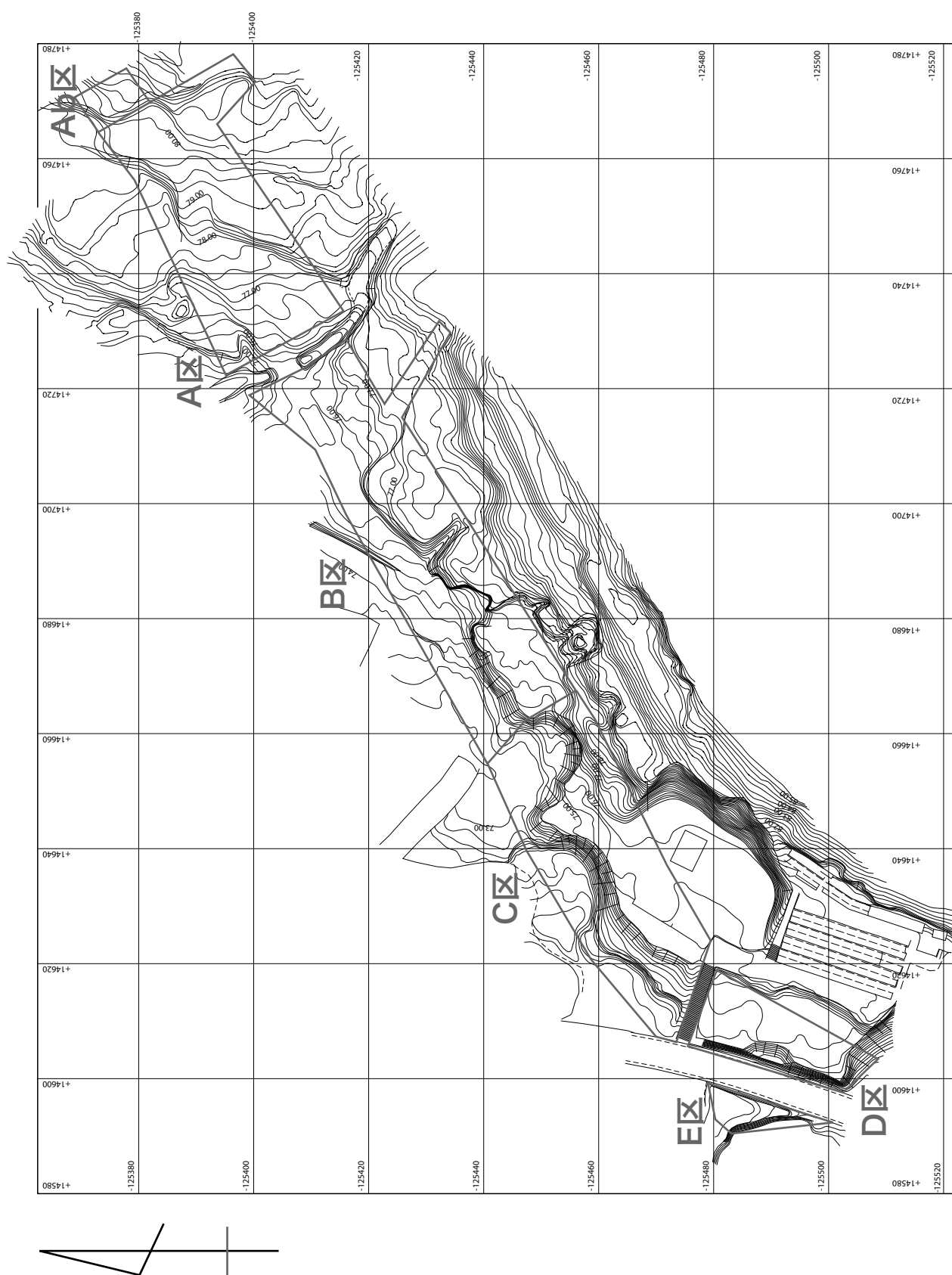
A区の基本層序をA区南壁断面図(第5図)で見ると、緩やかにB区との境にある沢の方向へ下る傾斜に平場を作り出すために黄褐色砂質土・褐色砂質土等により整地が行われ、段差が生まれた部分に石を積んで崩落を防止している。この平場の上に近世の遺構が展開している。整地土の下に褐色シルト(第5図79層・85層)黄褐色シルト(第5図80層)・灰黄褐色シルトの層(第5図81層)が堆積しており、この面に中世後半を中心とする遺構が展開すると考えられる。これらの層の下は土石流の堆積と推定される灰黄褐色礫層(第5図99層)がA区の広範囲に展開をしていた。

B区の基本層序をB区中央部トレンチ断面図(第6図上)で見ると、北西方向に緩やかに傾斜する地形を平場とするために整地が行われており、表土を除去した下の第1層は黒褐色シルトの層(第6図上図3層・4層)、第2層は黒色シルト(第6図上10層)、第3層は黒褐色シルト(第6図上13層・14層)と堆積している。このうち第1層は近代以降の整

地層、第2層が近世の遺構面、第3層は整地層と考えられる。B区では2段の平場が確認されたが、上段のA区に近い区域でのみ第3層の整地層が確認されたため上段の一部のみを2面調査とした。

C区の基本層序をC区南西壁断面図(第6図下)で見ると、A区・B区同様に北西方向に傾斜している地形に盛り土による整地を施し、平場を形成している。第1層はアスファルト・瓦を含む現代の堆積層(第6図下1～11層・14層・17・18層)、第2層(第6図下第1～26層)、第3層(第6図下29層～60層)の順に堆積している。堆積の状況や遺物などから、第2層は近世末から近代に最上段の平場を拡張した時の整地層、第3層は近世初頭の平場を造成時の整地層と考えられる。最下段の平場は地山である明褐色細砂質土(第6図下67層)・明褐色シルト(第6図下68層)を削平して作られており、遺構なども非常に希薄なことから第2層形成以降の削平と考えられる。こうしたことからC区については第3層が確認された最上段の平場のみ2面の調査とした。第3層上面で近世の遺構、第3層下面で中世後半の遺構が展開しているものと考えられる。

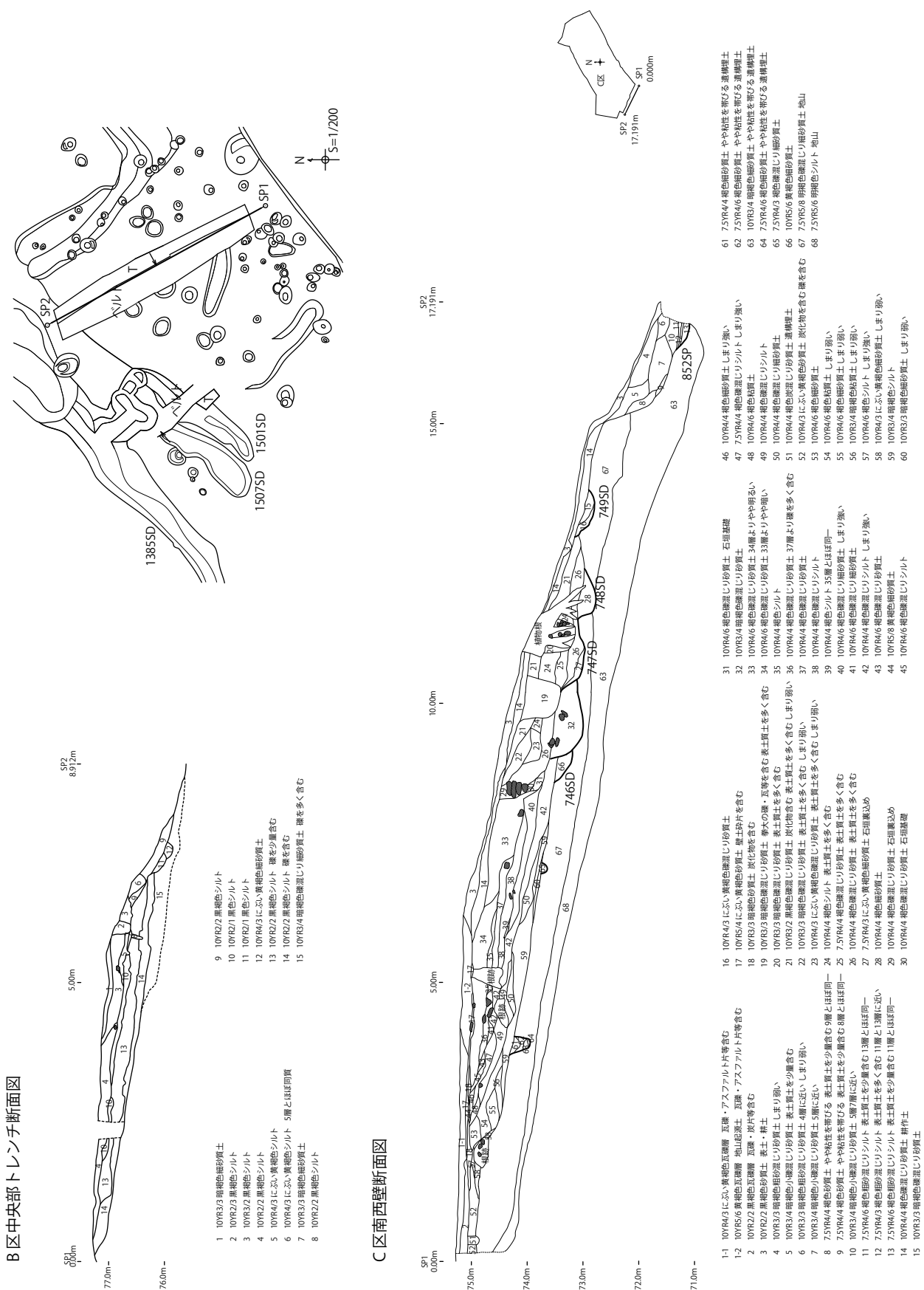
羽根遺跡



第4図 羽根遺跡調査前平面図 1/1,000

第5図 基本層序1 (A区南壁) 1/100

羽根遺跡



遺 構

第3節 遺 構

今回の調査で検出された遺構は約 1500 基であった。これらは前記で説明した各遺構面から掘削されたものと考えられるが、実際の調査では、精度に問題があるため、検出された遺構と遺構面がきちんと対応できる事例は限定されているのが現状である。本来は遺構面、時期別に記述を進めるべきであろうが、ここでは遺構の種類別に記述をしていきたい。

(1) 旧宗桂寺基壇 (001SB)

C 区には宗桂寺跡と呼ばれる部分が含まれていた。

まず宗桂寺であるが、その記録がほとんど残っていない寺院である。寛政年間の萩村絵図や文政年間以降の宗門人別御改帳にも記載はなく、わずかに明治 2 年、4 年の三河国宝飯郡村差出明細帳の萩村明細書上扣帳に禅宗の寺であり、萩地区にある曹洞宗龍源寺に関連する寺であると考えられる記録が残るのみである。明治 4 年の記録以後、この寺は廃寺となったと考えられ、その後羽根地区の人々の集会所としてこの場所が使用されてきた。調査前にあった建物自体は数十年前の建築物であったが、基壇については、旧宗桂寺からの可能性も考えられたため、表土掘削に入る前にこの基壇部分について調査を行った。

基壇 (第 7 図) は、9.40 m×9.26 m のほぼ正方形の平面形態を有し、周囲に石を積みおよそ 0.3 m の高さを形成していた。石材の中心は地元産の片麻岩である。概ね 30 cm 以下の石材が用いられているが、南西側のみやや大振りな石材が使われており明らかに他の部分とは積み方などに相違が見られることから作り替えられた可能性がある。断面 (第 8 図) を確認すると大きく 2 層あり上層が橙色シルト (基本層 A)、下層が褐色シルト (基本層 B) となっており、元々下層段階の基壇があったものを拡

張したものと考えられる。

遺物は、寛永通宝をはじめとする銭貨や将棋の駒、刀子・鉄釘、ツツジ属・マツ属の板材等が出土している。

(2) 建物跡 (竪穴建物・掘立柱建物)

建物関係では竪穴建物跡と思われる遺構は 1 棟、掘立柱建物跡と思われる遺構は 6 棟を確認した。

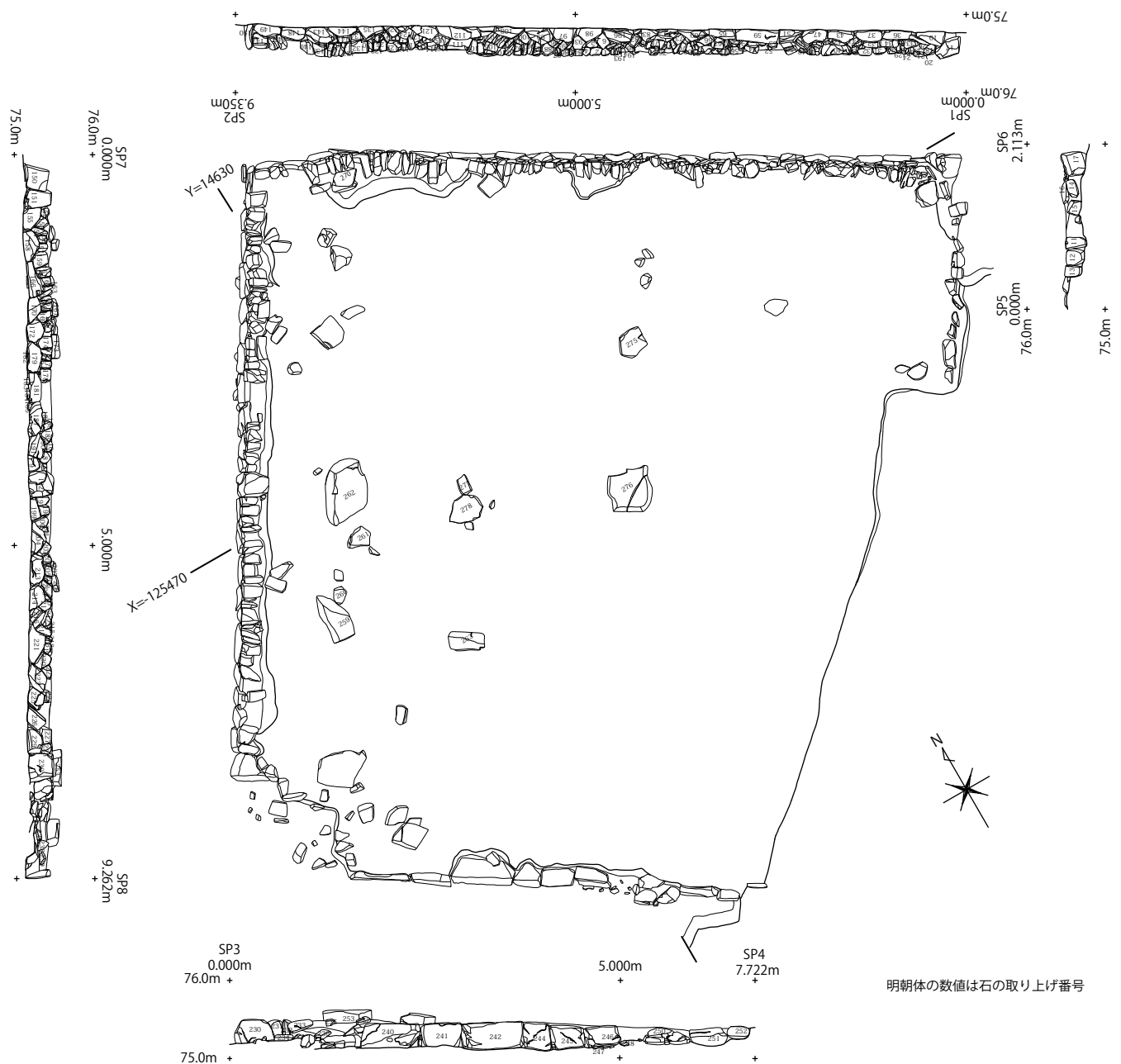
322SI (第 9 図) A 区中央部東よりにある竪穴建物跡で、検出段階で平面プランがはっきり確認できず整地層の確認のためのベルト断面でとらえられたものであるため残存状況はあまりよくない。平面形態は方形であったと推定されるが規模などは不明、深さは 40 cm を測る。床面は黒褐色シルトと地山の黄橙色シルト等のブロックで整地されている。遺物は出土しておらず、時期の特定は難しい。

1024SB (第 10 図) C 区南部の平場に位置する 1 面目で検出された 4 間×2 間の掘立柱建物である。規模は 6.56 m×3.44 m を測り、柱穴 612SP、620 SP、628SP、630SP、641SP、648SP、662 SP、667SP、671SP、689SP、693SP によって構成される。柱穴の掘形は楕円形を呈するものが多い。柱穴 628SP、630SP からは土師器鍋、柱穴 667 SP、671SP からは土師器皿が出土しているがいずれも小片であり、時期の特定は難しい。

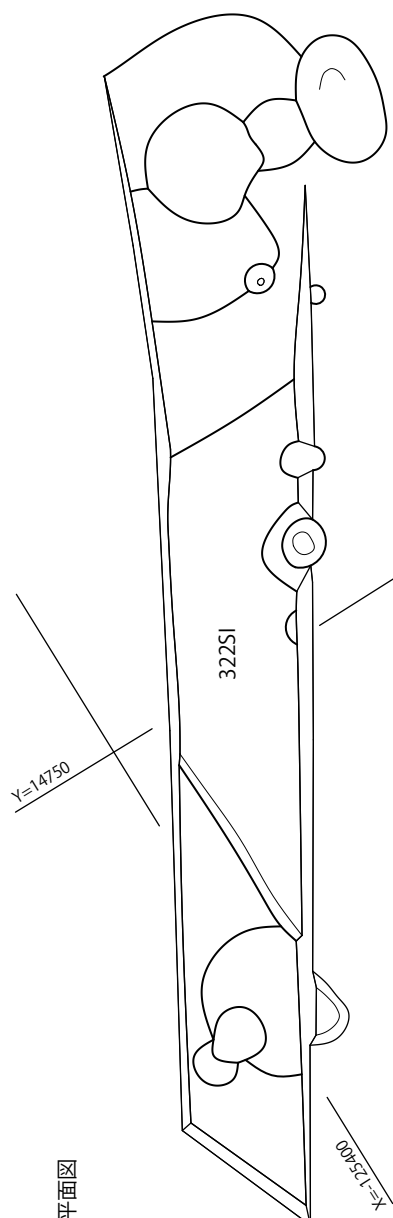
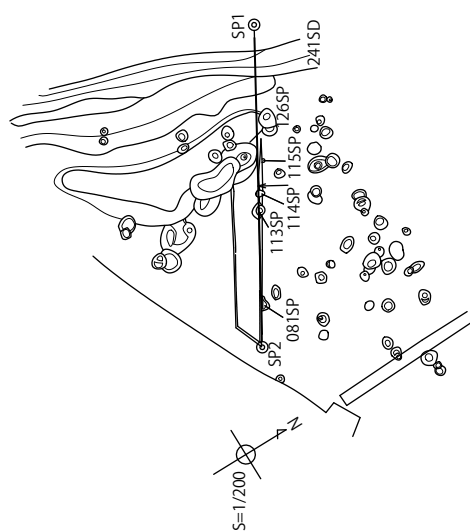
1025SB (第 10 図) C 区南部の平場に位置する 1 面目で検出された 1 間×3 間の掘立柱建物である。規模は 2.88 m×4.82 m を測り、柱穴 611SP、616 SP、619SP、627SP、634 SP、639SP、650 SP、657SP によって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多い。いずれの柱穴からも遺物は出土しておらず、時期の特定は難しい。

1026SB (第 10 図) C 区南部の平場に位置す

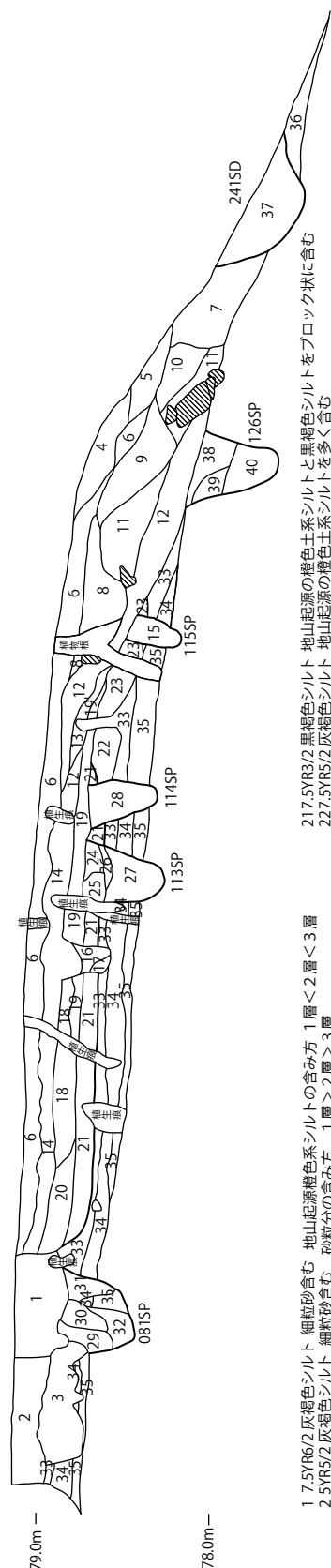
羽根遺跡



第7図 旧宗桂寺基壇 001SB 遺構図(1) 1/80



平面图



- | | | | | | | |
|----|----------|---------------|-------------------------|----------------|----------|--|
| 1 | 7.5YR6/2 | 灰褐色シルト | 細粒砂含む | 地山起源褐色系シルトの含み方 | 1層<2層<3層 | |
| 2 | 2.5YR5/2 | 灰褐色シルト | 細粒砂含む | 地山起源褐色系シルトの含み方 | 1層>2層>3層 | |
| 3 | 3.5YR6/3 | にぶい褐色シルト | 砂粒砂含む | 砂粒分の含み方 | 1層>2層>3層 | |
| 4 | 7.5YR5/2 | 灰褐色小礫混じりシルト | 木の根が多い | | | |
| 5 | 7.5YR4/2 | 灰褐色小礫混じりシルト | 木の根多い | | | |
| 6 | 7.5YR5/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 木の根多く、じまりは非常に弱い | | | |
| 7 | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | じまり弱い | | | |
| 8 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 砂を含む | | | |
| 9 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 砂を含む | | | |
| 10 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 砂粒砂少ない | | | |
| 11 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 砂粒砂少ない、若干の炭化物を含む | | | |
| 12 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | じまり強い、炭化物含む | | | |
| 13 | 3.5YR7/6 | 褐色シルト | 砂粒砂少ない、炭化物含む | | | |
| 14 | 3.5YR7/6 | 褐色シルト | 砂粒砂少ない | | | |
| 15 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 6層に近いが褐色シルトの含み方が少ない | | | |
| 16 | 7.5YR4/2 | 灰褐色砂混じりシルト | 砂粒砂少ない | | | |
| 17 | 7.5YR5/1 | 相灰褐色シルト | 砂粒砂含む | | | |
| 18 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色シルト | 砂を含む | | | |
| 19 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色シルト | 砂を含む | | | |
| 20 | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 地山起源の褐色土系シルトの極小ブロックを含む | | | |
| 21 | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 小礫混じる | | | |
| 22 | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 小礫混じる | | | |
| 23 | 7.5YR4/2 | 灰褐色シルト | 小礫混じる | | | |
| 24 | 10YR4/1 | 相灰褐色シルト | 地山起源の褐色土系シルトの極小ブロックを含む | | | |
| 25 | 10YR4/1 | 相灰褐色シルト | 地山起源の褐色土系シルトの極小ブロックを含む | | | |
| 26 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色砂混じりシルト | 地山起源の褐色土系シルトをブロック状に多く含む | | | |
| 27 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色砂混じりシルト | 地山起源の褐色土系シルトをブロック状に多く含む | | | |
| 28 | 10YR6/3 | にぶい黄褐色シルト | 地山起源の褐色土系シルトを多量に含む | | | |
| 29 | 7.5YR5/1 | 相灰褐色結實シルト | 地山起源の褐色土系シルトを多量に含む | | | |
| 30 | 7.5YR5/2 | 灰褐色結實シルト | 地山起源の褐色土系シルトを多量に含む | | | |
| 31 | 7.5YR5/3 | にぶい褐色結實シルト | 地山起源の褐色土系シルトを少量含む | | | |
| 32 | 7.5YR4/2 | 灰褐色結實シルト | 地山起源の褐色土系シルトを少量含む | | | |
| 33 | 7.5YR7/6 | 褐色シルト | 粘土質、砂粒少ない、地山 | | | |
| 34 | 7.5YR6/6 | 褐色シルト | 粘土質、砂粒少ない、地山 | | | |
| 35 | 7.5YR5/6 | 明黄褐色シルト | 粘土質、砂粒少ない、地山 | | | |
| 36 | 10YR7/6 | 明黄褐色砂混じりシルト | 拳大以上の礫を多量に含む | | | |
| 37 | 7.5YR5/1 | 相灰褐色砂混じりシルト | 植物根多い | | | |
| 38 | 10YR4/2 | 灰黄褐色シルト | | | | |
| 39 | 10YR3/3 | 暗褐色シルト | | | | |
| 40 | 10YR3/4 | 暗褐色シルト | | | | |

遺 構

る1面目で検出された1間×2間の掘立柱建物である。規模は1.84 m×2.88 mを測り、柱穴557SP、580 SP、592SP、593SP、600 SPによって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多い。柱穴600SPから土師器皿の小片が出土しているが、時期の特定は難しい。

1027SB（第10図） C区南西よりに位置する1面目で検出された3間×2間の掘立柱建物である。規模は4.56 m×4.08 mを測り、柱穴547SP、551 SP、561SP、576SK、582SP、587SP、603 SP、609SP、625SPによって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多い。柱穴547SPからは土師器皿、柱穴551SPからは肥前系陶器、土師器皿、土坑576SKからは土師器鍋・皿、鉄釘などが出土しているが、いずれも小片であり、時期の特定は難しい。

1028SB（第11図） C区南部の平場に位置する1面目で検出された掘立柱建物である。一部が調査区外にあるため明確な規模は定かではないが確認できる範囲で7.04 m×4.72 mを測り、土坑536SK、540SK、573SK、590 SK、605SK、606SK、623SK、によって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多い。土坑536SKからは古瀬戸小片、鉄製の包丁片、洪武通宝、土坑540SKからは土師器皿、土坑590SKからは土師器鍋、祖母懷壺など、土坑606SKからは播鉢が出土しているが、いずれも小片で詳細な時期は不明であるが15世紀後半であろうか。

C区では、これらの建物の柱穴付近には数多くの柱穴があり、数度の立て替えが行われていた可能性が考えられる。

1595SB（第11図） B区北部の平場に位置する2面目で検出された3間×1間の掘立柱建物である。規模は7.45 m×3.75 mを測り、柱穴1298SP、1307SP、1314SP、1316SP、1334SP、1419SP、1573SPによって構成される。柱穴の掘形は円形を呈するものが多い。柱穴1314SPからは土師器皿の小片が出土している。

(3) 溝

溝については、平場を構成する段差のすぐ下を平場を区画するように巡るものを中心であり、一部に石組みを持つものや暗渠と考えられるものもある。使用されている石材のほとんどは片麻岩であった。

031SD（第12図） A区1面目で検出された最上段の平場端部にあり道406SFに沿って屈曲する溝である。規模は幅0.8 m、深さ0.2 mを測る。平場端部を巡る溝で確認されたのはこれのみである。034SDを切っていることから18世紀以降と考えられる。

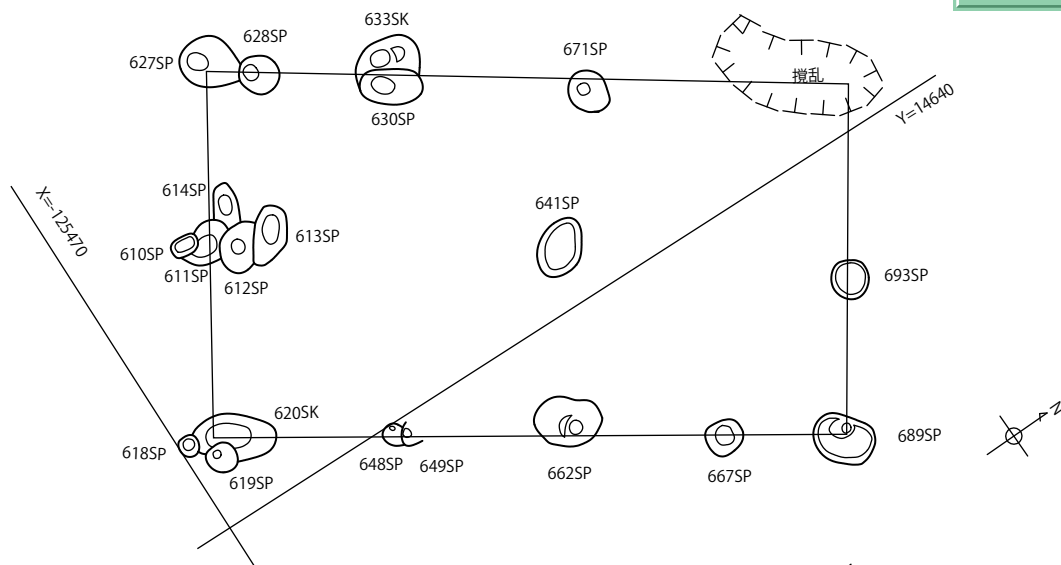
034SD（第12図） A区1面目で検出された031SDのある平場から一段下の平場を巡る溝である。規模は幅1.10 m、深さ0.27 mを測る。美濃窯産登窯第6小期の陶器等を含むことから17世紀末から18世紀初頭と考えられる。

048SD（第13図） A区1面目で検出された溝034SDのある平場からさらに一段下の平場を巡る溝である。規模は幅0.9 m、深さ0.24 mを測る。406 SFと接する部分で幅が細くなり、崩落防止のための石組みが4 m程度施されていることからこの部分が平場への出入り口となっていたと考えられる。また、この先は一段下の051SDとつながっている。瀬戸窯産登窯第8小期の陶器まで含まれることから18世紀と考えられる。

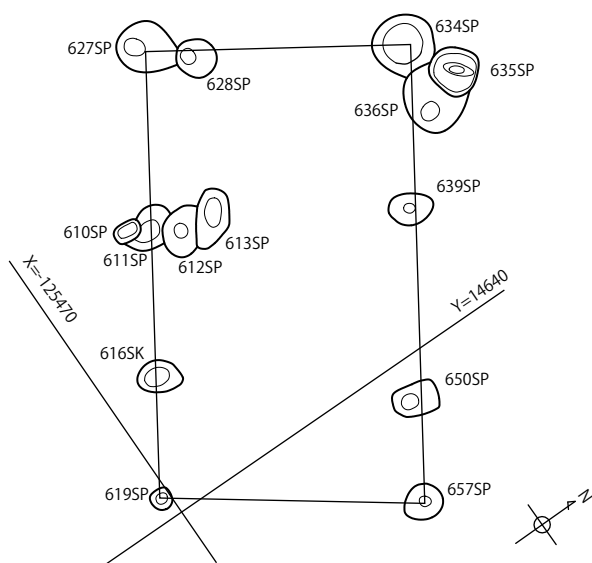
051SD（第14図・第15図） A区1面目で検出された溝048SDのある平場からさらに一段下の平場を巡る溝である。規模は幅0.8 m、深さ0.2 mを測る。048 SDと接続する部分と道406SFとの比高差が大きくなる部分に石組みがみられる。瀬戸・美濃窯産登窯第6小期の陶器などが含まれることから17世紀末から18世紀と考えられる。

053SD（第16図） A区1面目で検出された406SF南にある最下段の平場を巡る溝である。規模は幅1.3 m、深さ0.15 mを測る。上段の平場との段差側にのみ石組み（052SS）がある。

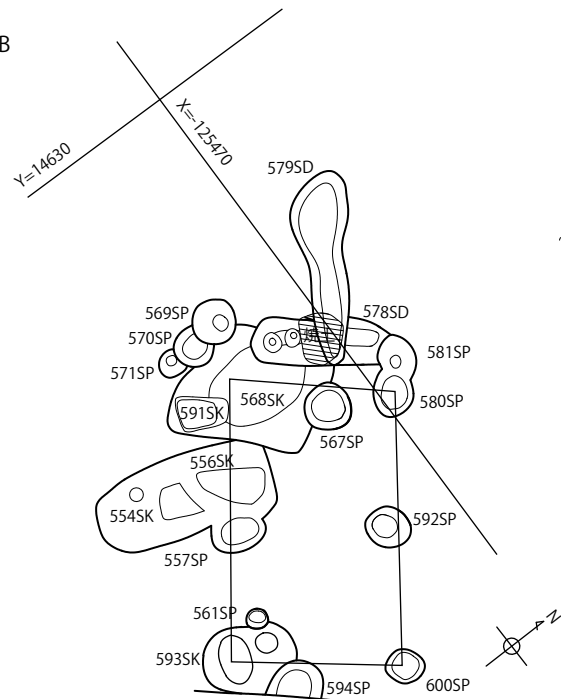
1024SB



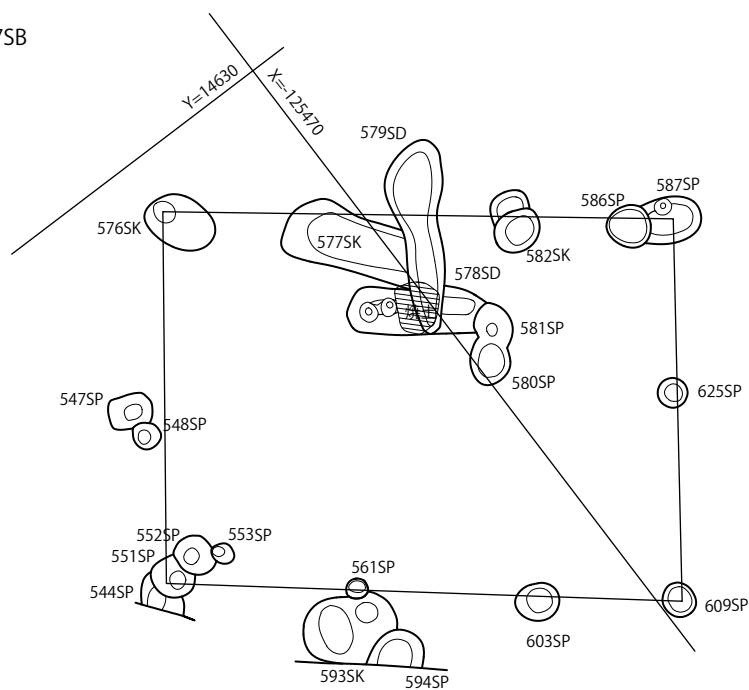
1025SB



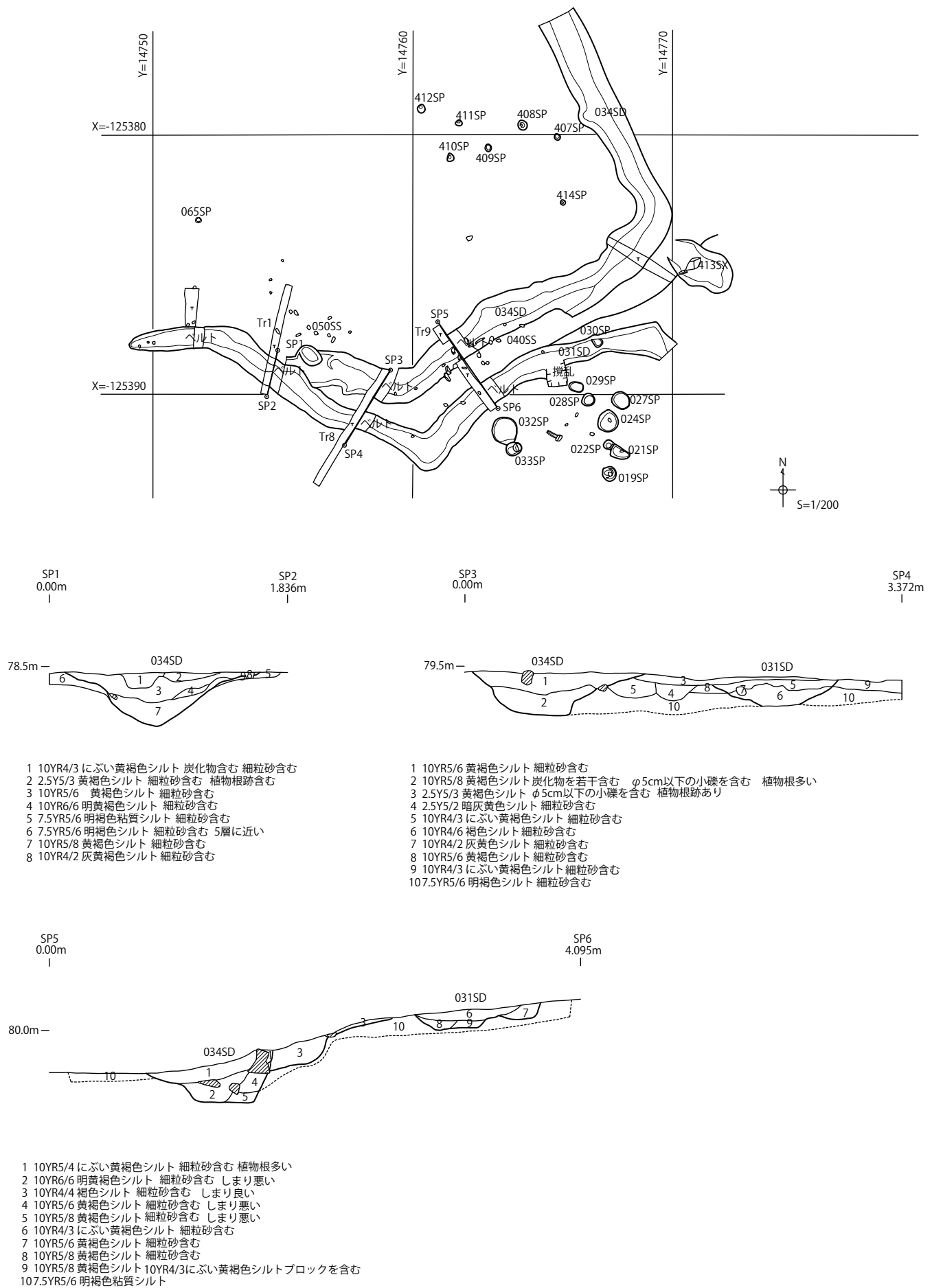
1026SB



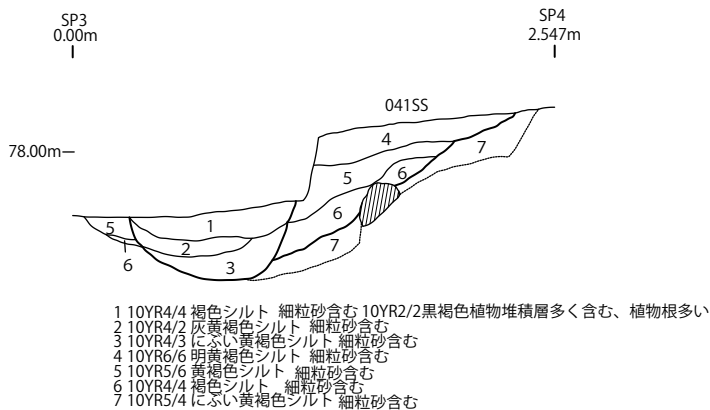
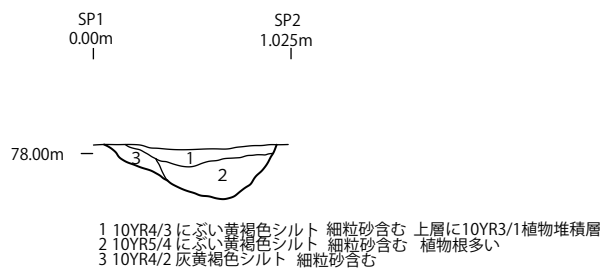
1027SB



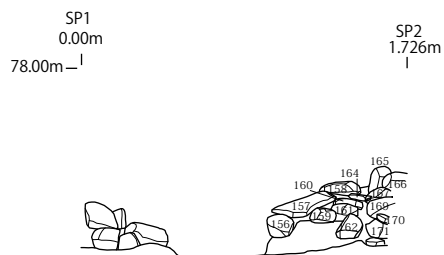
第 10 図 掘立柱建物 1024SB・1025SB・1026SB・1027SB 遺構図 1/80



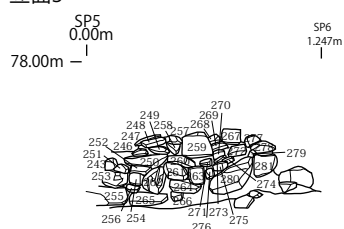
第 12 図 溝 031SD・034SD 遺構図 1/40



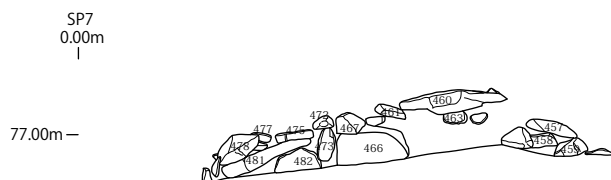
立面1



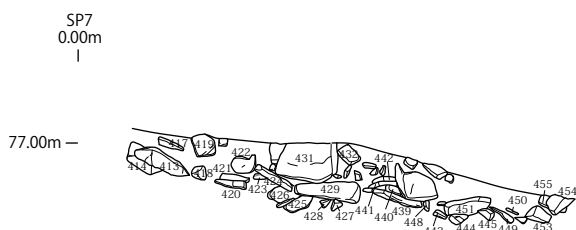
立面3



立面4



立面5



明朝体の数値は石の取り上げ番号

第13図 溝048SD遺構図 1/40

羽根遺跡

上段の平場との比高差は0.2 m程であるが沢に近く地盤が軟質であるため土留めとして築かれたものとする。古瀬戸後期IV段階の遺物なども含まれるが、周辺の以降の状況などから18世紀であろうか。

060SD（第14図） A区1面で検出された406SFの南側に沿って走る溝である。規模は幅0.54 m、深さ0.24 mを測る。053SDを切っていることから18世紀以降の溝と考えられる。

070SD（第17図） A区1面で検出された053SDのある平場の上段に位置する平場の中央やや北よりにある溝である。規模は長さ4.0 m、幅0.3 m、深さ0.15 mを測る。溝の中に礫が充填されており暗渠として機能していたと考えられる。遺物はわずかであり時期は不明であるが053SDの屈曲部に接続していた可能性があることから同時期に存在していたと考えられることから18世紀であろうか。

240SD（第14図） A区2面で検出された406SFの北側に沿って走る溝である。規模は幅0.6 m、深さ0.20 mを測る。埋土の状況から、060SDに先行する溝であると考えられる。

241SD（第9図） A区2面中央で平場を区画するようにL字に検出された溝である。規模は幅0.9 m、深さ0.2 mを測る。406SFなどに先行することから17世紀以前であろう。

243SD（第14図） A区2面で検出された051SDに切れつつ併行して走る溝である。規模は幅0.75 m、深さ0.2 mを測る。051SDに切られていることから17世紀末以前であろう。

244SD（第14図） A区2面東端で検出された溝である。規模は幅1.7 m、深さ0.35 mを測る。瀬戸・美濃窯産登窯第3もしくは第4小期の陶器等を含むことから17世紀半ばから後半と考えられる。

246SD（第18図） A区2面西よりで検出された溝である。規模は幅1.22 m、深さ0.18 mを測る。北東側にのみ石組みが確認されている。

240SDに切られることからそれ以前であると考えられるが時期は不明である。

325SD（第19図） A区2面東よりで平場を区画するようにL字に検出された溝である。規模は幅1.54 m、深さ0.21 mを測る。時期は不明であるが241SDと同時期に存在したと考えられることから17世紀以前であろう。

381SD（第18図） A区2面南端で検出された溝である。規模は幅1.42 m、深さ0.27 mを測る。詳細な時期は不明であるが053SDに切られることから18世紀以前であろう。

386SD（第18図） A区2面北よりで検出された溝で部分的に石組みがある。規模は幅0.95 m、深さ0.15 mを測る。時期は17世紀前半と考えられる206SXに切られていることからそれ以前であろう。

746SD（第25図） C区1面中段の平場で検出された溝である。規模は幅0.8 m、深さ0.2 mを測る。瀬戸・美濃窯産登窯第2から第8小期の陶器が含まれており、18世紀と考えられる。

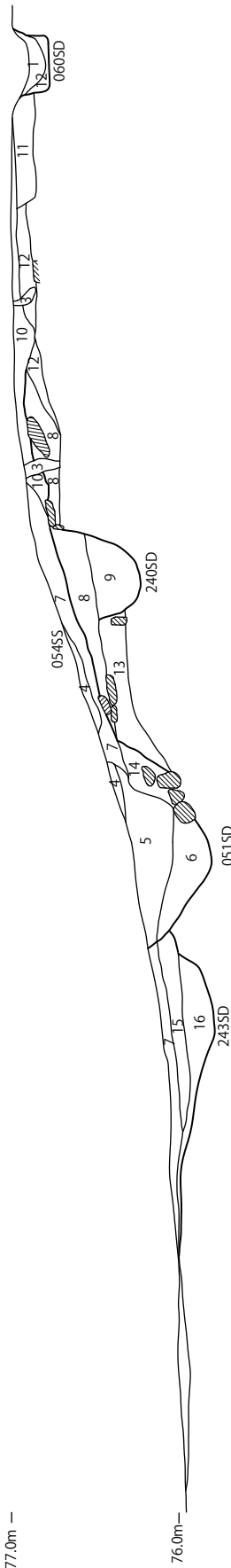
769SD（第25図） C区1面中段の平場で検出された溝である。規模は幅2.7 m、深さ0.47 mを測る。瀬戸・美濃窯産登窯第1から第5小期の陶器が含まれているが、501SWに一部切られていることなどから16世紀後半には存在し、17世紀以降も利用されていたと考えられる。

1201SD（第20図） B区1面中央東よりでL字に検出された溝である。規模は幅0.7 m、深さ0.05 mを測る。時期の詳細は不明であるが1256SDを切っていることから18世紀と考えられる。

1256SD（第20図） B区2面中央東よりでL字に検出された溝である。規模は幅1.80 m、深さは0.2 mを測る。瀬戸・美濃窯産登窯第5から第7小期の陶器を含むことから17世紀半ばから18世紀初めと考えられる。

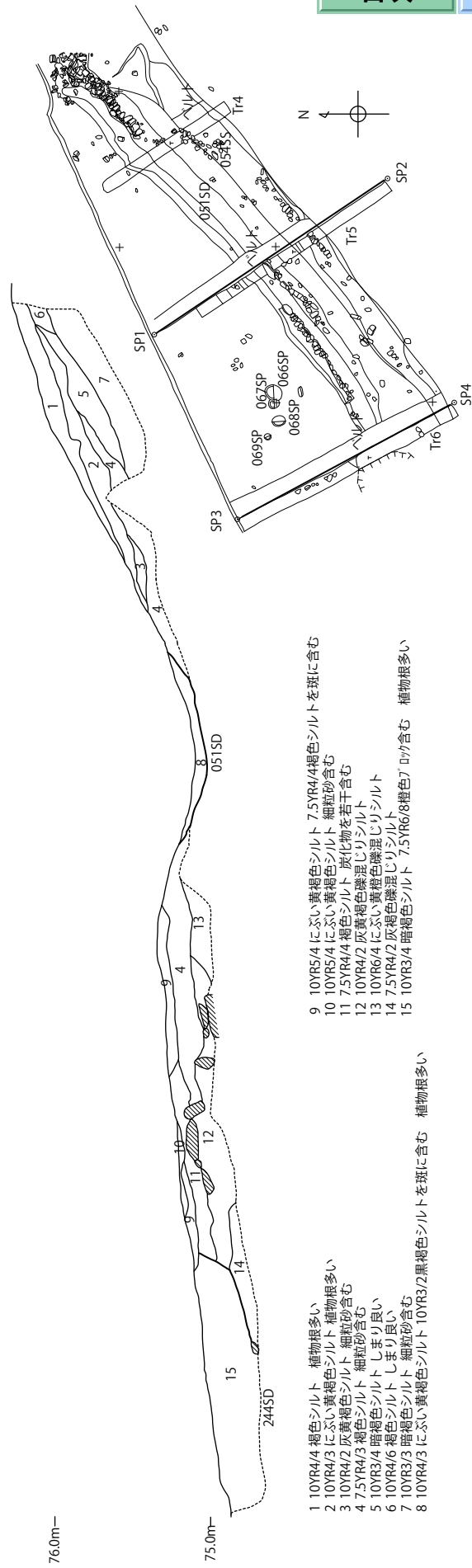
1341SD（第20図・第21図） C区2面中央西よりで検出された溝である。一部に石組みが確認されている。規模は幅1.2 m、深さ0.2 m

SP1
0.00m
77.0m
5.00m
SP2
8.991m
76.0m



- 1 10YR4/2 灰黄褐色シルト 黒褐色植物堆積層多く含む 植物根多い
 2 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト
 3 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト
 4 10YR5/3 にぶい黄褐色シルト
 5 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 10YR4/1 褐灰色シルトブロックを含む
 6 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 7.5YR5/6 明赤褐色シルトブロックを多く含む
 7 10YR6/6 明黄褐色シルト 5YR3/2 暗赤褐色シルトブロックを含む 植物根多い
 8 10YR4/4 褐色シルト
 9 10YR3/3 暗褐色シルト 炭化物を若干含む
 10 10YR5/6 黄褐色シルト
 11 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 10YR4/4 褐色ブロックを斑に含む
 12 2.5Y5/4 黄褐色シルト
 13 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 礫を含む
 14 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト
 15 10YR6/4 にぶい黄褐色シルト
 16 2.5Y6/6 明黄褐色シルト

SP3
0.00m
76.0m
5.00m
SP4
7.895m
75.0m

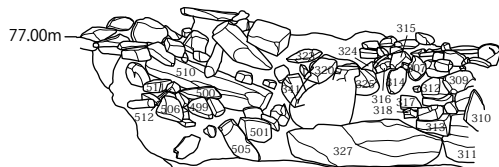


- 1 10YR4/4 褐色シルト 植物根多い
 2 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 植物根多い
 3 10YR4/2 灰黄褐色シルト 細粒砂含む
 4 7.5YR4/2 褐色シルト 炭化物を若干含む
 5 10YR3/4 暗褐色シルト しまり良い
 6 10YR4/6 褐色シルト しまり良い
 7 10YR3/3 暗褐色シルト 細粒砂含む
 8 10YR4/3 にぶい黄褐色シルト 10YR3/2 黒褐色シルトを斑に含む 植物根多い
 9 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 7.5YR4/4 褐色シルトを斑に含む
 10 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト 細粒砂含む
 11 7.5YR4/4 褐色シルト 炭化物を若干含む
 12 10YR4/2 灰黄褐色礫混じりシルト
 13 10YR6/4 にぶい黄褐色礫混じりシルト
 14 7.5YR4/2 灰褐色礫混じりシルト
 15 10YR3/4 暗褐色シルト 7.5YR6/8 褐色に含む 植物根多い

第 14 図 溝 051SD・060SD・240SD・243SD・244SD 遺構図 1/40

羽根遺跡

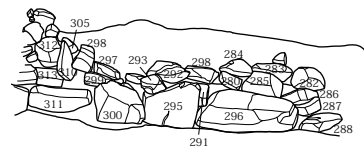
立面 1

SP1
0.00m
|SP2
2.248m
|

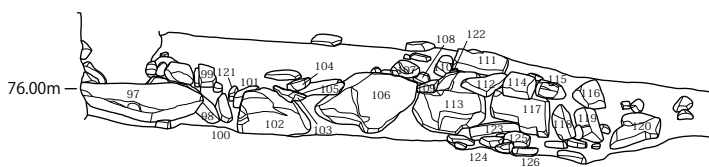
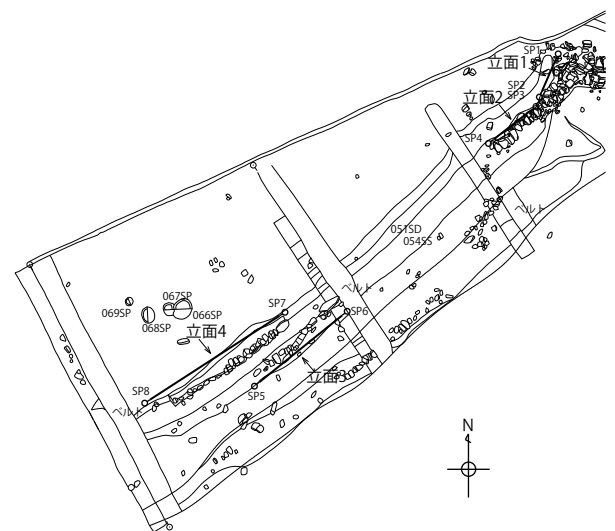
立面 2

SP3
0.00m
|SP4
1.924m
|

77.00m —



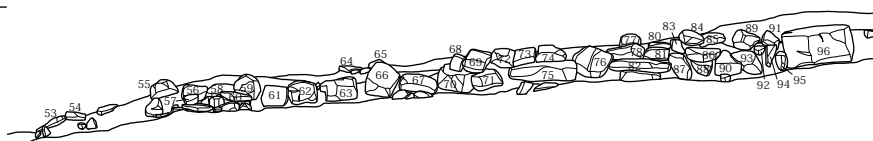
立面3

SP11
0.00m
|SP6
3.386m
|

立面4

SP7
0.00m
|SP8
4.642m
|

76.00m —

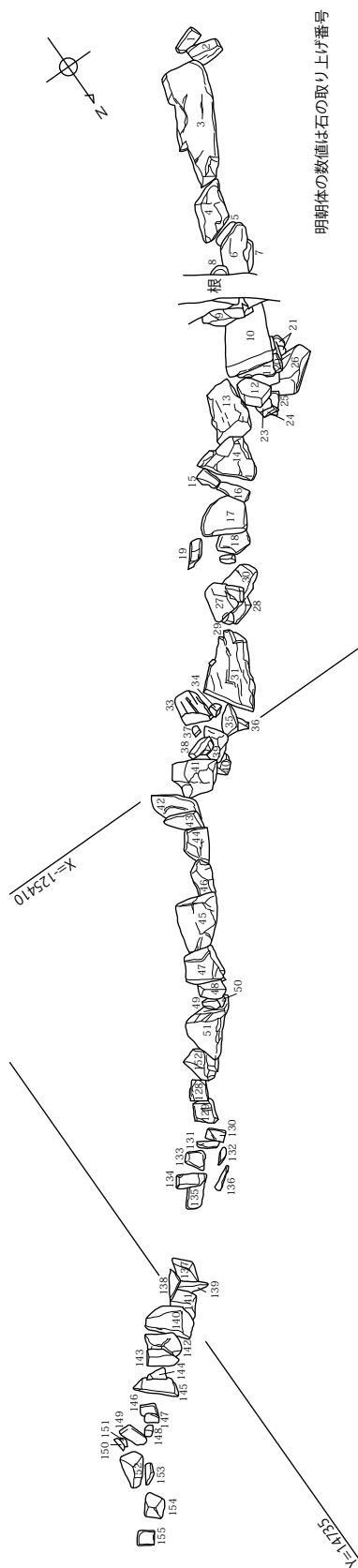


明朝体の数値は石の取り上げ番号

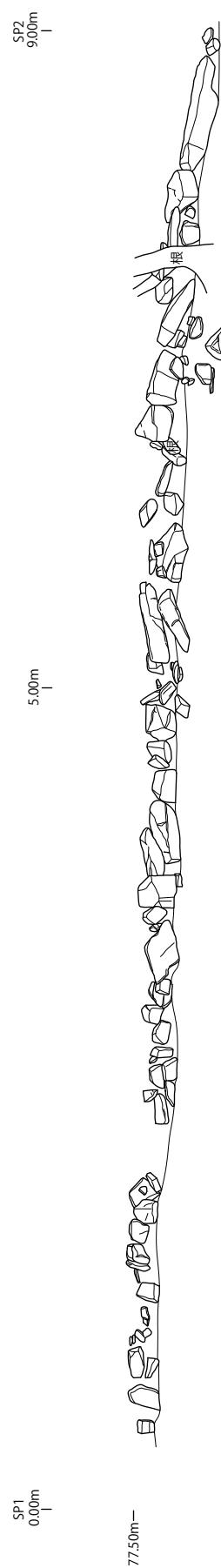
第 15 図 溝 051SD 遺構図 1/40

052SS

平面図

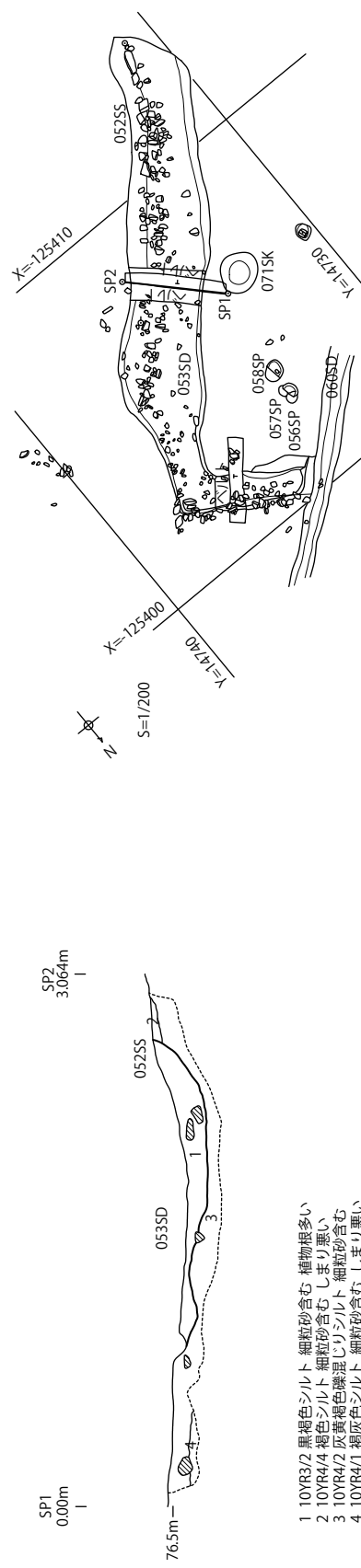


立面図

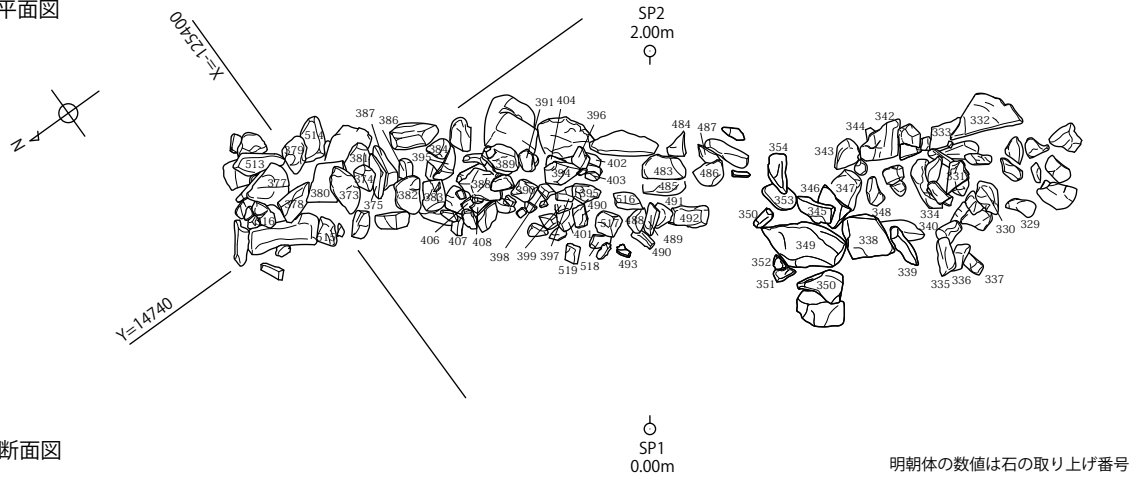


第 16 図 石組み 052SS・溝 053DD 遺構図 1/40

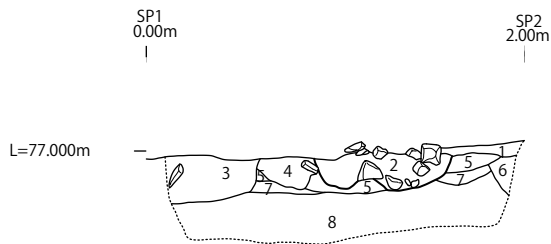
遺 構



- 1 10YR3/2 黒褐色シルト 細粒砂含む 植物根多い
- 2 10YR4/4 褐色シルト 細粒砂含む しまり悪い
- 3 10YR4/2 灰黄褐色礫混じりシルト 細粒砂含む
- 4 10YR4/1 褐灰色シルト 細粒砂含む しまり悪い

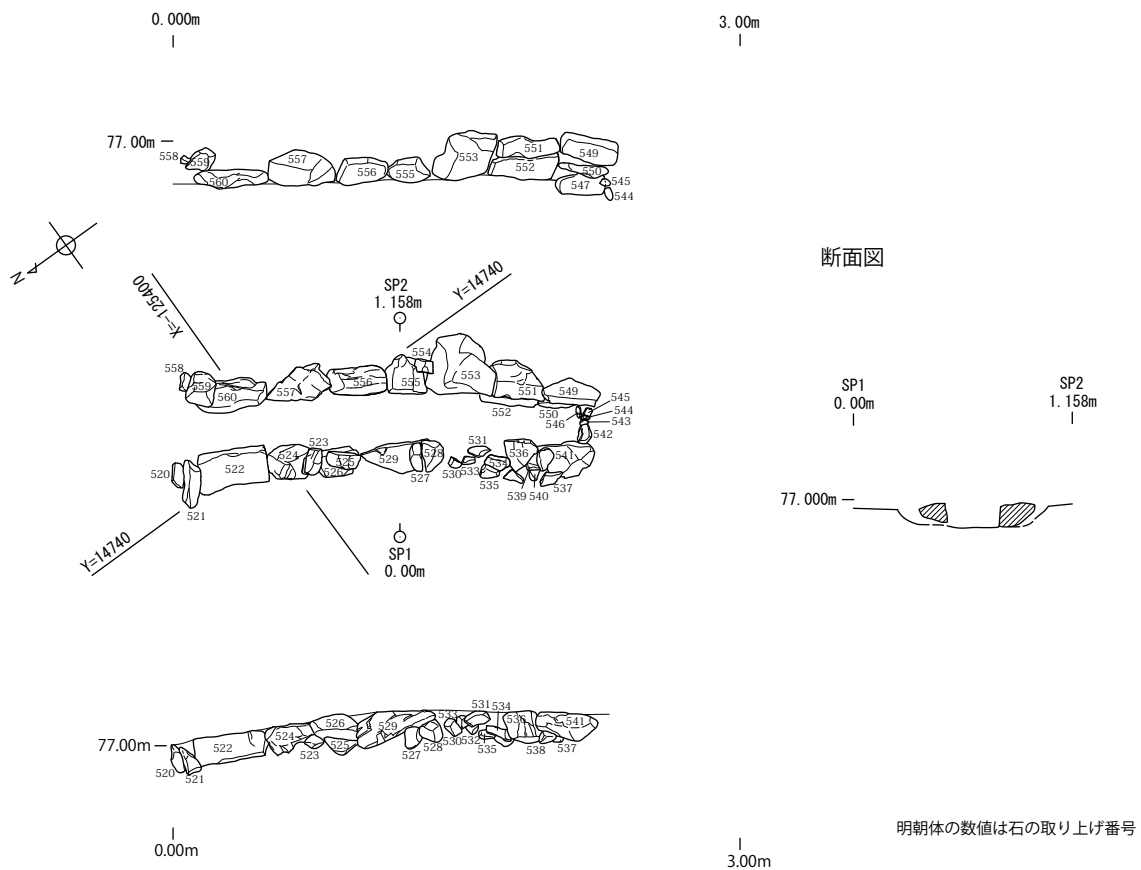
070SD 上層
平面図

断面図



- | | |
|-----------------------|-------------------------|
| 1 10YR4/1 褐灰色シルト | 粗砂混じる |
| 2 10YR6/1 褐灰色シルト | 小礫混じる・石組内と外との差はあまり見られない |
| | 最下部は均質な細粒シルト・水成堆積か |
| 3 10YR6/2 灰黄褐色シルト | 上部は拳大の礫を多く含む |
| 4 7.5YR6/3にぶい褐色シルト | 小礫混じる |
| 5 2.5Y6/1 黄灰色シルト | 少量の小礫含む |
| 6 7.5YR6/1 褐灰色シルト | 礫をほとんど含まない・均質なシルト |
| 7 10YR6/1 褐灰色小礫混じり砂 | |
| 8 10YR6/3 にぶい黄橙色礫混じり砂 | φ5cm程度以下の礫を多量に含む・地山 |

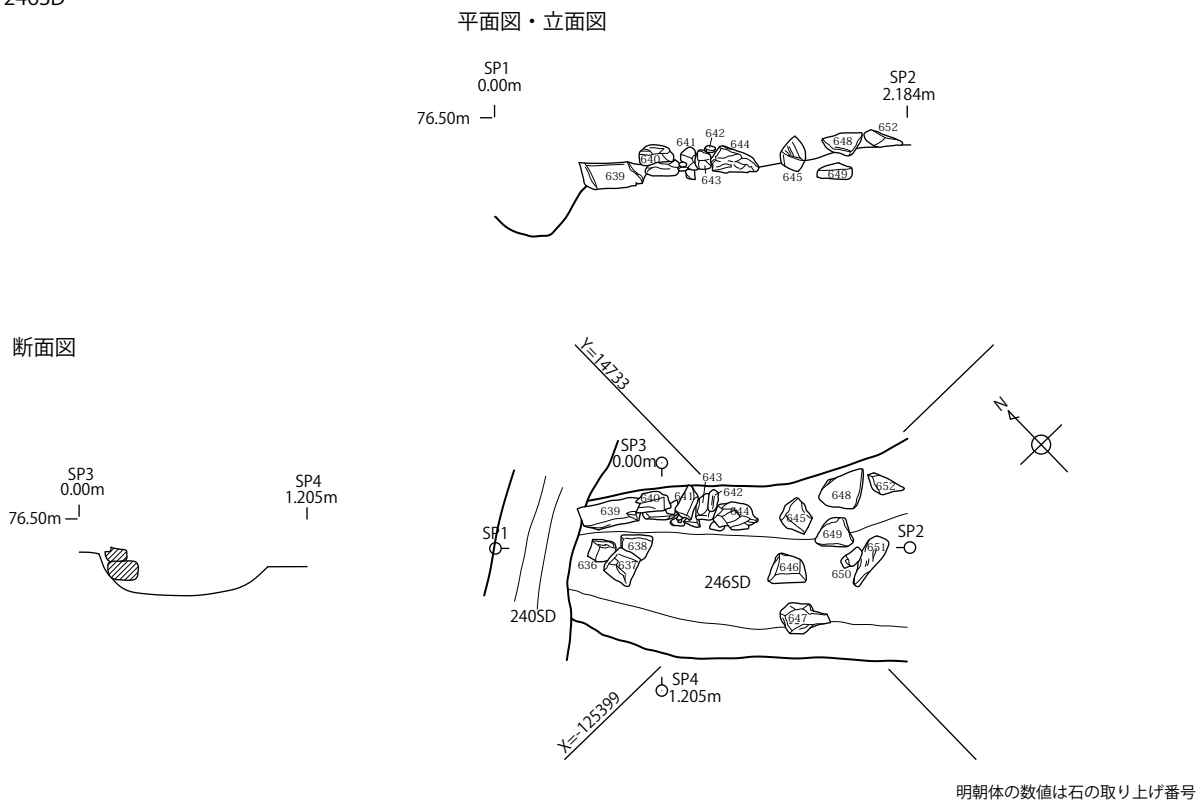
070SD 平面図・立面図・断面図



第 17 図 溝 070SD 遺構図 1/40

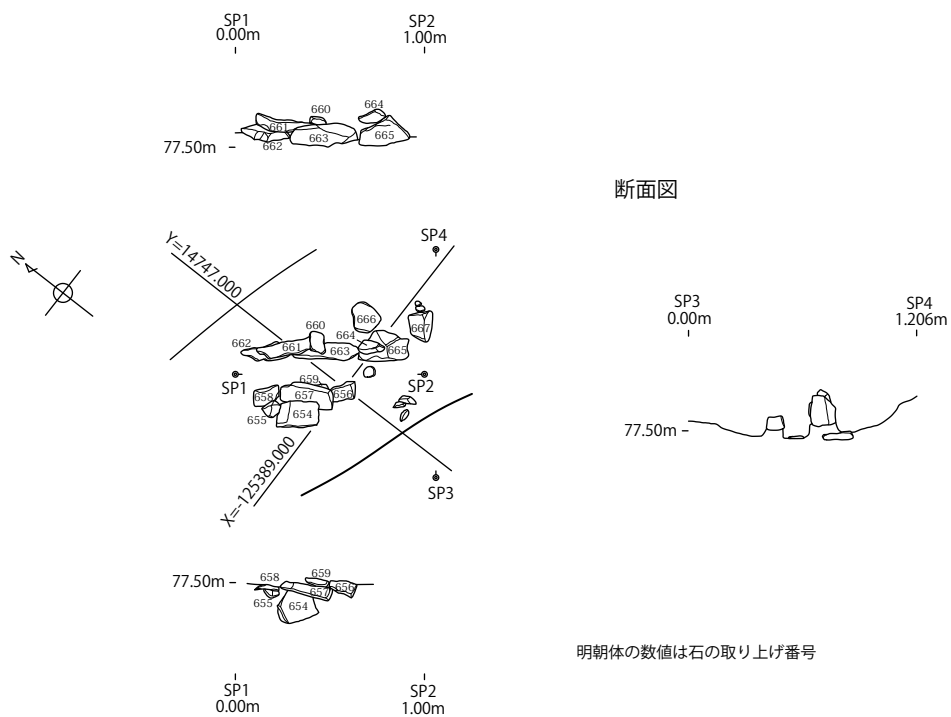
遺 構

246SD



386SD

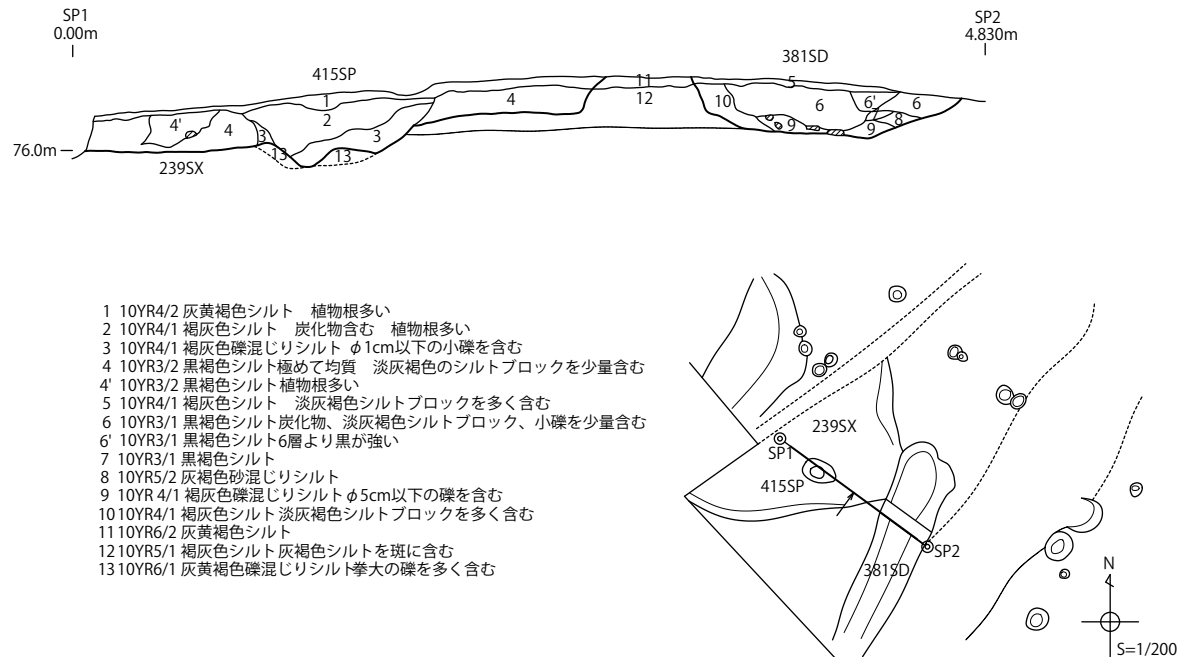
平面図・立面図



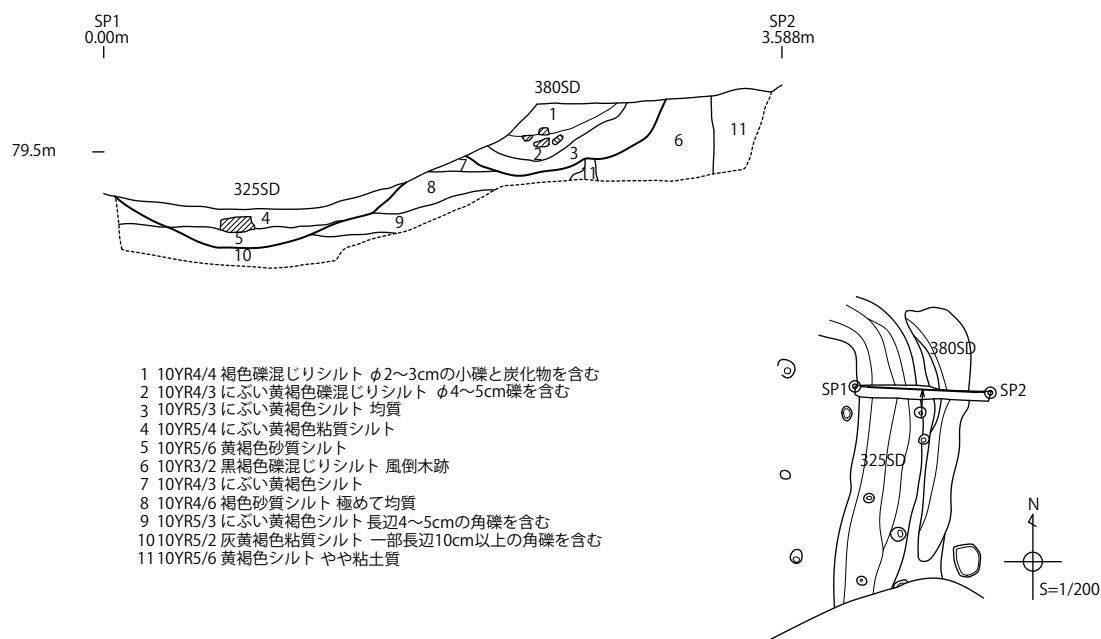
第 18 図 溝 246SD・386SD 遺構図 1/40

羽根遺跡

239SX・381SD 断面図



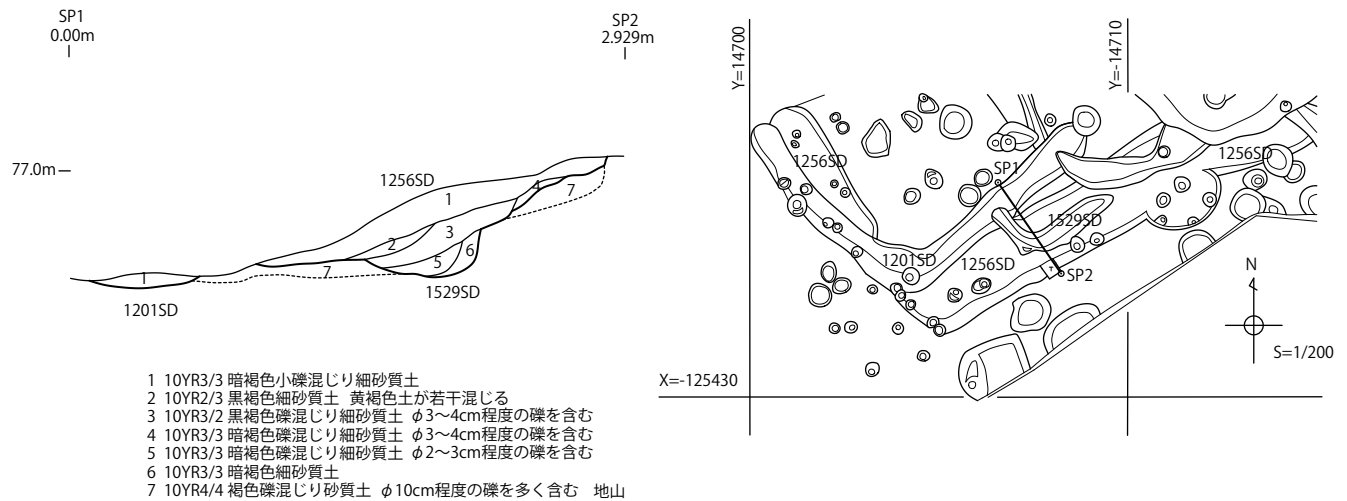
325SD・380SD 断面図



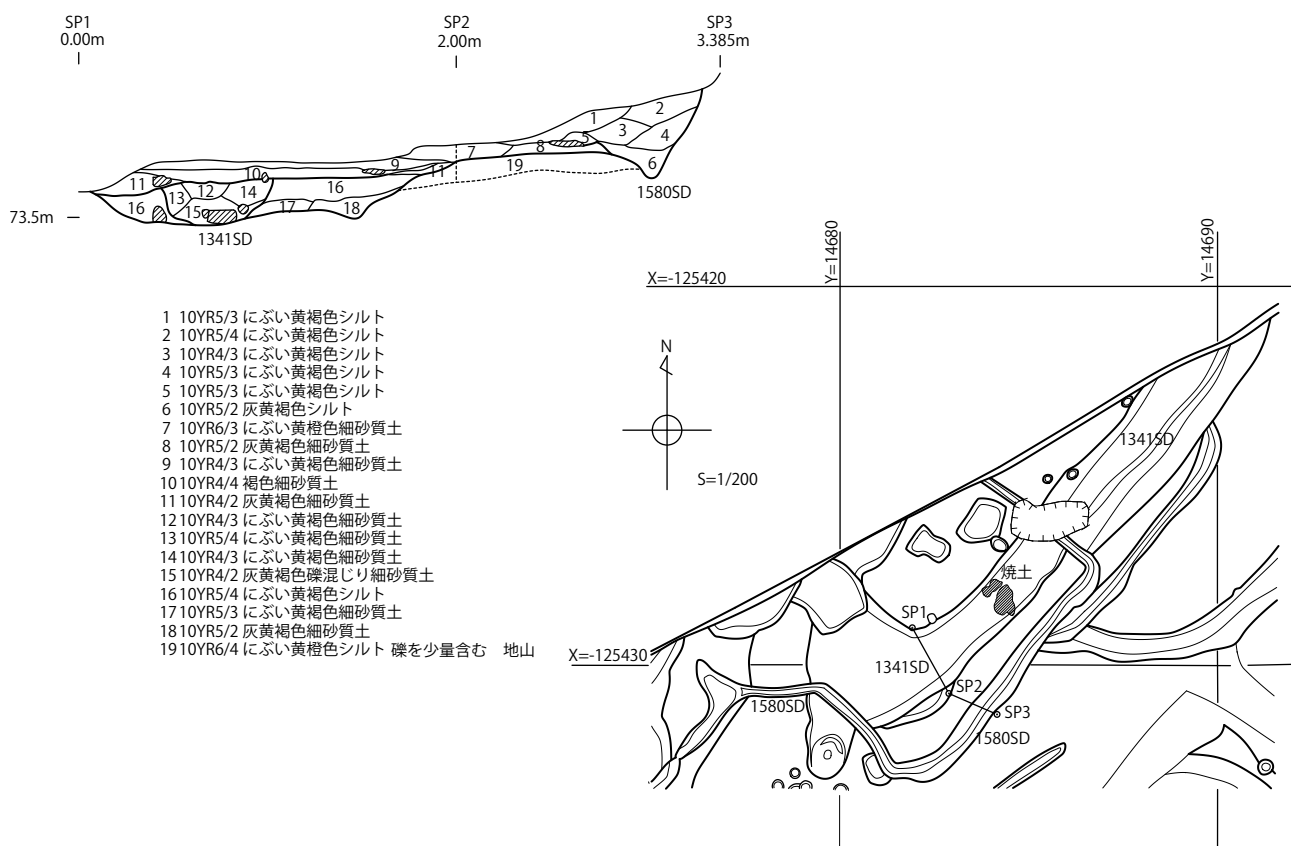
第 19 図 239SX・溝 381SD・325SD・380SD 遺構図 1/40

遺 構

1201SD・1256SD・1529SD断面図



1341SD・1580SD 断面図



第 20 図 溝 1201SD・1256SD・1341SD・1580SD 遺構図 1/40

羽根遺跡

を測る。瀬戸・美濃窯産登窯第 10 もしくは第 11 小期の陶器を含むことから 19 世紀初めに廃絶したものであろう。

1385SD (第 22 図) C 区 2 面中央で検出された溝である。1358 SD・1500SK との接合部に石組みを持つ。特に 1500SK との接合部は土坑からの水を受けるように円弧状に石を組んでいる。規模は幅 1.2 m、深さ 0.35 m を測る。あまり遺物を含まないため時期の詳細は不明であるが 17 世紀であろうか。

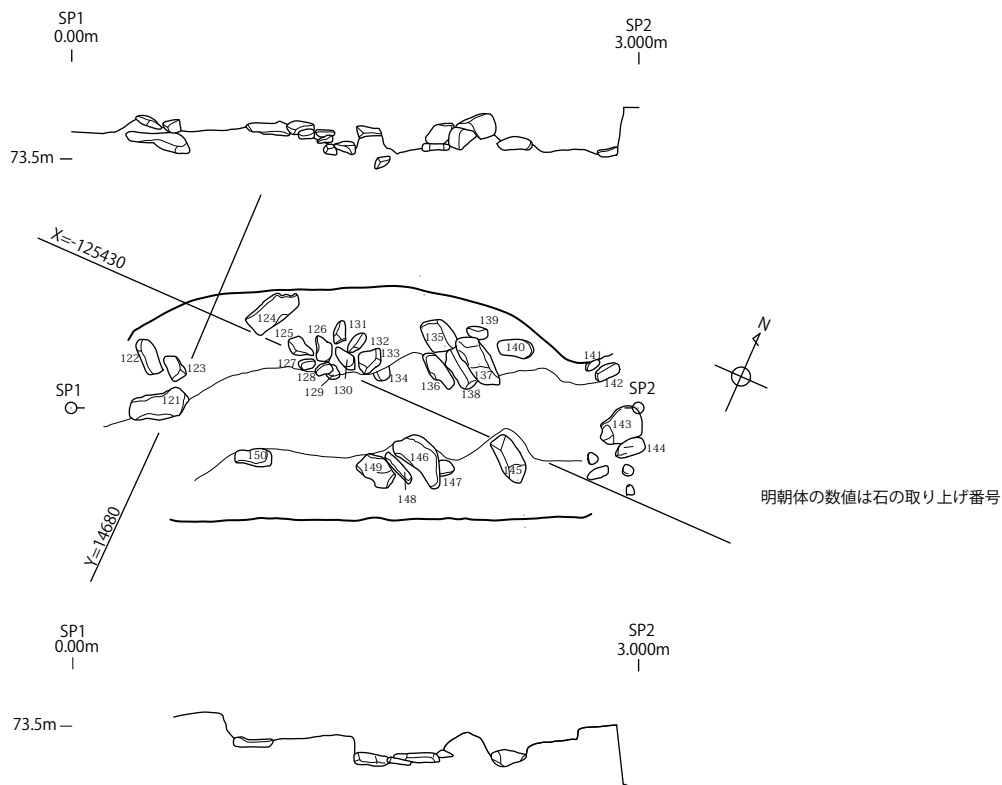
1412SD (第 23 図) C 区 2 面中央南よりで検出された溝である。規模は 3.1 m、深さ 0.5 m を測る。瀬戸・美濃窯産登窯第 7 小期の陶器を含むことから 18 世紀前半と考えられる。

1648SD (第 23 図) D 区北側半分を区画するようにコの字に巡る溝である。規模は幅 1.0 m、深さ 0.16 m を測る。746SD を切っていることから 18 世紀以降であろう。

(4) 石垣関連遺構

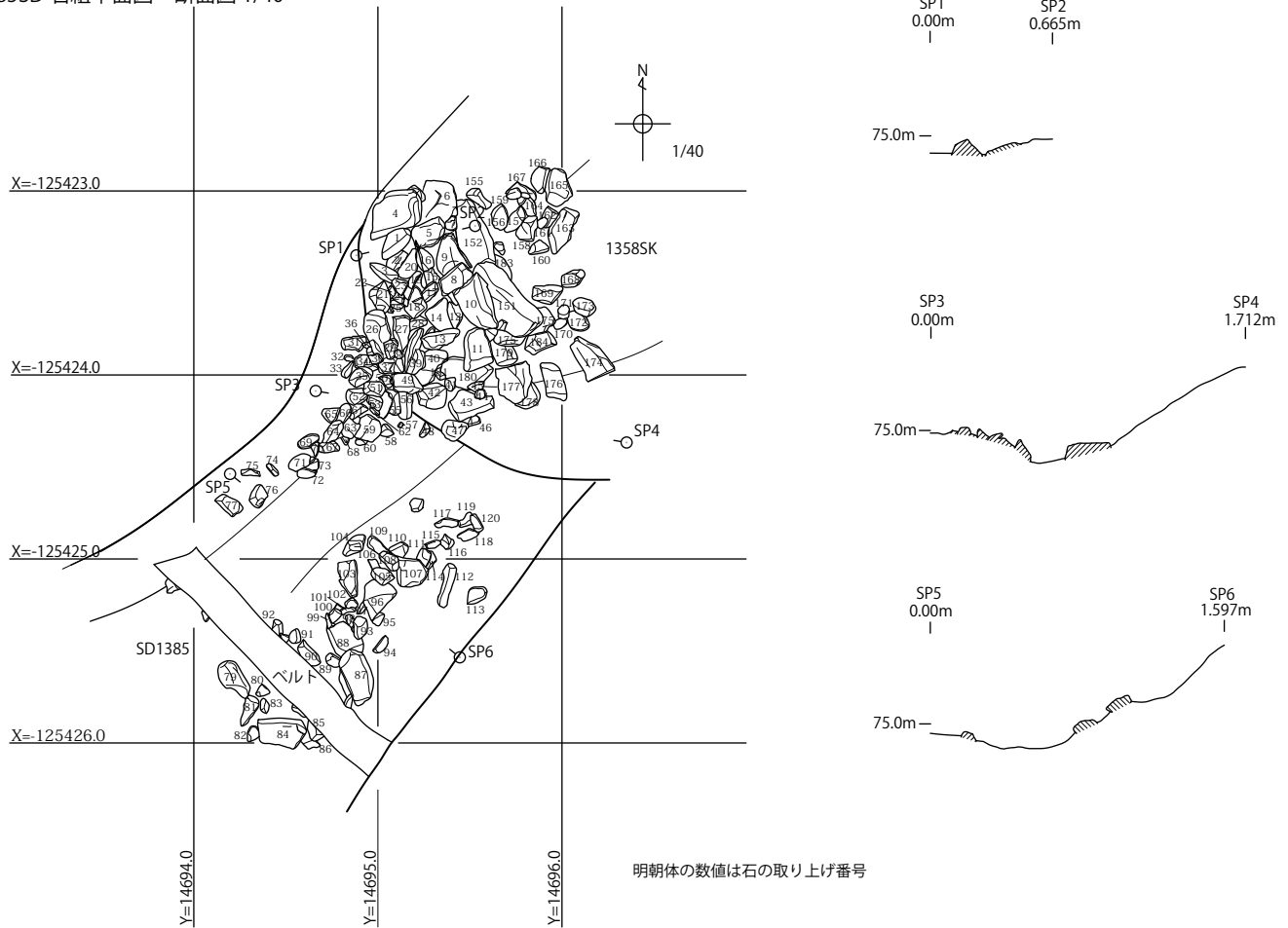
501SW (第 24 図・第 25 図) C 区 1 面目で最上段の平場端部で検出された石垣である。規模は長さ 6 m、高さ 1.4 m を測る。石材の中心は 30 cm 程度の片麻岩で、中には石塔の部材も含まれていた。石材を撤去後の裏込め部より古瀬戸後期Ⅳ段階から瀬戸・美濃窯産登窯第 2 小期までの陶器が含まれており、また 501SW の北端部に一石五輪塔を中心とする遺物廃棄遺構 (502SU) があり含まれる遺物が瀬戸・美濃窯産登窯第 1 から第 2 小期にかけての陶器のものであることなどから、17 世紀前半までには築造されたものと考えられる。

502SU C 区 1 面目で石垣 501SW の北端で一石五輪塔等の石塔が集中廃棄された状態で検出された遺構である。石塔類は 16 世紀後半のものが中心であると考えられるが、瀬戸・美濃窯産登窯第 1・第 2 小期の陶器類を含み、大窯期

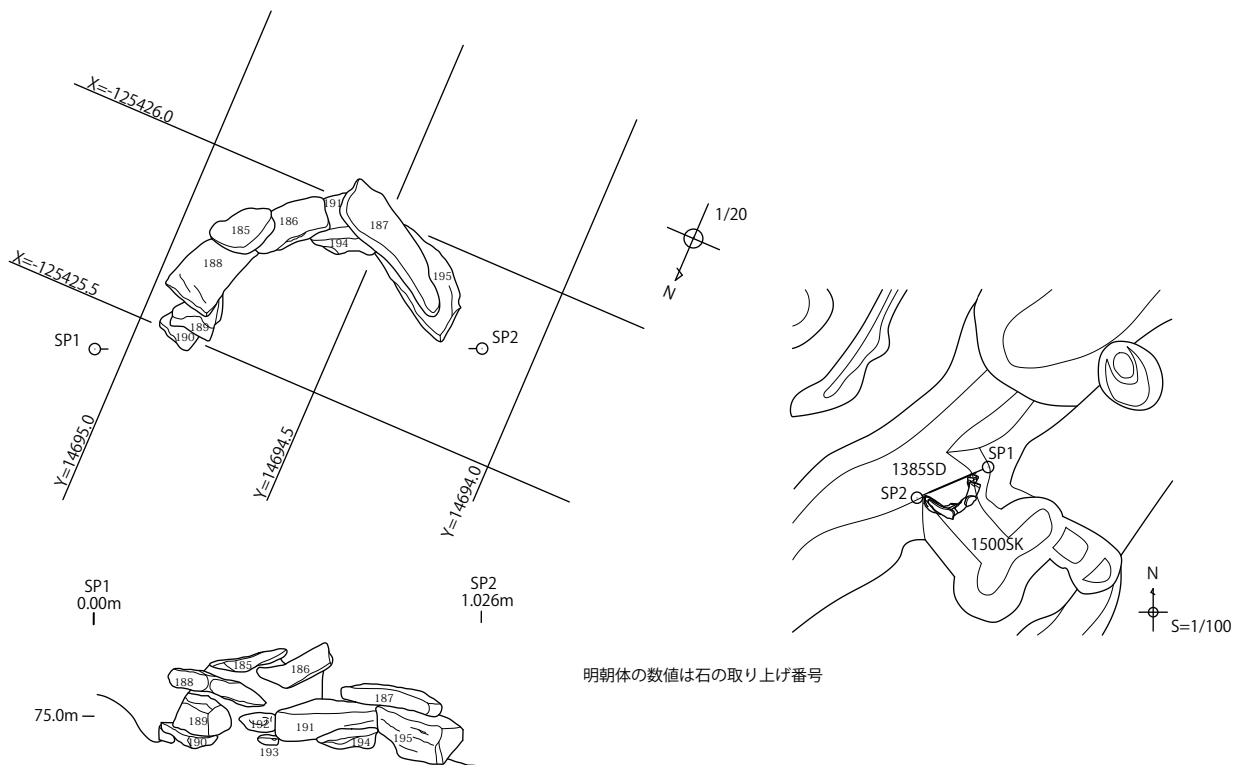


第 21 図 1341SD 遺構図 1/40

1385SD 石組平面図・断面図 1/40



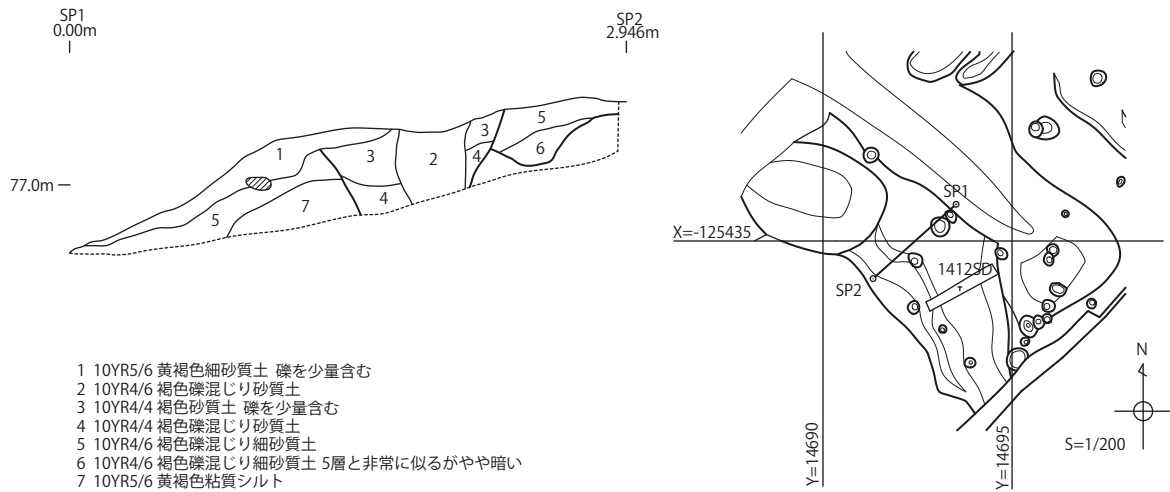
1385SD（下層）石組平面図・立面図 1/20



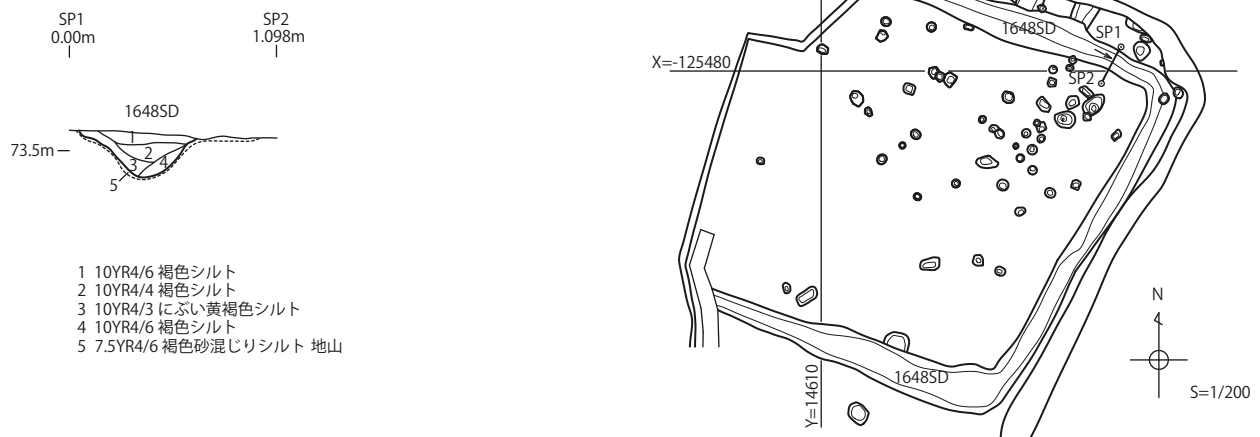
第 22 図 溝 1385SD 遺構図 1/40 ・ 1385SD（下層）遺構図 1/20

羽根遺跡

1412SD断面図



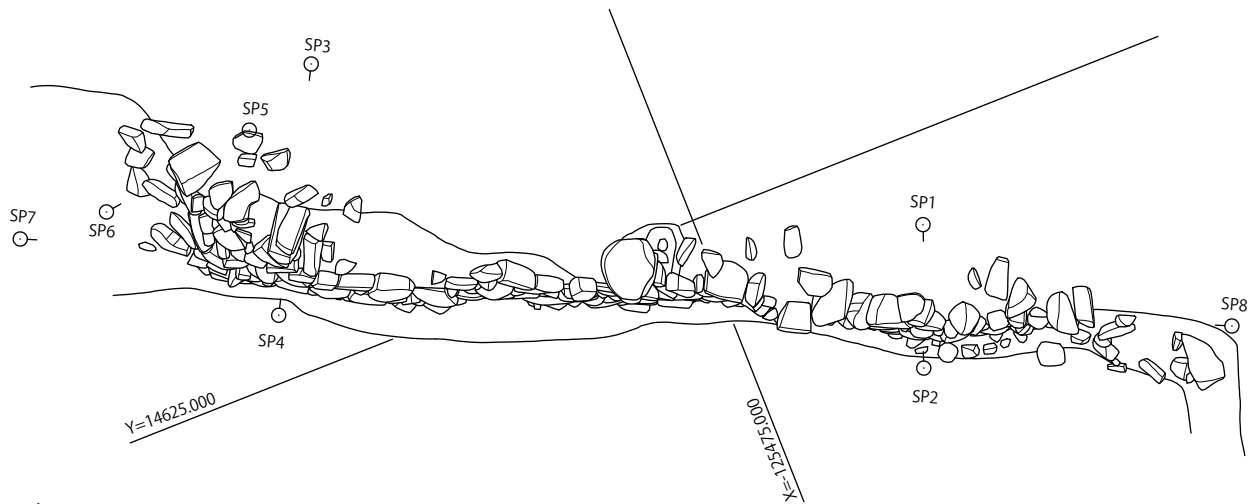
1648SD断面図



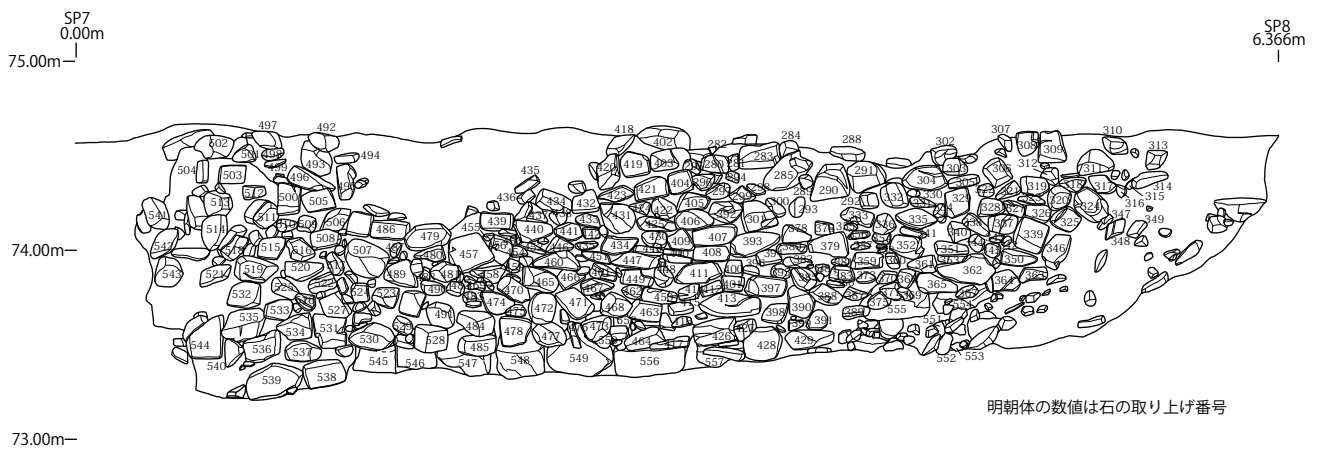
第 23 図 溝 1412SD・1648SD 遺構図 1/40

遺 構

平面図

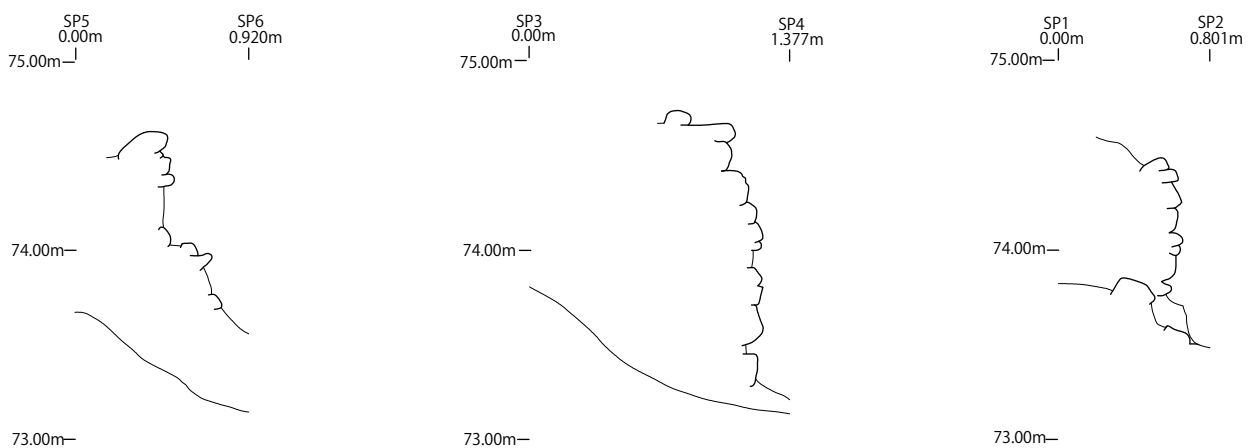


立面図



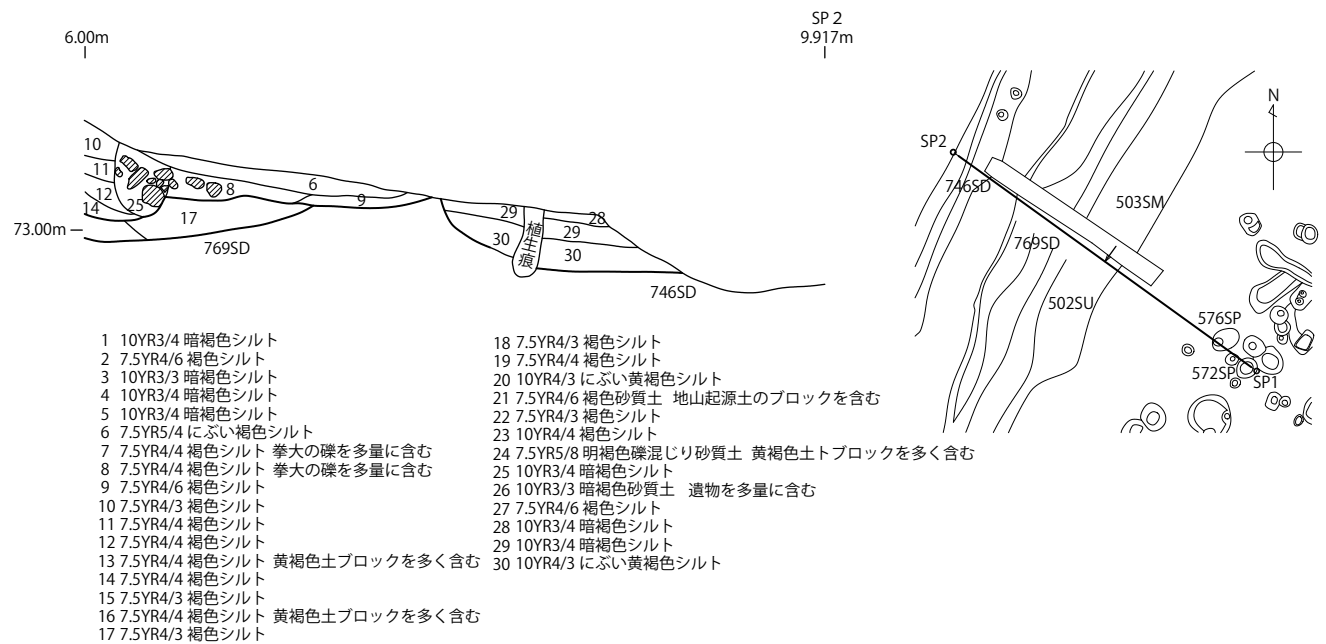
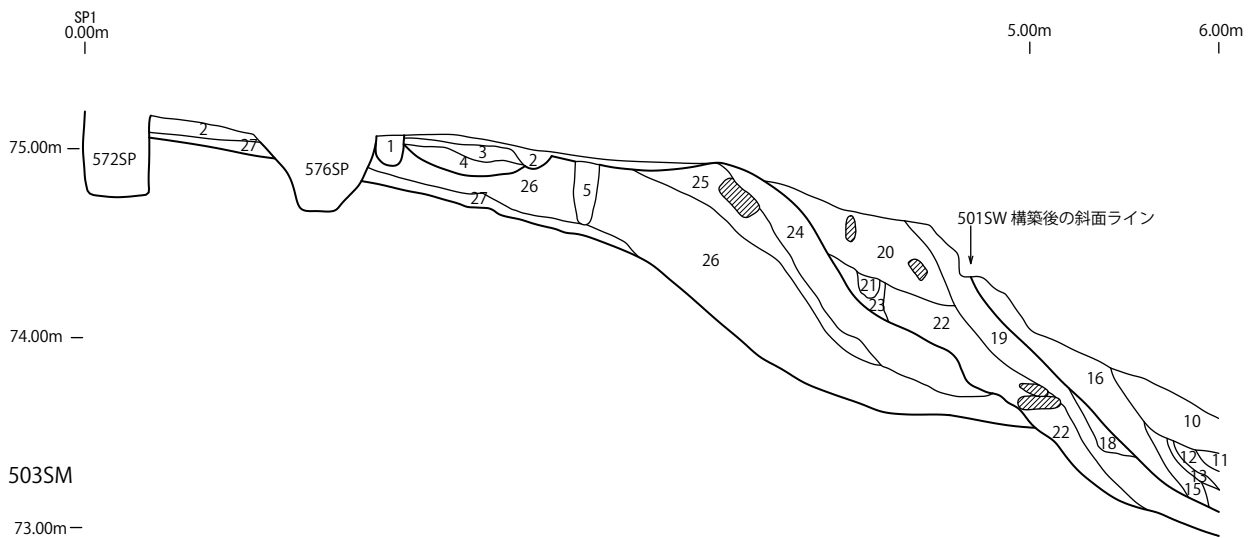
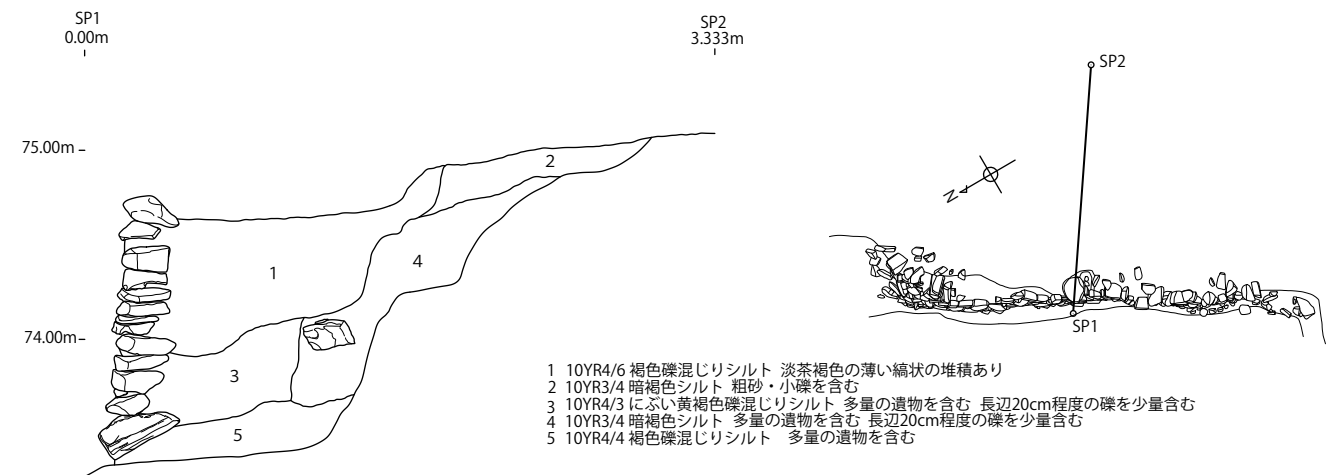
明朝体の数値は石の取り上げ番号

断面図



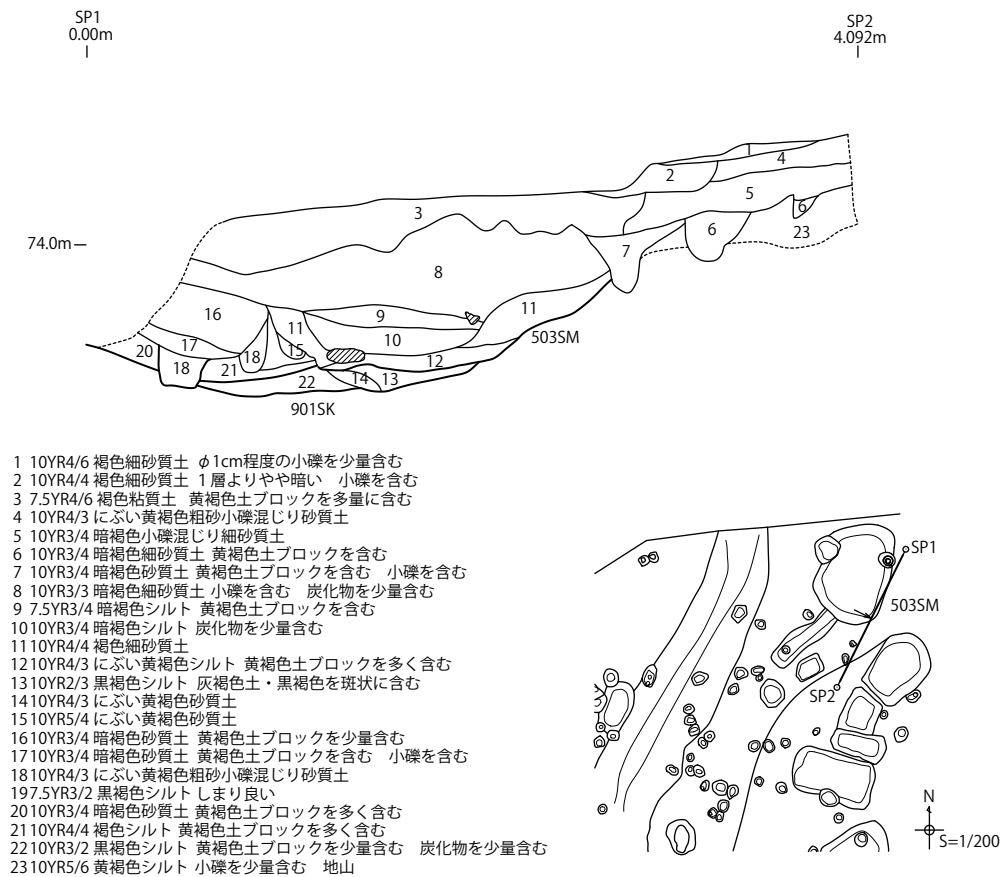
第 24 図 石垣 501SW 遺構図 1/40

501SW



第 25 図 石垣 501SW・盛り土 503SM 遺構図 1/40

遺 構



第 26 図 503SM 遺構図 1/40

の陶器がないことから、廃棄は 17 世紀前半に行われたと考える。

503SM (第 25 図・第 26 図) C 区 1 面目で石垣 501SW 北側から裏にかけて検出された盛り土遺構である。本来の緩やかな斜面に褐色砂質土などの土を入れて平場の造成を行っていることが見て取れる。古瀬戸後Ⅳ期から瀬戸・美濃窯産大窯第 3 期までの陶器を含んでいることなどから 16 世紀後半のものと考えられる。

(5) 土坑

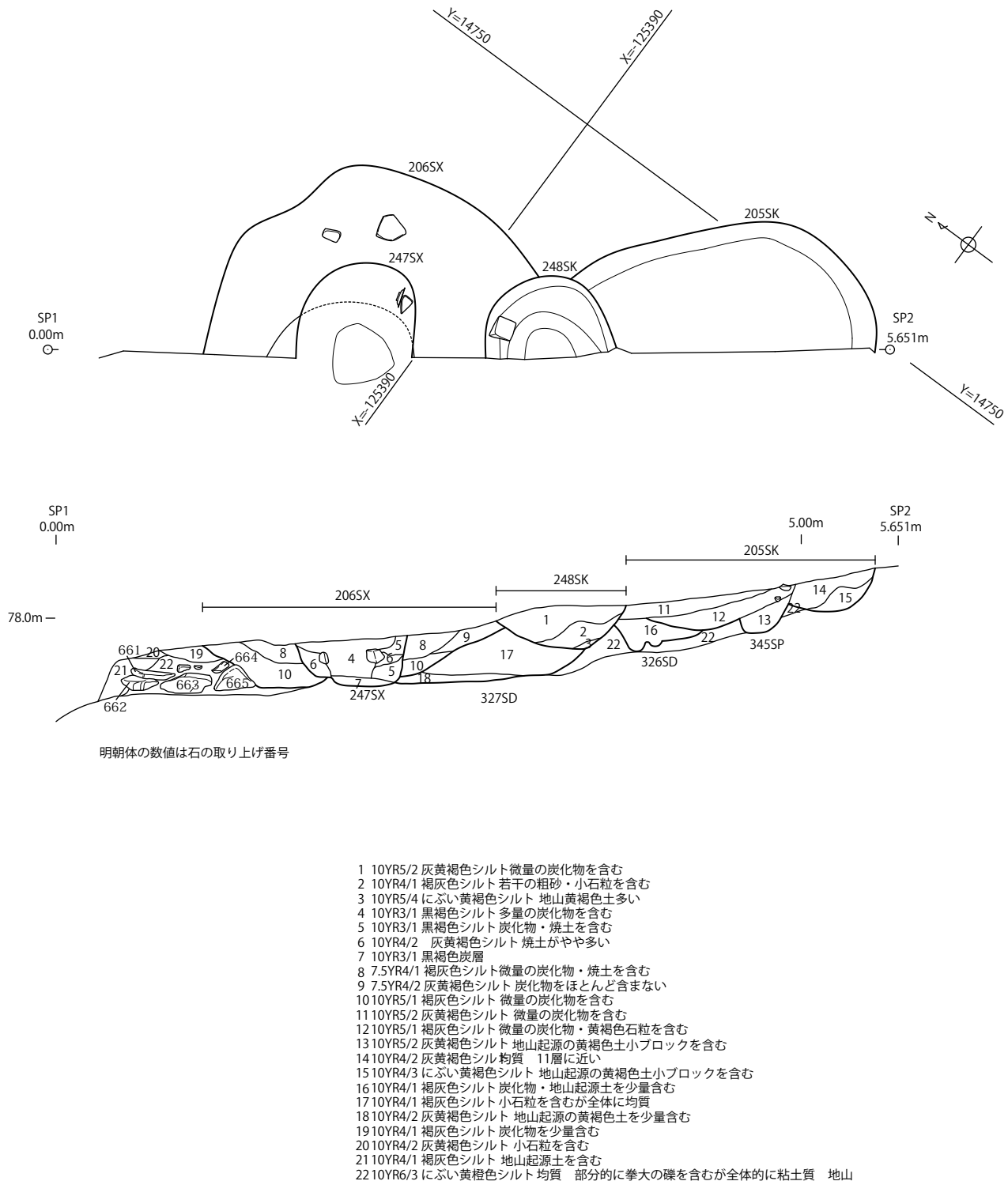
205SK (第 27 図) A 区 2 面目北よりで検出された土坑である。平面形は 1.88 m×1.65 m の楕円形で、深さ 0.35m を測る。瀬戸・美濃窯産大窯Ⅰ期の播鉢等を含んでいることから、16 世紀初めと考える。

206SX (第 27 図) A 区 2 面目北よりで 205SK と並んで検出された土坑である。明確な規模は不明ながら長径 1.50 m、深さ 0.38 m を測る。瀬戸・美濃窯産登窯第 2 から第 5 小期の陶器を含むことから 17 世紀であろう。

239SX (第 19 図) A 区 2 面目南端で検出された大型の土坑である。平面形は方形であると考えられ、規模は確認できた部分で 5.30 m×2.80 m で、深さ 0.38 m を測る。山茶碗第 6 から第 10 形式が含まれていることから中世前半期となり、時期の確認できる遺構の中では最も古いものである。

247SX (第 27 図) 206SK を切る形で検出された土坑である。平面形は 0.73 m×0.65 m の楕円形で、深さ 0.34 m を測る。埋土は焼土や炭化物を含むもので最深部には 2cm 程の炭化物

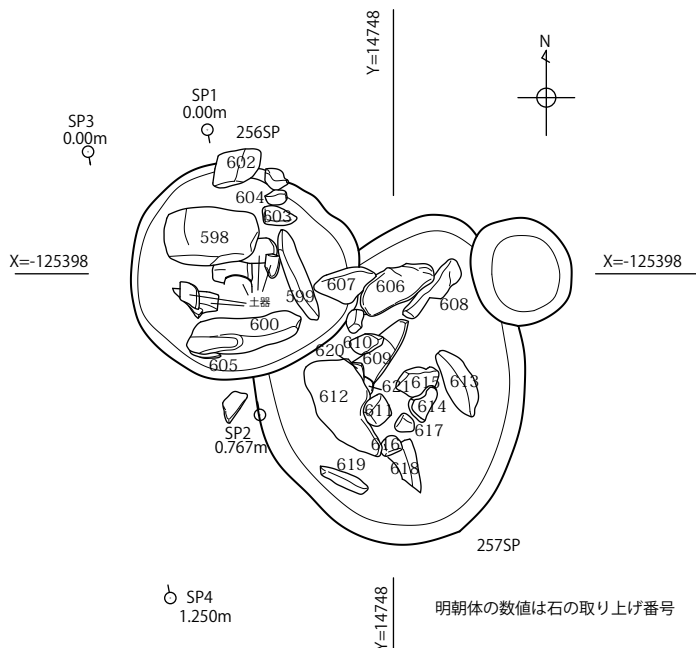
羽根遺跡



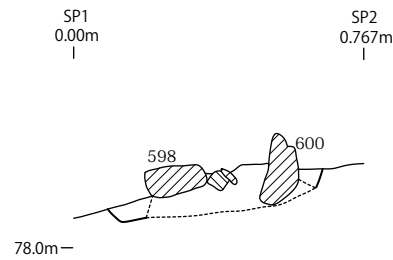
第 27 図 土坑 205SK・206SX・247SK・248SK 遺構図 1/40

遺 構

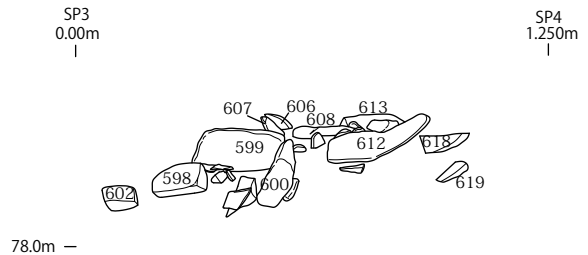
256SP・257SP平面図



256SP 断面図



256SP・257SP立面図



第 28 図 土坑 256SP・257SP 遺構図 1/20

の層が確認された。炭化物の年代測定で 17 世紀前半と考える。

248SK（第 27 図） 205SK・206SK を切るように検出された土坑である。平面形は 0.88 m×0.53 m の楕円形で、深さ 0.29 m を測る。205SK・206SK を切っていることから 17 世紀以降と考えられるが明確な時期は不明である。

256SP（第 28 図） A 区 1 面から 2 面への包含層掘削段階に中央部東よりで検出された土坑である。平面形は 0.57 m×0.57 m の円形で、深さ 0.1 m を測る。土坑内には 25cm 前後の礫がコの字に配置され、内側から内耳鍋（半球形）が出土している。炭化物の年代測定とあわせ、15 世紀中頃と考える。

257SP（第 28 図） A 区 1 面から 2 面への包含層掘削段階に中央部東よりで 256SK を切る形で検出された土坑である。平面形は 0.8 m×0.7 m の楕円形である。256SP ほど明確ではないが礫がコの字に配されていたと考えられる。256SP に切られているもののほぼ同時期

ではないかと考えられる。

643SK（第 29 図） C 区 1 面最上段の平場東側で検出された土坑である。平面形は 1.15 m×1.00 m の方形で、深さは 0.22 m を測る。土坑墓の可能性も考えられる遺構であるが、時期は不明である。

644SK（第 29 図） 643SK に切られる形で検出された土坑である。平面形は方形で、規模残存部で 1.36 m×1.02 m、深さ 0.11 m を測る。643SK 同様土坑墓の可能性が考えられる遺構であるが、時期は不明である。

884SK（第 29 図） C 区 2 面目の中央で検出された土坑である。平面形は 2.20 m×1.36 m の方形で、深さは 0.42m を測る。埋土は地山ブロックなどを含む斑土であることから土坑墓の可能性が高い。古瀬戸後Ⅲ期の緑釉皿が出土していることから 15 世紀であると考えられる。

950SK（第 29 図） C 区 2 面への包含層掘削の段階で 503SM の下から検出された土坑である。平面形は 0.46 m×0.40 m の楕円形で、深

羽根遺跡

さは0.08 mを測る。土坑の中央には底を人為的に抜いたと考えられる内耳鍋が正位で据えてある。内耳鍋は半球形と考えられるが口縁部も欠損しており体部のみのため時期などは不明である。

828SK (第31図) C区1面でB区と接する平場で検出された常滑窯産赤物の甕が据えてある土坑である。平面形は0.87 m×0.82 mの楕円形で、深さ0.36 mを測る。甕の内部には2 cm程の黒色の円礫が大量に入っており、石灰分の沈着などもないことから水甕として使用された可能性が高い。甕の形状から18世紀後半であると考えられる。

829SK (第31図) C区1面でB区と接する平場で検出された常滑窯産赤物の甕が据えてある土坑である。平面形は0.70 m×0.70 mの円形で、深さ0.15 mを測る。829SKと同様に水甕として使用された可能性が高い。内部より銅製の棒が出土している。甕の形状から18世紀後半であると考えられる。

1351SK (第31図) B区でC区と接する平場で検出された常滑窯産赤物の甕が据えてある土坑である。平面形は0.74 m×0.70 mのほぼ円形で、深さ0.20 mを測る。甕の口縁部が欠損しており、明確な時期は不明である。

1352SK B区南西よりで検出された土坑である。平面形は2.50 m×1.70 mの楕円形で、深さ0.30 mを測る。内耳鍋（半球形）を中心に多量の遺物を含んでいた。内耳鍋の炭化物の年代測定、瀬戸・美濃窯産登窯第5・第6小期の遺物などから18世紀半ばと考える。

1358SK (第30図) B区2面中央で検出された土坑である。平面形は2.90 m×2.30 mの楕円形で、深さは0.60 mを測る。1385SDと接しており、接続部には20 cm前後の礫が敷き詰められていたことなどからこの溝と一体で機能していたと考えられる。

1500SK (第30図) B区2面中央で検出された土坑である。平面形はいびつな形をして

おり、深さ0.80 mを測る。1358SKと同様に1385SDと接しており、一体で機能していたと考えられる。

1527SK (第31図) B区でC区と接する平場で検出された常滑窯産赤物の甕が据えてある土坑である。平面形は0.67 m×0.67 mの円形で、深さ0.18 mを測る。甕の形状からは17世紀のものと考えられるが甕内部より瀬戸窯産登窯第7小期の陶器が出土していることから、少なくとも廃絶時期は18世紀に下ると考えられる。

1539SK (第32図) B区でC区と接する平場で検出された常滑窯産赤物の甕が据えてある土坑である。今回検出された他の埋甕土坑と違い平面形は1.20 m×1.10 mの方形で中央にさらに円形の穴を掘り甕が据えていることが確認された。深さ0.16 mを測る。甕の口縁部が欠損しているため、明確な時期は不明である。

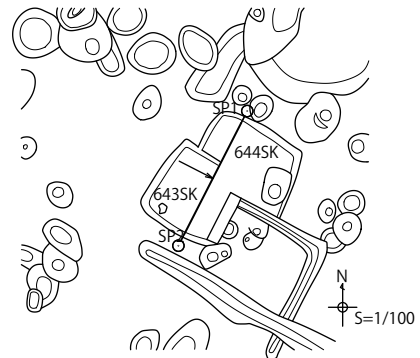
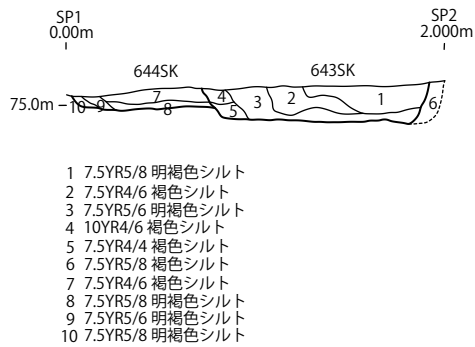
(6) 炉跡

555SL (第32図) C区1面南よりで検出された炉跡である。平面形は1.50 m×0.65 mの隅丸方形で、深さは0.20 mを測る。底の部分は黒褐色で固く焼けしっており、側壁部も被熱していた。周辺で轆の羽口なども出土しており、鍛冶炉である可能性が考えられる。時期は不明である。出土した炭化材はクヌギ節であった。年代測定に遺構の状況を加味して考えると17世紀前半であろう。

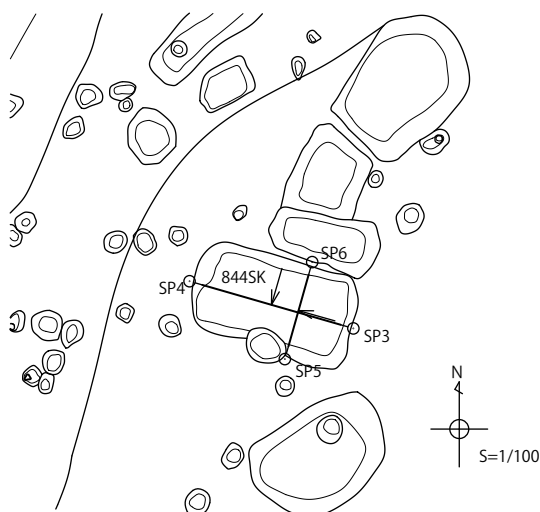
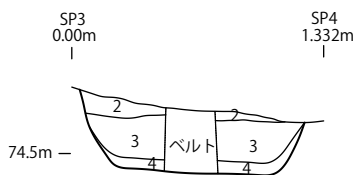
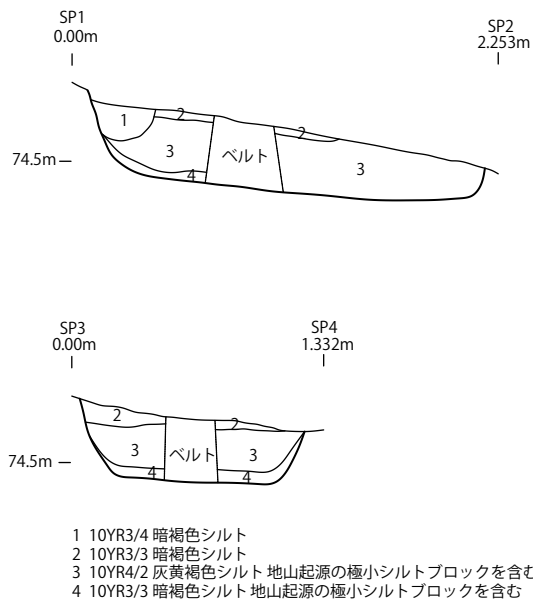
1557SL (第33図) B区西より1341SDの埋土上で検出された炉跡である。平面形は不定形で、規模は0.72 m×0.50 mである。上部は削平を受けており、底面部が残存している状況であった。検出段階で内部にあった細かな炭化物や焼土混じりのにぶい黄褐色砂質土などを除去すると、5 cm前後の炭化物が底部直上に多く確認された。被熱の度合いは強くなく、竈のようなものであった可能性が考えられる。1341SDが19世紀初めに廃絶したと考えると19世紀以降のものとなろう。

遺 構

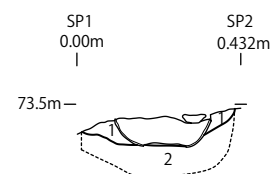
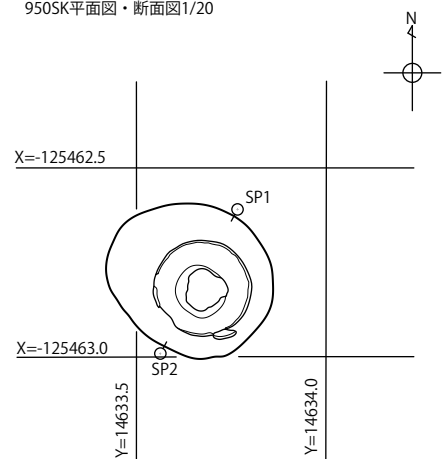
643SK・644SK 断面図 1/40



884SK断面図1/40

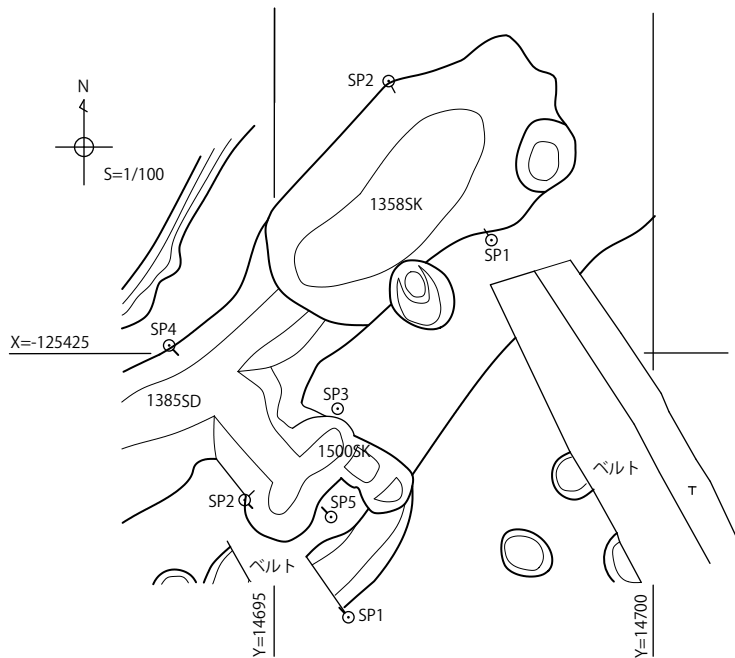


950SK平面図・断面図1/20

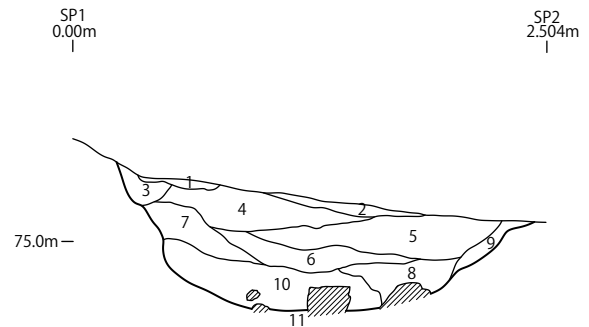


- 1 5YR4/6 赤褐色シルト
2 7.5YR3/4 暗褐色シルト

第 29 図 土坑 643SK・644SK・884SK 遺構図 1/40 ・ 950SK 遺構図 1/20

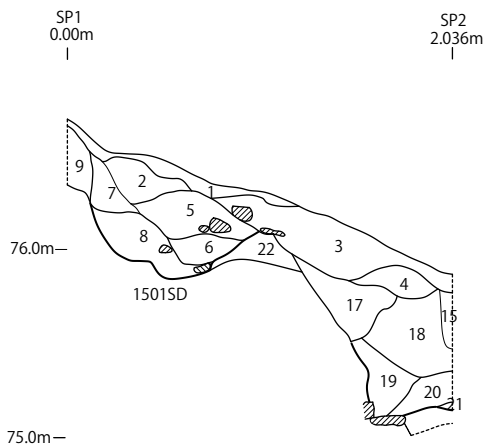


1358SK

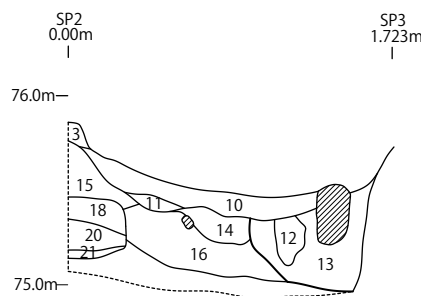


- 1 10YR3/2 黒褐色細砂質土
- 2 10YR3/2 黒褐色細砂質土
- 3 10YR3/3 暗褐色細砂質土 地山起源の黄褐色土を斑に含む
- 4 10YR3/2 黒褐色細砂質土φ2~3cm以下の小礫を含む
- 5 10YR3/2 黒褐色細砂質土φ1~2cm以下の小礫を少量含む
- 6 10YR3/2 黒褐色細砂質土
- 7 10YR3/2 黒褐色細砂質土φ1~2cm以下の小礫を少量含む
- 8 10YR3/3 暗褐色細砂質土角礫を少量含む
- 9 10YR3/4 暗褐色細砂質土 地山起源の黄褐色土を斑に含む
- 10 10YR3/2 黒褐色細砂質土角礫を少量含む
- 11 10YR5/8 黄褐色礫混じり細砂質土 多量の礫を含む

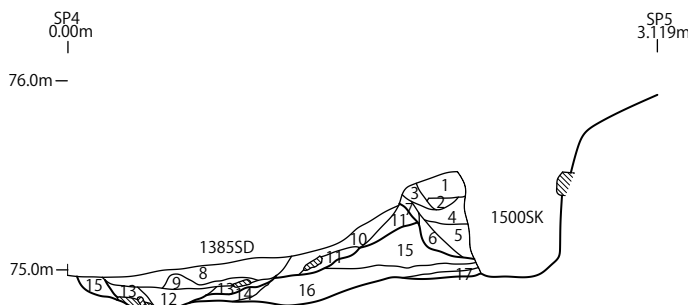
1500SK



- 1 10YR3/3 暗褐色細砂質土
- 2 10YR2/3 黒褐色細砂質土
- 3 10YR3/4 暗褐色礫混じり細砂質土φ10cm以下の礫を多く含む
- 4 10YR3/3 暗褐色細砂質土
- 5 10YR3/2 黒褐色細砂質土
- 6 10YR2/3 黒褐色細砂質土
- 7 10YR3/2 黒褐色細砂質土
- 8 10YR3/1 黒褐色細砂質土
- 9 10YR2/1 黒褐色細砂質土
- 10 10YR3/3 暗褐色細砂質土
- 11 10YR4/4 褐色細砂質土



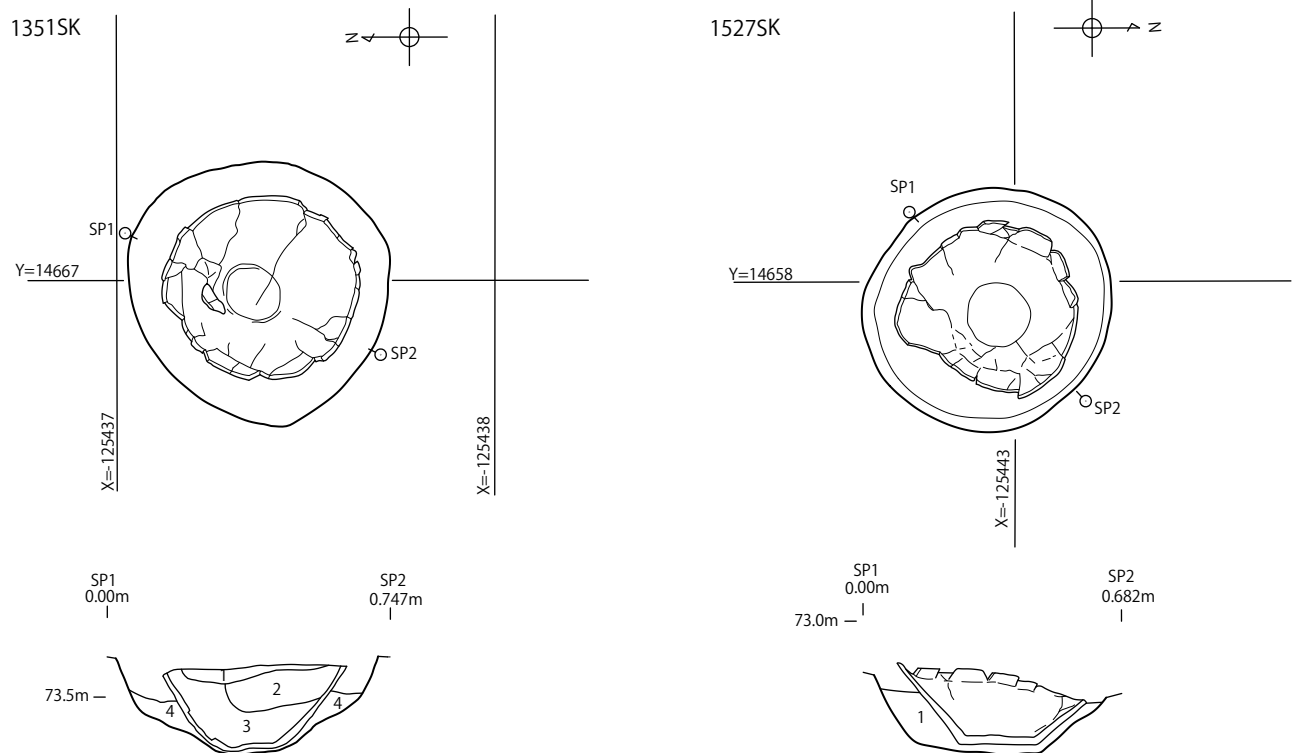
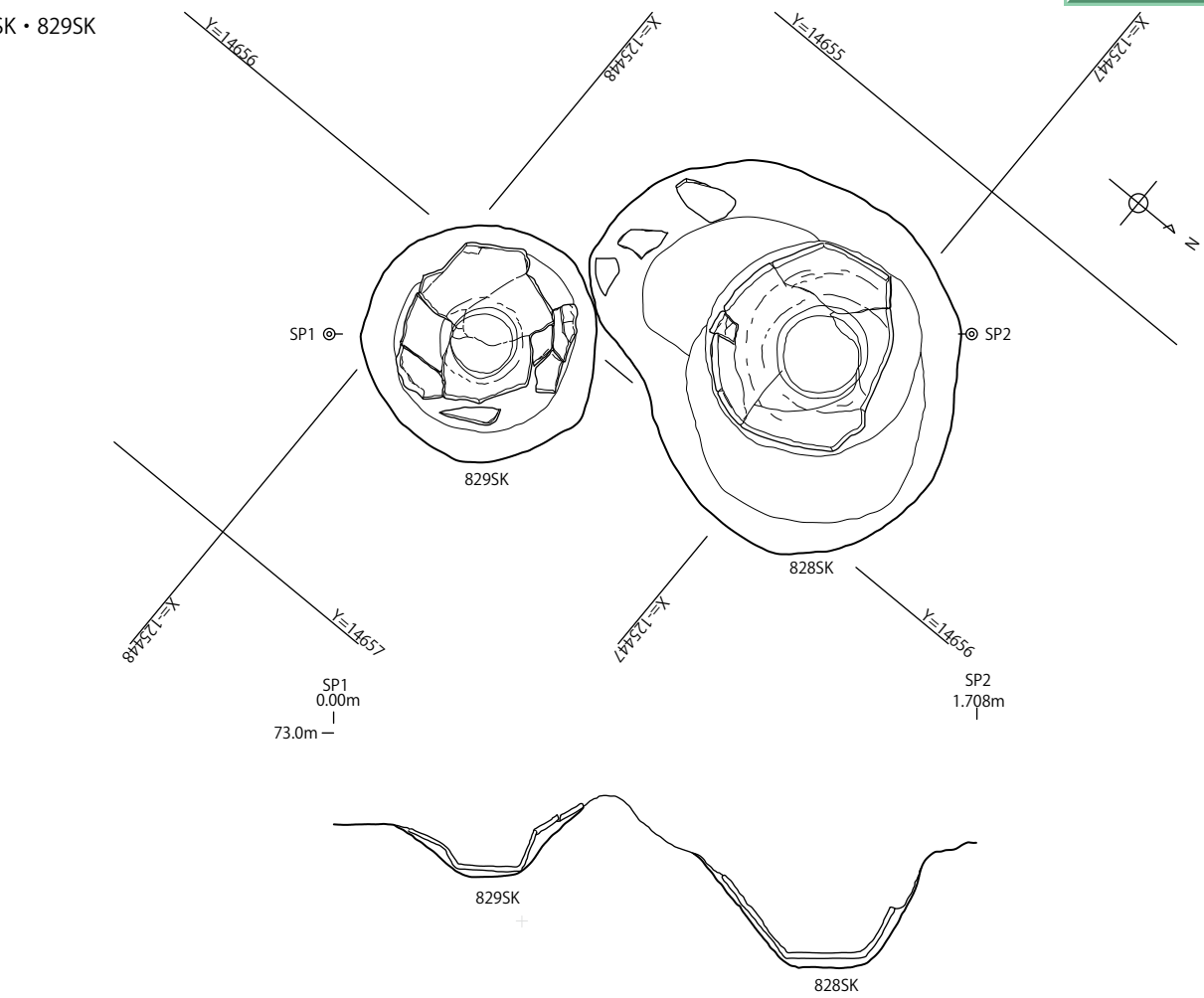
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 13 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 14 10YR3/3 暗褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑点状に混じる
- 15 10YR3/4 暗褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑点状に混じる
- 16 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑点状に混じる
- 17 10YR3/3 暗褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 18 10YR4/4 褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 19 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 20 2.5Y4/2 暗灰黄褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 21 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂質土 地山起源の黄褐色・灰黄褐色シルトを斑状に混じる
- 22 10YR3/4 暗褐色細砂質土



- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土
- 2 10YR3/4 暗褐色細砂質土
- 3 10YR4/2 灰黄褐色細砂質土
- 4 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土
- 5 10YR4/4 褐色細砂質土
- 6 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土
- 7 10YR3/4 暗褐色細砂質土
- 8 10YR3/4 暗褐色細砂質土
- 9 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土
- 10 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土
- 11 10YR3/4 暗褐色細砂質土
- 12 10YR4/3 にぶい黄褐色細砂質土
- 13 10YR3/4 暗褐色細砂質土
- 14 10YR4/4 褐色細砂質土
- 15 10YR4/3 にぶい黄褐色礫混じり細砂質土 φ10cm以下の礫を多く含む
- 16 10YR6/4 にぶい黄褐色細砂質土 地山起源の淡褐色・黄褐色土が斑点状に混じる

第 30 図 土坑 1358SK・1500SK 遺構図 1/40

828SK・829SK

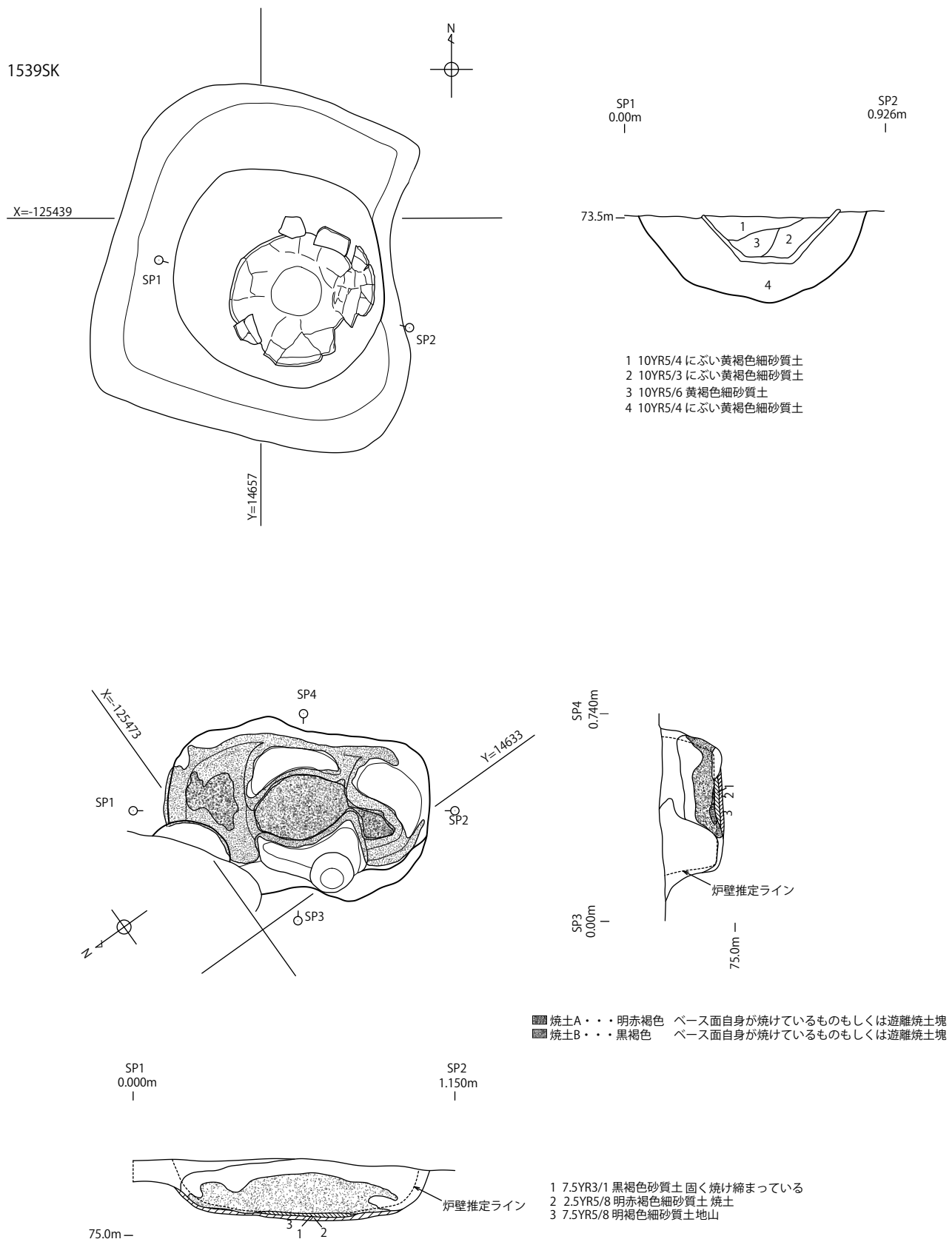


- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 褐色が強い
- 2 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 やや灰色がかかる
- 4 10YR5/3 にぶい黄褐色砂質土

- 1 10YR4/6 褐色細砂質土 褐色が強い

第 31 図 土坑 828SK・829SK・1351SK・1527SK 遺構図 1/20

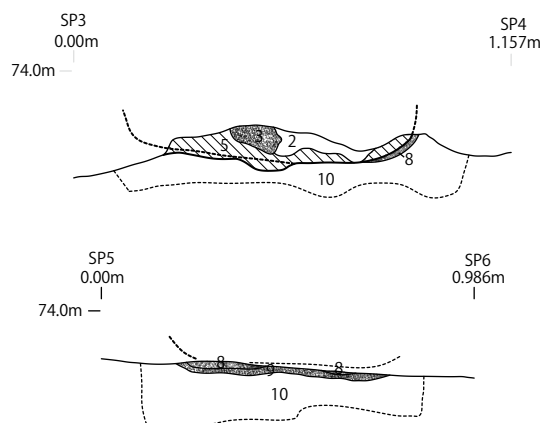
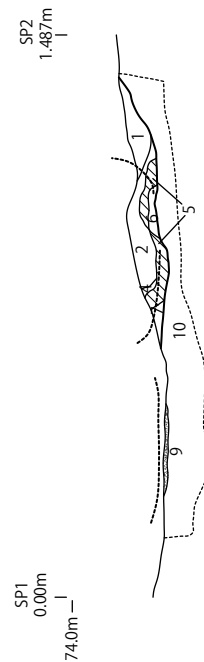
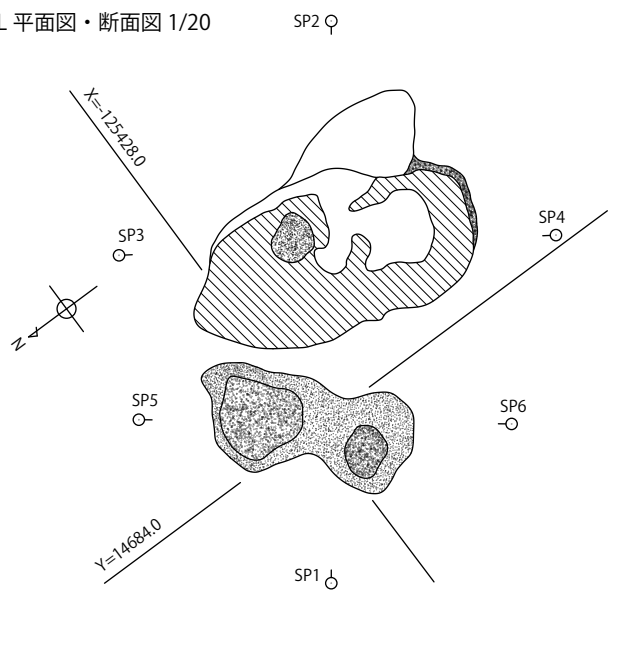
羽根遺跡



第 32 図 土坑 1539SK・炉跡 555SL 遺構図 1/20

遺 構

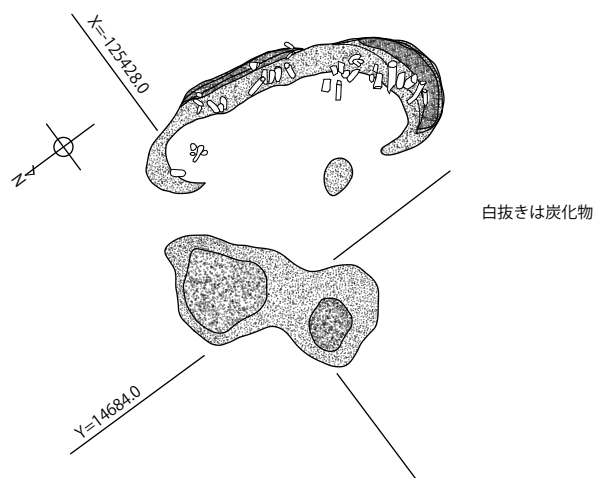
1557SL 平面図・断面図 1/20



■ 焼土A・・・赤褐色 ベース面自身が焼けているものもしくは遊離焼土塊
 ■ 焼土B・・・黒褐色 ベース面自身が焼けているものもしくは遊離焼土塊
 ▨ 焼土片・炭混じり

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐色細砂質土炭・焼土を少量含む
- 2 10YR6/3 にぶい黄褐色細砂質土炭・焼土を含む
- 3 2.5YR5/8 明赤褐色焼土塊
- 4 10YR4/2 灰黄褐色焼土塊
- 5 5YR6/4 にぶい橙色焼土 遊離焼土を大量に混じる
- 6 10YR2/1 黒色炭層
- 7 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂質土炭・焼土を少量含む
- 8 10YR3/2 黒褐色 10層が被焼
- 9 5YR4/4 にぶい赤褐色 10層が被焼
- 10 10YR5/3 にぶい黄褐色細砂質土 1341SD埋土

1557SL (下層) 平面図 1/20



■ 焼土A・・・赤褐色ベース面自身が焼けているものもしくは遊離焼土塊
 ■ 焼土B・・・黒褐色ベース面自身が焼けているものもしくは遊離焼土塊

第 33 図 炉跡 1557SL 遺構図 1/20

羽根遺跡

(7) 井戸

1348SE (第 34 図) B 区北西壁南よりに接するように検出された土坑である。平面形は 1.10 m×1.00 m の方形で、深さは 2.00 m を測る。底部で湧水層に達していることから井戸と判断される。井戸側の構築物は残存しておらず、抜き取られて依存しないものと判断される。底部から径数cmの丸木が出土しており、マツ属とモクレン属のものであった。古瀬戸後IV期新段階の陶器などが含まれることから 15 世紀後半と考える。

1594SE (第 34 図) B 区南より中央部で検出された土坑である。平面形は 2.20 m×2.00 m の円形で、深さは 1.50 m を測る。土層断面を確認すると掘り方が不自然ではあるが、底部で湧水層に達していることから井戸と考えられる。井戸側の構築物は残存していなかったが、底部からマツ属の丸木とクリ属の柱目が出土していることから抜き取られたものと考えられる。時期は不明である。

1596SE・1597SE・1598SE (第 35 図) B 区 2

面の沢よりで 1591NR の埋土の下から検出された土坑である。

1596SE は 1597SE に切られている。残存している平面形は 1.90 m×1.10 m で円形であったと考えられ、深さは 0.50 m を測る。底部で湧水層に達することから井戸と判断される。井戸側の構築物などは確認できない。

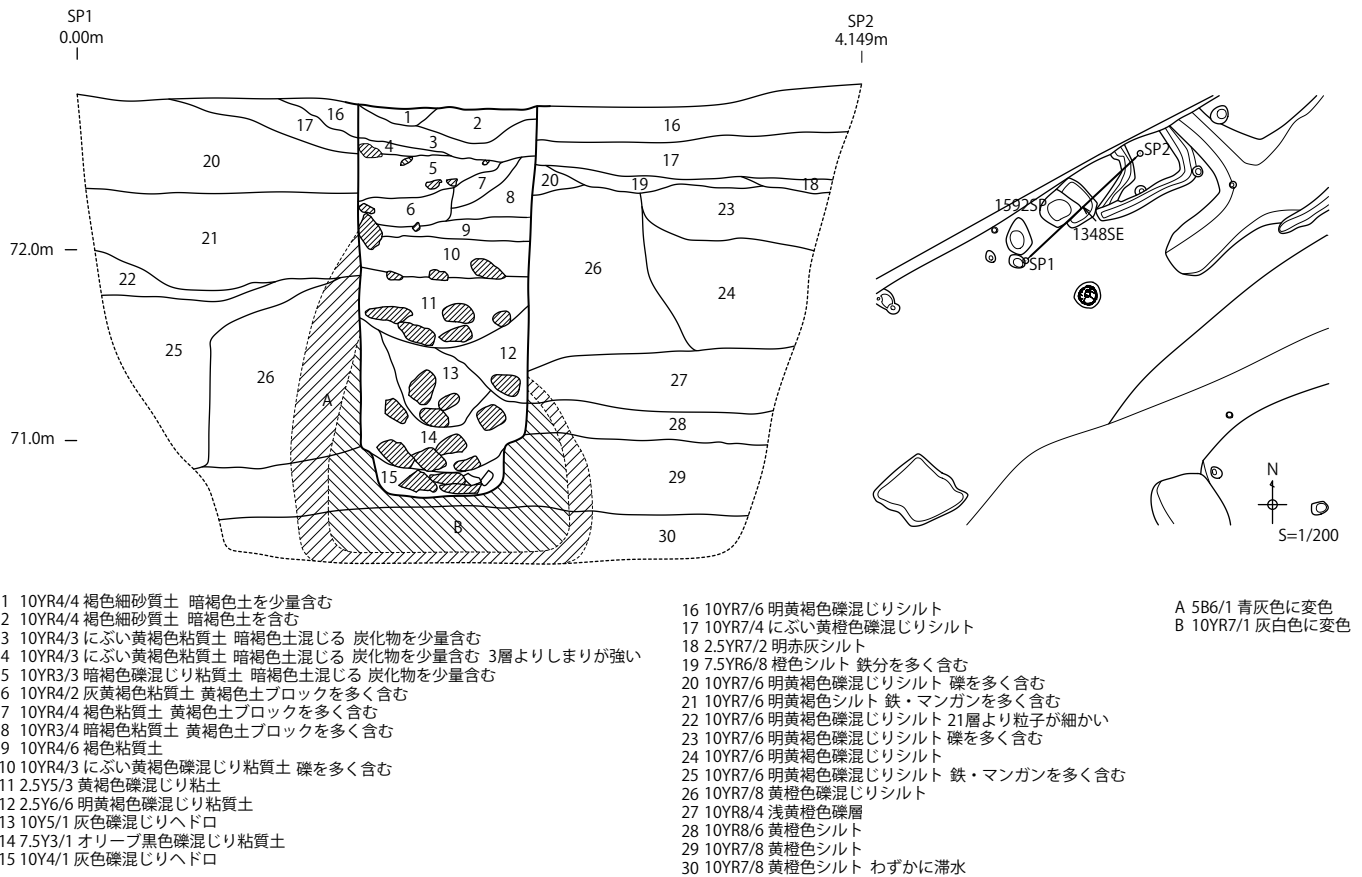
1597SE の平面形は 2.20 m×2.00 m の円形で、深さは 0.90 m を測る。底部で湧水層に達することから井戸と判断される。井戸側の構築物などは確認できない。1596SE が埋まった後に掘り直したものと考えられる。

1598SE の平面形は 2.80 m×2.20 m の楕円形で、深さは 0.5 m を測る。底部が湧水層に達することから井戸と判断される。井戸側の構築物などは確認できない。

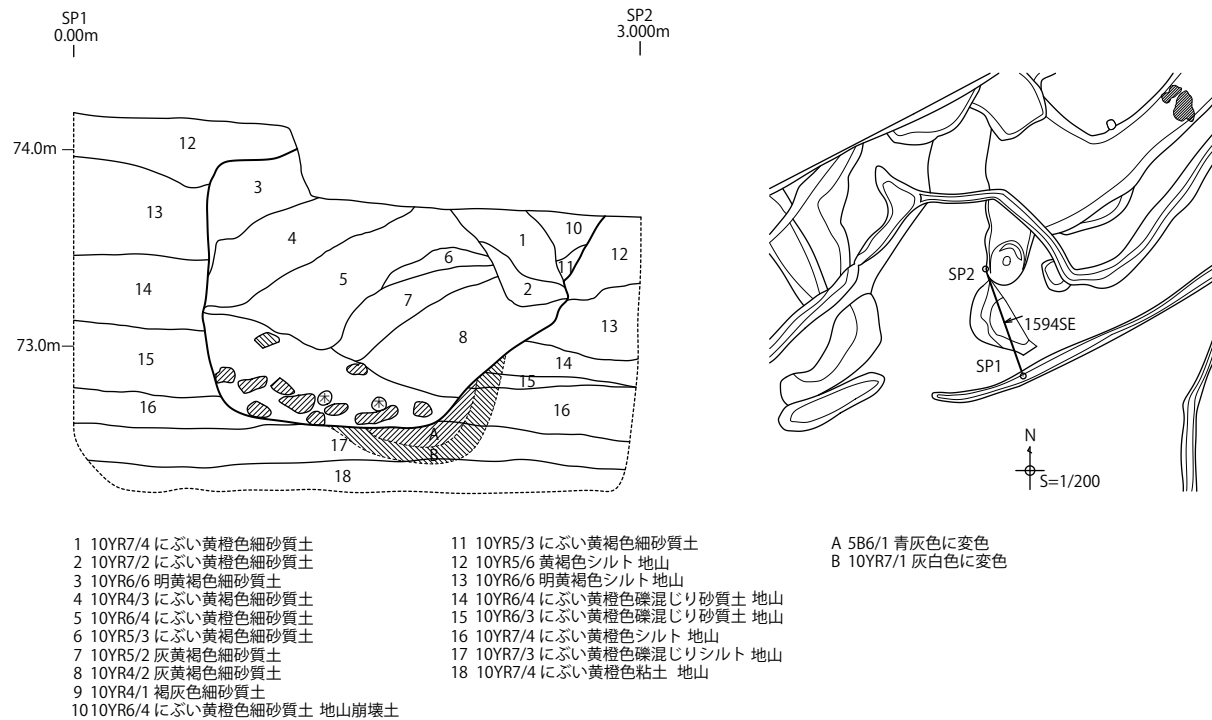
これらの時期は、いずれからも遺物が出土せず明確ではないが、1591NR の埋土から渥美型第 6 形式の山茶碗が出ていることから、13 世紀以前である可能性が考えられる。

遺 構

1348SE

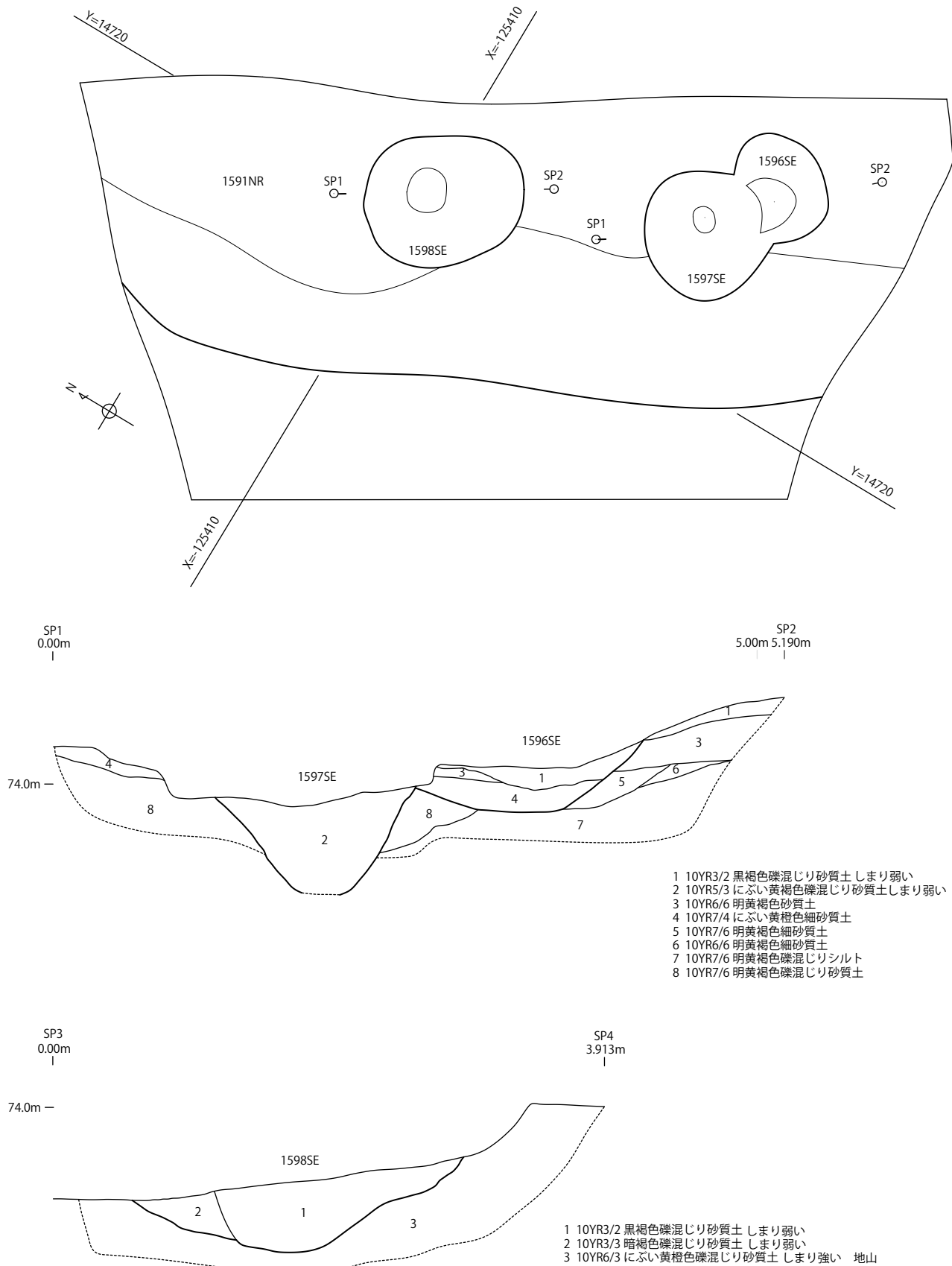


1594SE



第 34 図 井戸 1348SE・1594SE 遺構図 1/40

羽根遺跡



第 35 図 井戸 1596SE・1597SE・1598SE 遺構図 1/40

遺 物

第3章 遺 物

第1節 出土遺物の概要

今回の調査で羽根遺跡から出土した遺物は、整理作業終了後の段階で27リットル入りコンテナに約60箱にのぼる。その内訳は、土器・陶磁器類、金属製品、木製品、石製品などに分けることができる。ここでは、遺物をこの材質別に大別して報告することとしたい。

遺物の採取方法は、通常の包含層や遺構掘削において発見された遺物を採取する方法であり、篩別などの厳密な方法を採用してはいない。

第2節 土器・陶磁器類

本遺跡から出土した焼物（土器・陶磁器類）は弥生時代から江戸時代までに至る幅広い時期の遺物が存在しているが、遺物の大半は戦国時代から江戸時代に属するものである。この時期の遺物は瀬戸・美濃窯産陶器と土師器が大半を占め、この他に常滑窯産陶器、肥前窯産陶磁器、京・信楽窯産陶器、中国産磁器、瓦器、瓦などが存在する。瀬戸・美濃窯産陶器については藤澤良祐の分類と編年を、常滑窯産陶器については中野晴久の分類と編年を参考にした。また土師器については便宜上次のように分類を行うこととした。

内耳鍋のうち体部から口縁部が全く屈曲しないものをA類とし、体部と口縁部の境界でわずかに屈曲する内彎形のものをB類、体部から口縁部が大きく屈曲し口縁部を外側に折り返すくの字形のものをC類とした。A類は、体部が直立するものを第1形式、口縁部がやや内彎したものを第2形式、体部は直立するものの器高が低くなるものを第3形式、体部から口縁部へ内彎し器高が低くなるものを第4形式とした。B類は、口縁部より体部が膨らむものを第1形式、体部から口縁部へほぼ一

遺物の多くは遺構から出土しているが、実際の調査では厳密に遺構面を把握して掘削していないことなどから、別遺構を起源とする遺物を含んでしまっている場合も想定される。多くの資料群にこのような一括性に疑問が生じていることをあらかじめ断っておきたい。

以上のような状況ではあるけれども、本報告では比較的豊富な出土量を持つ遺構の出土資料を中心に図化し紹介することとした。

直線に立ち上がるものを第2形式、口縁部が体部より開くものを第3形式とした。C類は、口縁部より体部が膨らむものを第1形式、口縁端部と体部の膨らみが断面でほぼ一直線に並ぶものを第2形式、口縁部が体部より開くものを第3形式とした。これら鍋の時期を鈴木正貴の分類と編年を参考に放射性炭素年代測定データを加味して考えると、第1形式が15世紀中～15世紀後半、第2形式が15世紀後半～16世紀前半、第3形式が16世紀末～17世紀前半、第4形式が18世紀と考えられる。B類は第1形式が15世紀後半～16世紀前半、第2形式が16世紀後半～17世紀初頭、第3形式が16世紀末～17世紀初頭と考えられる。C類は第1形式が15世紀中頃、第2形式が15世紀後半、第3形式が15世紀後半～16世紀前半と考えられる。

土師器皿については、そのほとんどが非ロクロ調整のものであるため個体差が大きく分類しにくい、便宜上断面形が箱形に近いものをA類、底部からやや膨らみながら口縁部へ立ちあがるものをB類、口縁端部が外へ反るものをC類、底部から体部が直線的に開くものをD類、

羽根遺跡

それ以外のものとして分類を行った。

501SW 出土遺物（第 36 図・第 37 図 1～39）

瀬戸・美濃窯産陶器と土師器、常滑窯産陶器、中国産青磁・白磁などがある。検出・精査時の遺物として土師器皿 A 類（1～7、9、10）、土師器皿 D 類（8）、瓦質蓋がある。石垣解体後、裏込め部分から出てきたものとして、瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗（12～15）があり、12 と 15 は古瀬戸後Ⅳ期、13 は大窯 2 段階、14 は登窯第 2 小期の資料と考える。17 は白磁皿で割高台をもち、27 は青磁である。土師器は、蓋（16）、皿（18～26）、茶釜（28・29）、内耳鍋 A 類（30）、C 類（31～34）、羽付鍋（35～37）がある。16 は内側にススが付着しており火消壺の蓋と考えられる。皿は A 類（18）、B 類（19～21・24）、C 類（26）、D 類（22・23・25）であり、26 については底部が穿孔されている。内耳鍋 A 類（30）は第 2 形式、C 類（31～34）は 31 が第 1 形式、他は第 2 形式である。この他、常滑窯産陶器として真焼の甕（38）、壺（39）がある。38 は 10 形式、39 は 11 形式に属する。全体としては 17 世紀前半までの資料でまとまっていると考えられる。

502SU 出土遺物（第 38 図 40～56） 瀬戸・美濃窯産陶器と土師器、常滑窯産陶器などがある。検出・精査時の遺物として土師器内耳鍋 A 類第 2 形式（40）がある。石塔類とともに出土した遺物として、瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗（43・44）、丸碗（45）、丸皿（46）がある。44 は白天目、45 は底部に墨書がある。丸皿（46）は大窯 2 期段階と考えられるが、それ以外は登窯第 1～第 2 小期に位置づけられる。土師器は、皿（47～50）、内耳鍋 A 類（55）、内耳鍋 B 類（53・55・56）、内耳鍋 C 類（52）、羽付鍋（54）がある。皿は A 類（49・50）、D 類（47・48）である。内耳鍋は内耳鍋 A 類（55）は第 1 形式、内耳鍋 B 類（53・56）は 53 が第 1 形式、56 が第 2 形式、内耳鍋 C 類（52）

は第 2 形式である。常滑窯産陶器として 17 世紀に属する赤物の深鉢（51）がある。下層からの遺物としては、土師器皿 B 類（41）、土師器鍋（42）がある。土師器鍋については羽付鍋の可能性もあるが、口縁部が内傾しておりはっきりしない。概ね 17 世紀前半を中心とする資料であるといえる。

503SM 出土遺物（第 39 図・第 40 図 57～91）

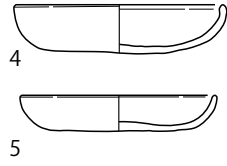
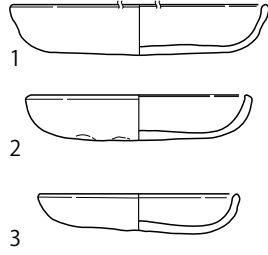
瀬戸・美濃窯産陶器と土師器、常滑窯産陶器などがある。瀬戸・美濃窯産陶器には仏餉具（58）、端反皿（59）、折縁中皿（60）、花瓶（73）、播鉢（74・75）がある。58・60・73 は古瀬戸後Ⅳ期、59 は大窯第 1 段階、74 は大窯 3 段階、75 は大窯 2 もしくは 3 段階に位置づけられる。土師器には皿（62～72）、茶釜（86～88）、内耳鍋 A 類（89～90）、内耳鍋 B 類（83～85）、内耳鍋 C 類（79～82）がある。土師器皿は A 類（64・65）、B 類（67～70）、C 類（62・63）、D 類（66・71）で、72 は唯一のロクロ調整皿である。内耳鍋 A 類（89～90）は 90 が第 1 形式、89・91 は第 2 形式、内耳鍋 B 類（83～85）はすべて第 1 形式、内耳鍋 C 類（79～81）は 79・82 が第 1 形式、80・81 が第 3 形式である。常滑窯産陶器として真焼の甕（76）があり、10 形式に属する。この他、京・信楽系碗（57）、中国産磁器大皿（61）がある。57 については底部に『清』の刻印が施されている。下層からは瀬戸・美濃窯産の丸皿（77）、土師器皿（78）がある。丸皿（77）は大窯 3 段階である。78 は土師器皿と考えてはいるが体部が丸く口縁端部が外反しており今回の分類に当てはまらないものである。全体としては 15 世紀後半から 16 世紀後半に位置づけられる。

A 区溝出土遺物（第 41 図 92～107）

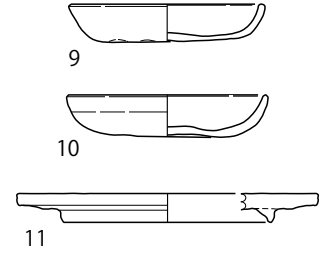
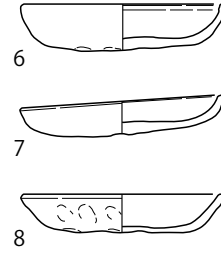
A 区の溝から出土した資料を一括して紹介したい。92・93 は 031SD 出土遺物。92 は弥生時代後期の高杯脚部で混入資料である。93 は土師器皿 B 類である。94・95 は 034SD 出土遺物。94 は仏餉具で美濃窯産登窯第 6 小期と考えら

遺物

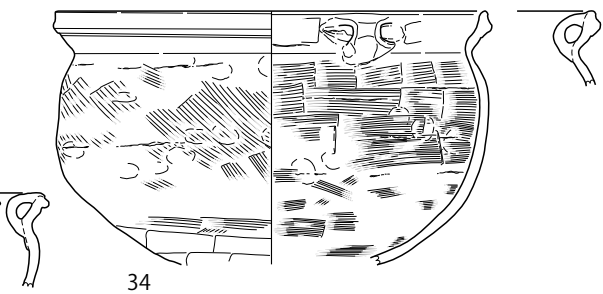
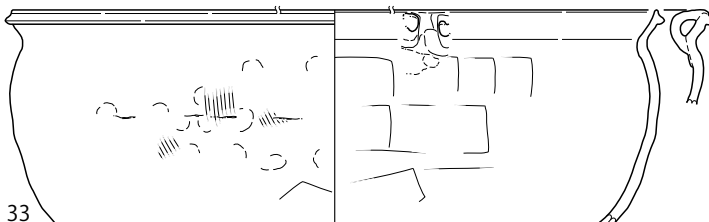
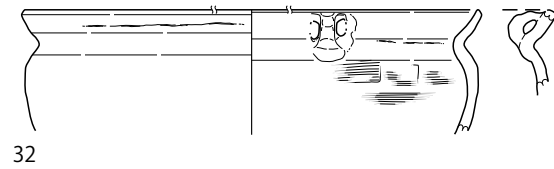
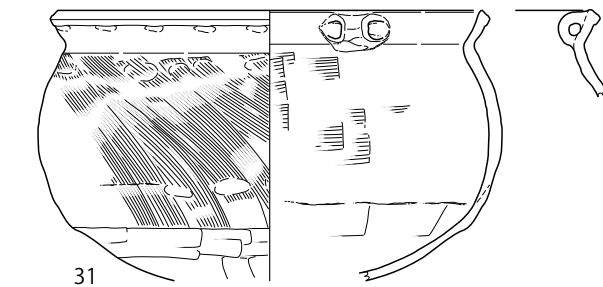
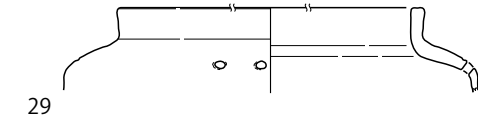
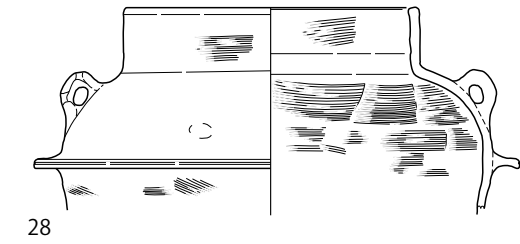
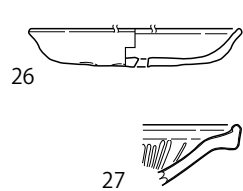
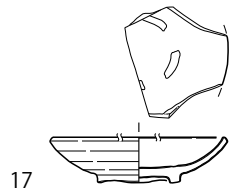
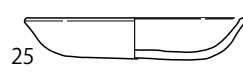
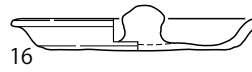
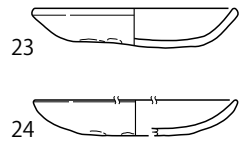
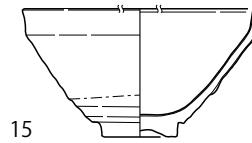
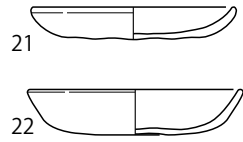
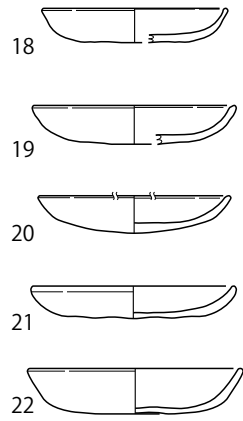
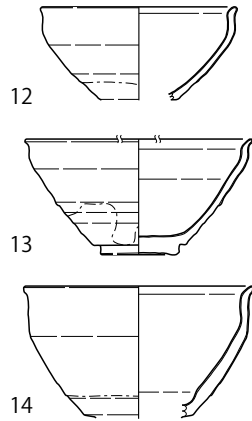
501SW 検出時出土遺物



501SW 出土遺物

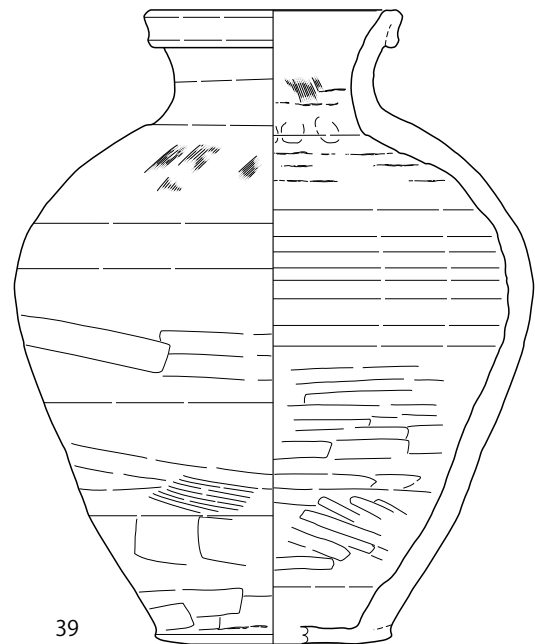
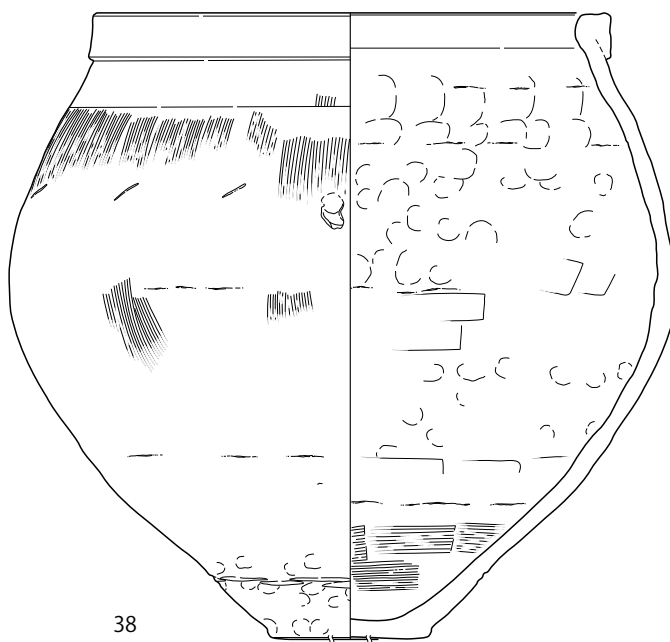
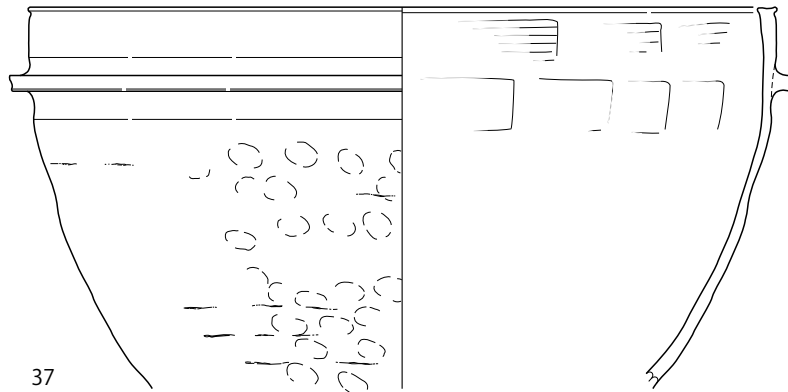
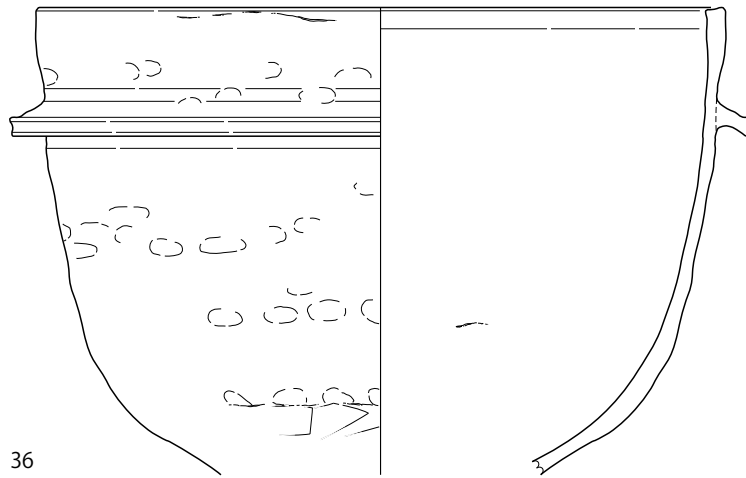
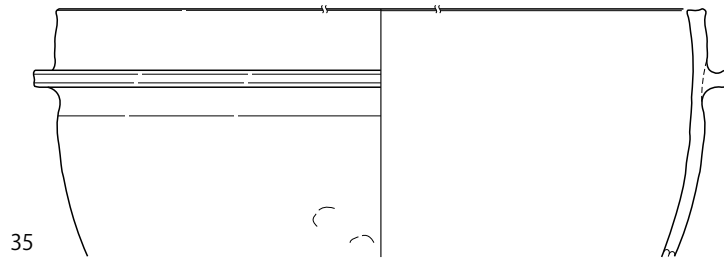


501SW 裏込め出土遺物



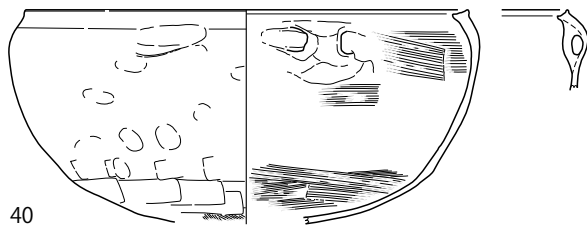
第 36 図 501SW 出土遺物 (1) (S=1/4)

羽根遺跡



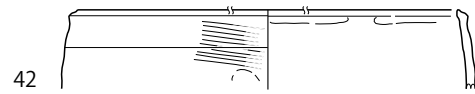
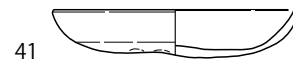
第 37 図 501SW 出土遺物 (2) (S=1/4)

502SU 上層

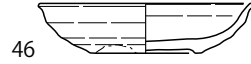
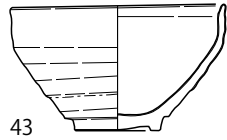


502SU 下層

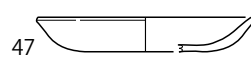
遺物



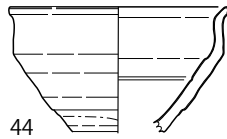
502SU



43



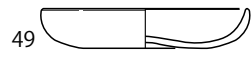
47



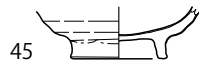
44



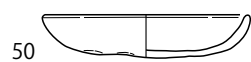
48



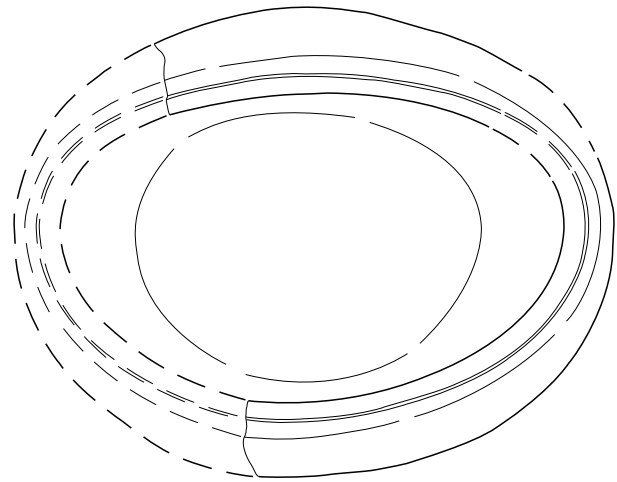
49



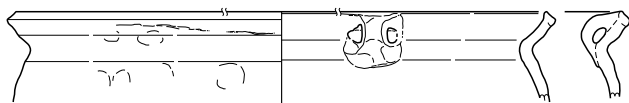
45



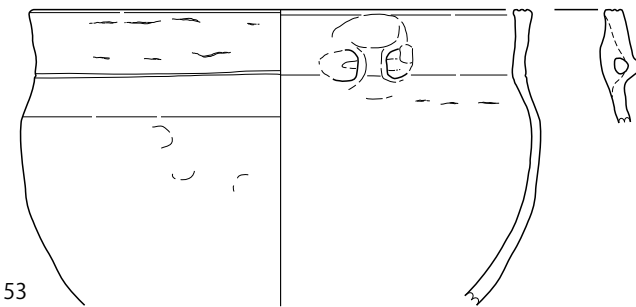
50



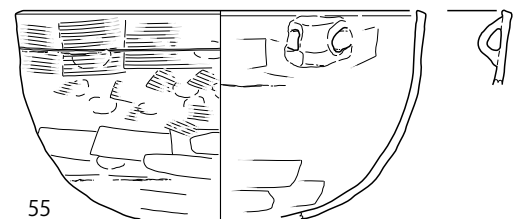
51



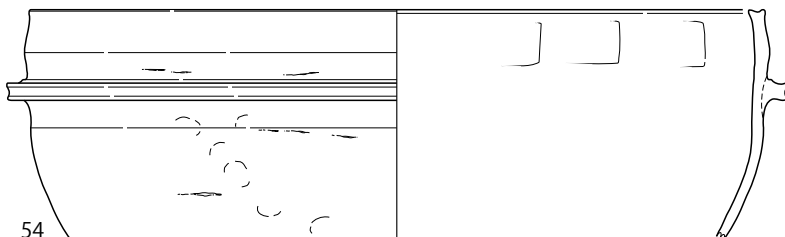
52



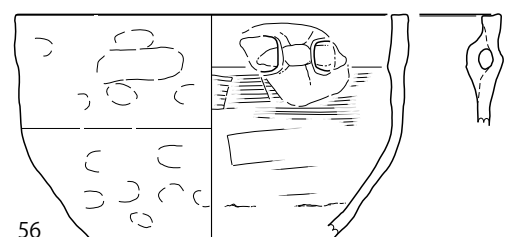
53



55



54

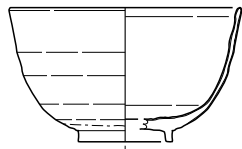


56

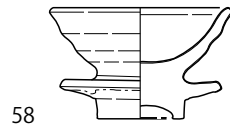
第 38 図 502SU 出土遺物 (S=1/4)

羽根遺跡

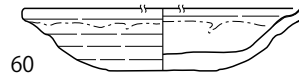
503SM



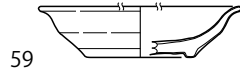
57



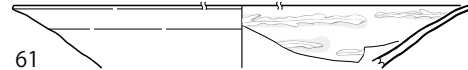
58



60



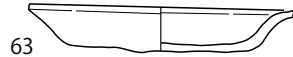
59



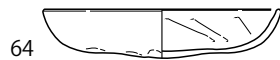
61



62



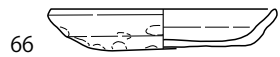
63



64



65



66



67



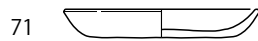
68



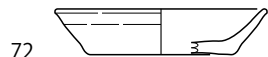
69



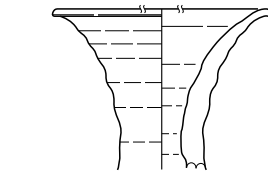
70



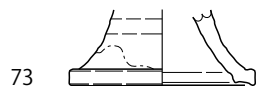
71



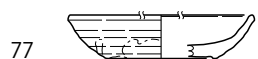
72



73



503SM 下層



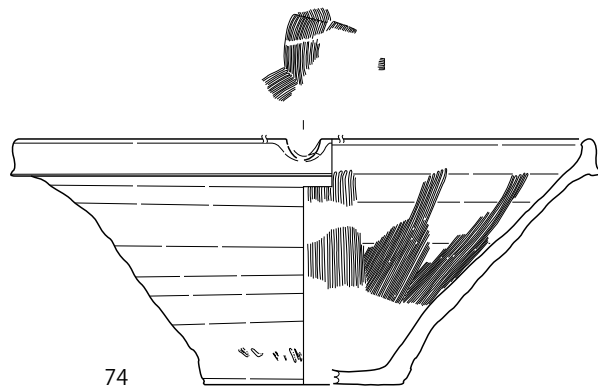
77



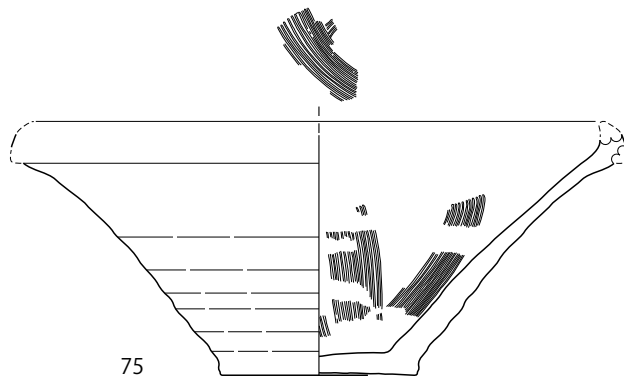
78



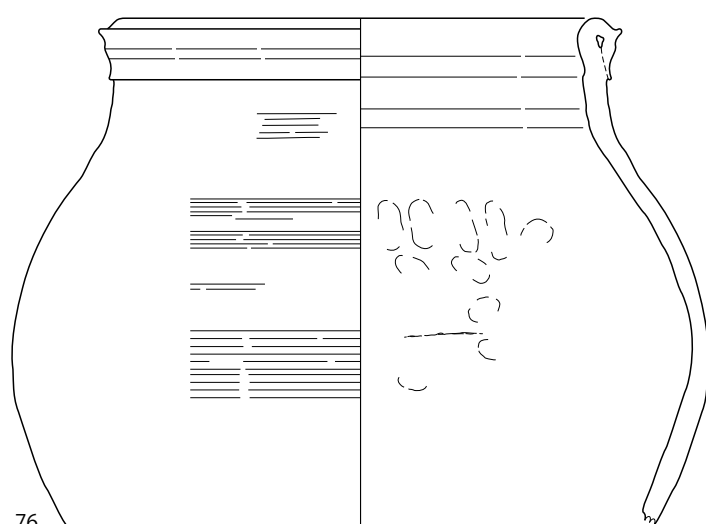
76



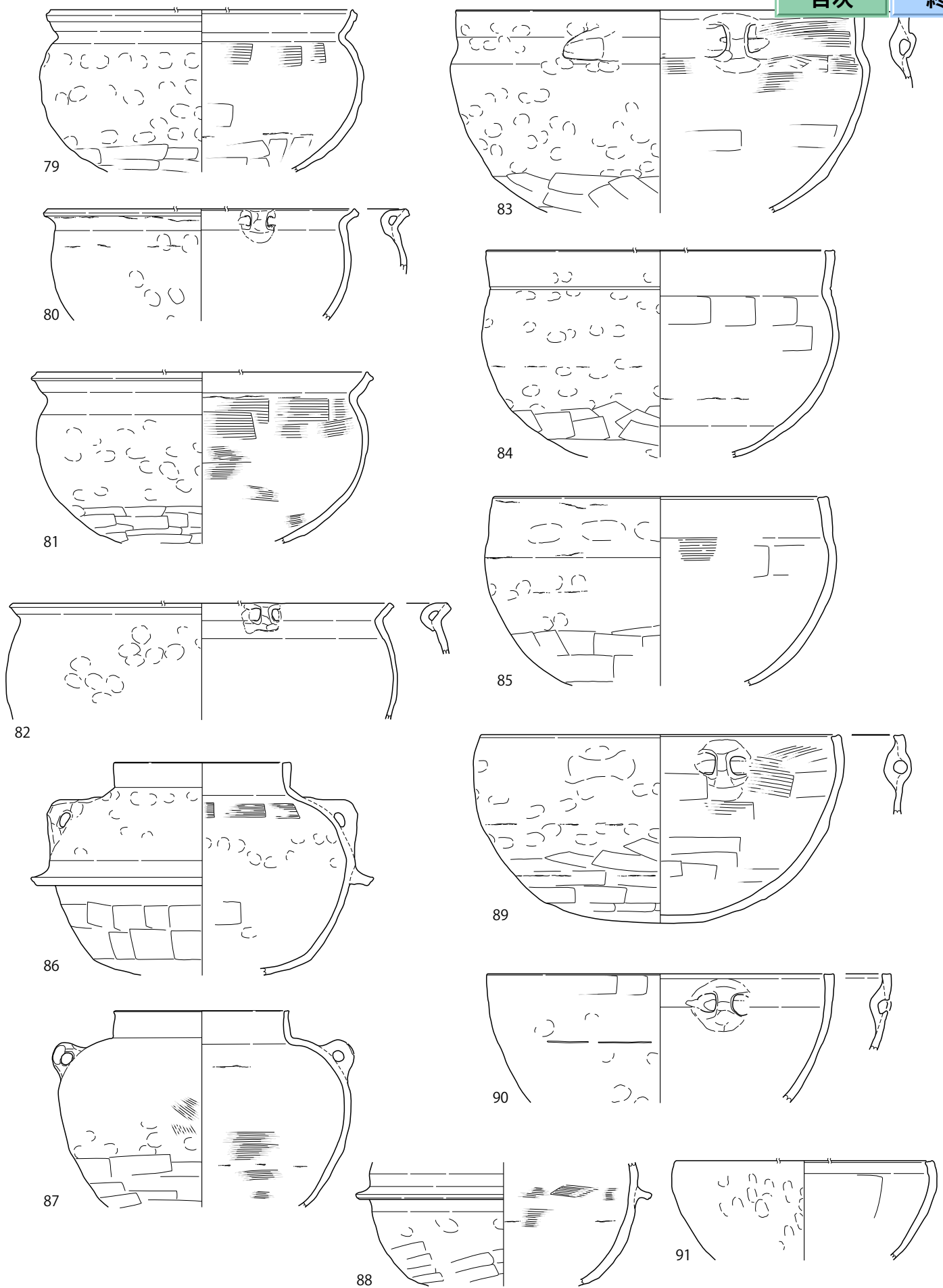
74



75

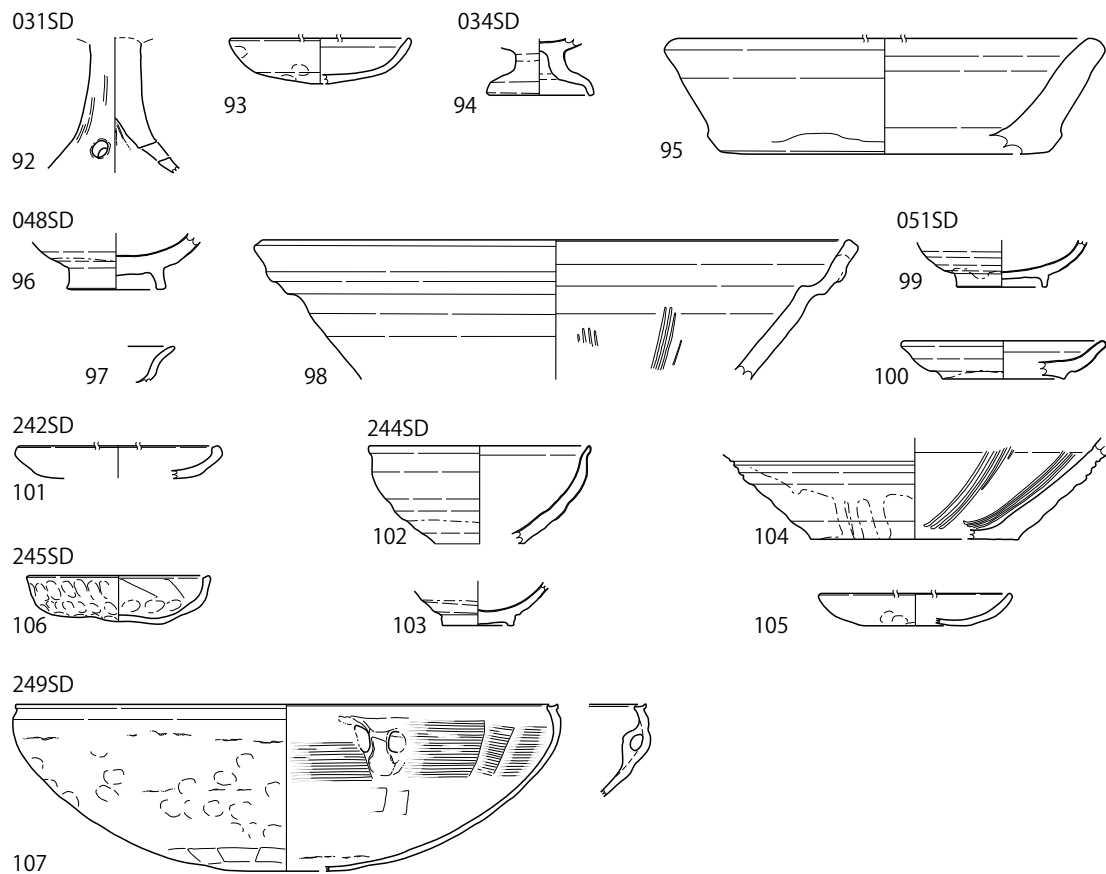


第 39 図 503SM 出土遺物 (1) (S=1/4)



第 40 図 503SM 出土遺物 (2) (S=1/4)

羽根遺跡



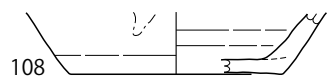
第 41 図 A 区 溝出土遺物 (S=1/4)

れるもの。95 は常滑窯産赤物の三足火鉢で 17 世紀と考えられる。96～98 は 048SD 出土遺物。96・98 は瀬戸窯産陶器で 96 は御室茶碗、98 は搦鉢である。96 は登窯第 2 小期、98 は登窯第 8 小期に属すると考える。99・100 は 051SD 出土遺物。99 は瀬戸窯産の御室茶碗、100 は美濃窯産灯明皿である。いずれも登窯第 6 小期に属するものである。101 は 242SD 出土の土師器皿 A 類、102～105 は 244SD 出土遺物。102～103 は瀬戸・美濃窯産陶器で 102 は天目茶碗、103 は丸錆小杯、104 は搦鉢である。102・104 は古瀬戸後 IV 期のもの、103 は登窯第 3 もしくは第 4 小期に属するものである。105 は土師器皿 B 類である。107 は 249SD 出土遺物で土師器の焙烙で 18 世紀と考えられる。

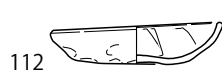
B 区溝出土遺物 (第 42 図 108～135) B 区の溝から出土した資料を一括して紹介したい。108～117 は 1256SD 出土遺物である。108 は瀬戸・美濃窯産の祖母懷壺底部、古瀬戸後 IV 期もしくは大窯 1 段階に属するものである。109 は瀬戸窯産かけ分け碗で登窯第 5 もしくは第 6 小期、116 は美濃窯産折縁輪髹皿で登窯第 7 小期に属するものである。110～115 は土師器皿で 110～114 は A 類、115 は底部から口縁まで直線的に開き口縁部が水平になでであり、今回の分類に属さないものである。117 は、土師器内耳鍋 C 類第 2 形式である。118～121 は 1257SD 出土遺物である。118 は瀬戸窯産腰錆碗、119 は美濃窯産灯明皿とともに登窯第 6 小期に属する。121 は土師器皿 A 類、121 は常滑窯産真焼の小型壺で

遺物

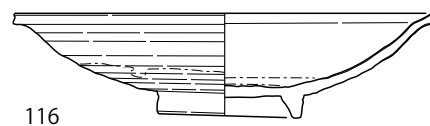
1256SD



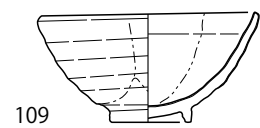
108



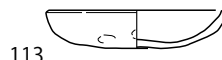
112



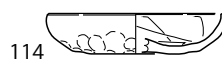
116



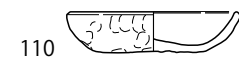
109



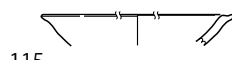
113



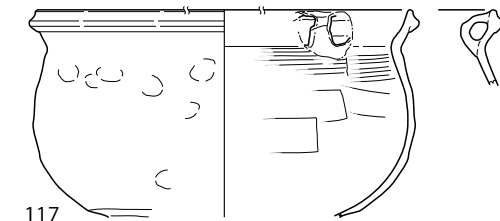
114



110



115

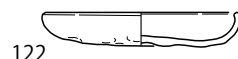


117



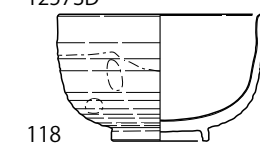
111

1341SD



122

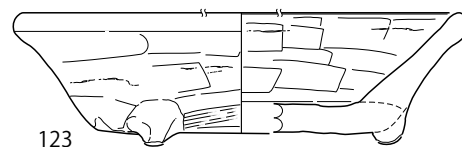
1257SD



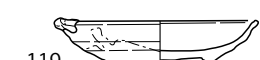
118



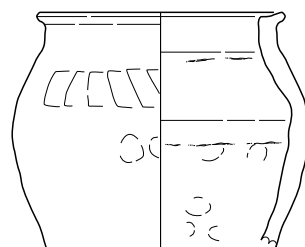
120



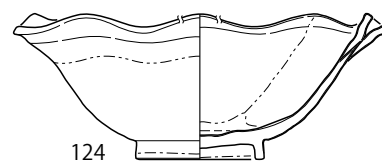
123



119



121



124

1344SD

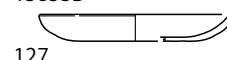


125



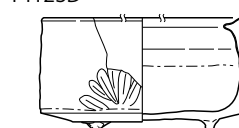
126

1385SD

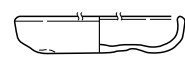


127

1412SD

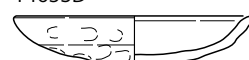


128



129

1463SD



131

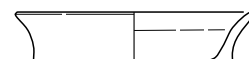
1525SD



133



130



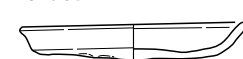
132

1528SD



134

1529SD



135

第 42 図 B 区 溝出土遺物 (S=1/4)

羽根遺跡

17世紀に属する。122から124は1341SDから出土した遺物である。122は土師器皿A類、123は常滑窯産赤物の三足火鉢で17世紀と考えられ、124は瀬戸・美濃窯産菓子鉢で登窯第10もしくは第11小期に属するものである。125・126は1344SDから出土した遺物である。125は美濃窯産仏餉具で登窯第8小期もしくは第9小期に属するもの、126は弥生時代末期と考える台付甕の脚部である。127は1385SD出土遺物で土師器皿B類である。128～130は1421SDの出土遺物である。128は美濃窯産筒形香炉で登窯第7小期に属するもの、129・130は土師器皿A類である。131・132は1463SD出土遺物である。131は土師器皿B類、132はロクロ整形された土師器の深皿で底部が被熱している。当遺跡の他の土師器皿とは明らかに異なっており、古代以前のものの混入資料の可能性もある。133は1525SD出土遺物で瀬戸・美濃窯産端反碗の蓋で登窯第11小期に属するものである。134は1528SD出土遺物で土師器内耳鍋A類第3形式である。135は1529SD出土遺物で土師器皿C類である。

746SD 出土遺物 (第43図 136～166) 瀬戸・美濃窯産陶器、肥前系陶磁器、京・信楽系陶器、中国産磁器、土師器などがある。瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗(136・137)、丸碗(138・142)、端反碗(139・140)、尾呂茶碗(141)、小碗(143)、小杯(144)、梅文碗(147)、せんじ碗(149)、仏餉具(152)、灯明皿(154)がある。時期的には登窯第2小期以降のものであり、149が登窯第8小期となり最新資料である。肥前系陶磁器には刷目碗(145)、陶器碗(146・148)、磁器碗(150)がある。148は京焼風のもので底部に刻印が入る。京・信楽系陶器には碗(151)がある。中国産磁器には青花皿(153)がある。土師器は皿(155～166)でA類(156～161・164・165)、B類(155・162・163・166)である。163につい

ては内部にススが付着しており灯明皿としての使用が考えられる。また、166については底部に穿孔が施してある。

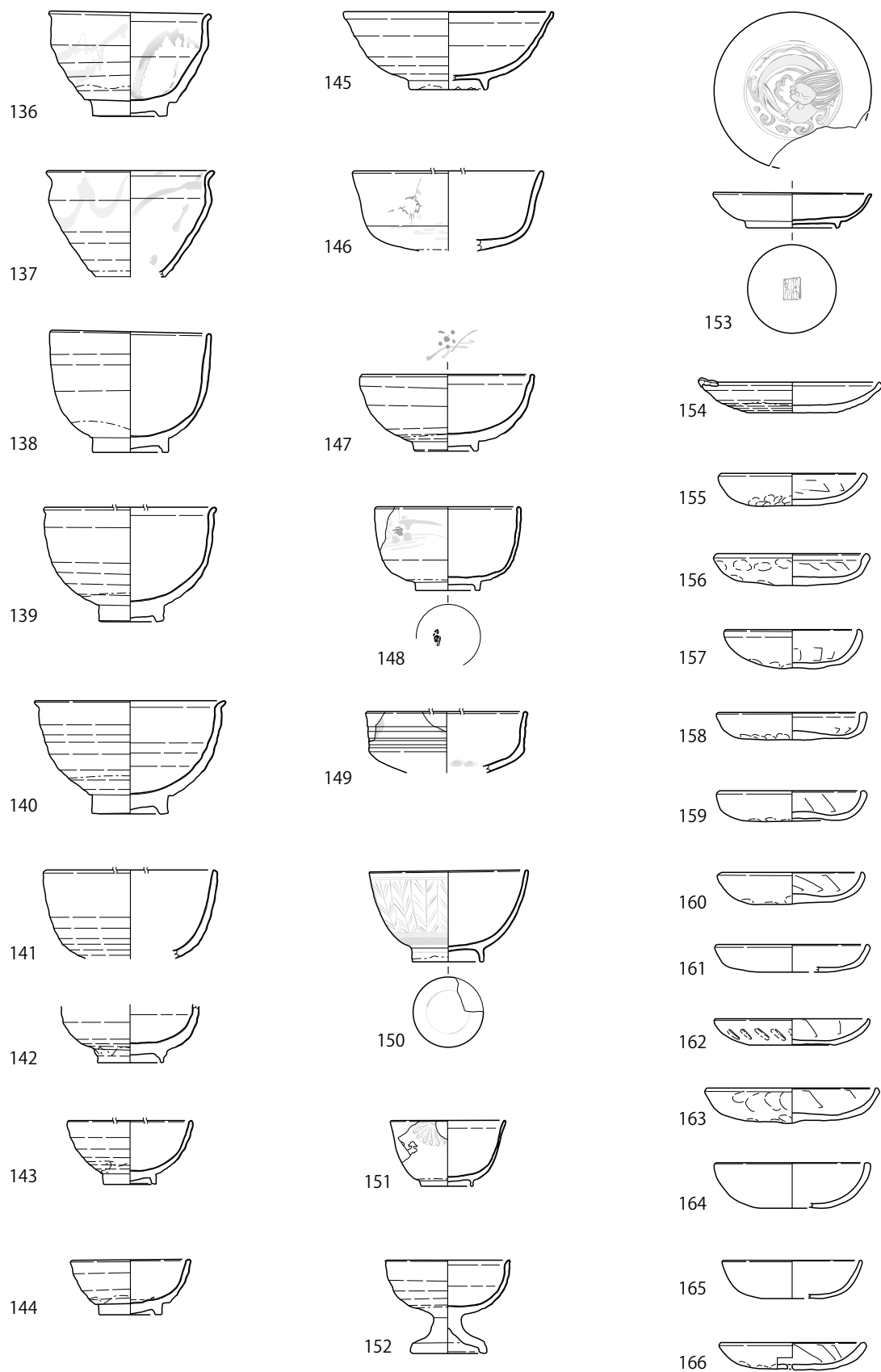
769SD 出土遺物 (第44図 168～180) 瀬戸・美濃窯産陶器、常滑窯産陶器、土師器、瓦器がある。瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗(168)、尾呂茶碗(169)、向付(170・171)、筒形香炉(172)、搦鉢(176・177)がある。177は古瀬戸後IV新期、172は大窯1段階170・171・177が登窯第1もしくは第2小期、168が登窯第3小期、169が登窯第5もしくは第6小期で最新資料である。170・171の底部には花押の様な墨書が施されている。176は一度割れたものを接ぎ直してあり、177は口縁部が割れたものを整形し、火鉢に転用したものと思われる。土師器には皿(173～175)、内耳鍋B類(180)がある。皿について173はA類、174はB類、175はD類である。内耳鍋B類は第3形式である。常滑窯産陶器には赤物の三足火鉢(178)があり17世紀前半と考えられる。瓦器には三足火鉢(179)がある。

C区溝出土遺物 (第44図 167・181・182) C区の746SD、769SD以外の溝の出土遺物を一括して紹介したい。167は747SD出土遺物で巴紋の軒丸瓦でコビキBである。181は787SDの出土遺物で京・信楽系小杉茶碗で底部に墨書がある。182は846SD出土遺物で土師器皿B類である。

1352SK 出土遺物 (第45図 183～195) 瀬戸・美濃窯産陶器、土師器がある。瀬戸・美濃窯産陶器には平碗(183)、御室茶碗(184)、搦鉢(194・195)がある。183は登窯第5もしくは第6小期、その他は登窯第6小期である。土師器は皿(185～187)、内耳鍋A類(188～193)である。皿はすべてA類、内耳鍋A類はすべて第4形式である。17世紀末から18世紀の一括資料と考えられる。

土坑出土遺物 (第46図・第47図 196～228) 上記以外の土坑出土遺物について一括して紹

遺物

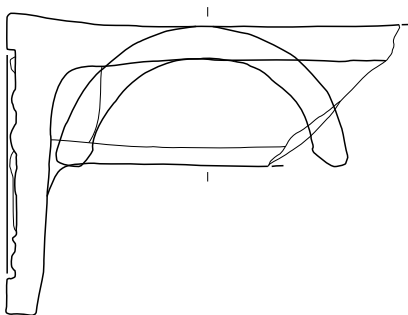


第 43 図 764SD 出土遺物 (S=1/4)

羽根遺跡

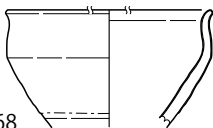
747SD

167

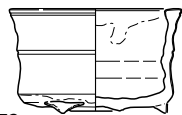


769SD

168



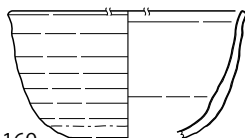
172



176



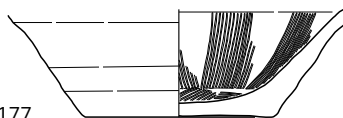
169



173



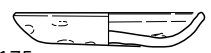
177



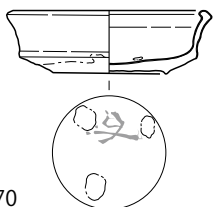
174



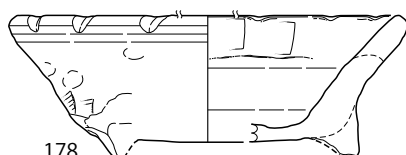
175



170



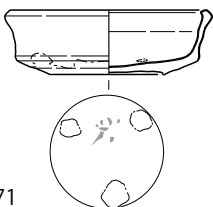
178



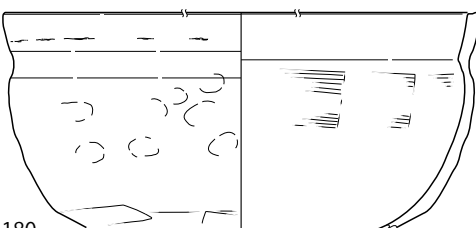
179



171

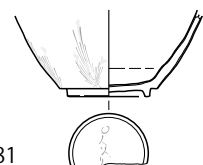


180



787SD

181



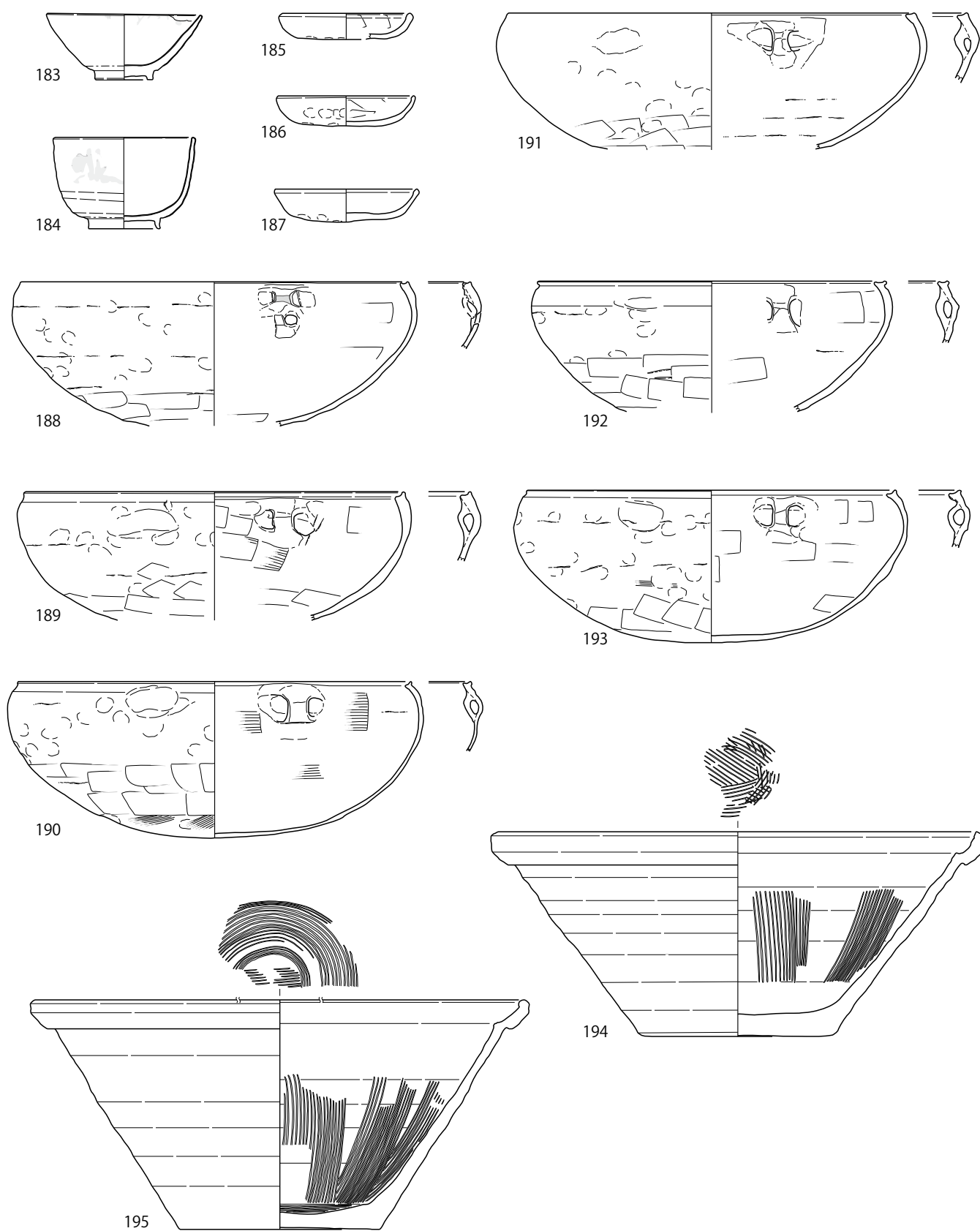
846SD

182



第 44 図 C 区 溝出土遺物 (S=1/4)

遺物



第 45 図 1352SK 出土遺物 (S=1/4)

羽根遺跡

介をしたい。196・197は205SK出土遺物で、196は土師器内耳鍋C類第3形式、197は瀬戸・美濃窯産播鉢大窯1段階である。198は258SK出土遺物で、土師器内耳鍋B類第2形式である。199は387SK出土遺物で、土師器鍋C類第1形式である。200は389SK出土遺物で、土師器皿B類、201は513SK出土遺物で土師器皿B類である。202・203は643SK出土遺物で202は土師器皿C類、203は土師器皿B類である。204は837SK出土遺物で、瀬戸・美濃窯産仏餉具で登窯第5小期である。205は849SK出土遺物で瀬戸・美濃窯産縁釉卸皿で古瀬戸後Ⅲ期である。206・207は884SK出土遺物で、206は瀬戸・美濃窯産縁釉皿で古瀬戸後Ⅲ期、207は土師器伊勢型鍋口縁部で14世紀と考えられる。208は931SK出土遺物で土師器羽釜、209は1137SK出土遺物で土師器皿A類である。210は1317SK出土遺物で瀬戸窯産平碗、古瀬戸後Ⅳ新期である。211～214は1347SK出土遺物で211～213は瀬戸・美濃窯産陶器である。211・212は片口鉢で211は登窯第8もしくは第9小期、212は第7小期に属する。213は火入で、登窯第8もしくは第9小期に属する。214は土師器茶釜である。215は1373SK出土遺物で土師器皿A類である。216は1398SK出土遺物で瀬戸窯産播鉢、登窯第8小期に属する。217は1373SK出土遺物で常滑窯産の真焼の甕で、5形式に属する。218～220は1526SK出土遺物で218・219は土師器皿でいずれもA類、220は土師器有孔円盤で中央の穴は円形ではなく方形に近く、銭貨を模している可能性も考えられる。221・222は1527SK出土遺物で221は瀬戸窯産御室茶碗で登窯第7小期、222は土師器皿B類である。223・224は1534SK出土遺物で223は肥前系の磁器碗、224は瀬戸窯産播鉢で登窯第6小期である。225は1558SK出土遺物で土師器皿、体部から口縁部に向け外反しているが口縁は直立しているため

ほかの皿とは形状が異なっている。227～228は常滑窯産赤物の甕で、227は828SK出土遺物、228は829SK出土遺物、228は1527SK出土遺物で227・228は18世紀、229は17世紀前半と考えられる。

206SX出土遺物（第48図229～233・243）瀬戸・美濃窯産陶器、土師器がある。瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗（229・230）、黄瀬戸鉢（233）、輪禿皿（243）があり、登窯第1小期から第5小期に属するものである。土師器は皿（231・232）があり、231はA類、232はB類となる。17世紀と評価できる。

239SX出土遺物（第48図234～242・245・246）山茶碗、土師器がある。山茶碗には尾張型山茶碗（234・237・239）、渥美型山茶碗（235・236・238）、渥美型山茶碗小皿（239）がある。234・237・238・240は藤澤編年の第6形式、235・236は第7形式、239は第10形式である。なお237は内面に厚く炭化物が付着していた。土師器には皿（241・242）、羽釜（244）、伊勢型鍋（245）がある。土師器皿は241がD類、242がC類である。山茶碗の最新資料を評価すれば14世紀末から15世紀初頭と考えられる。

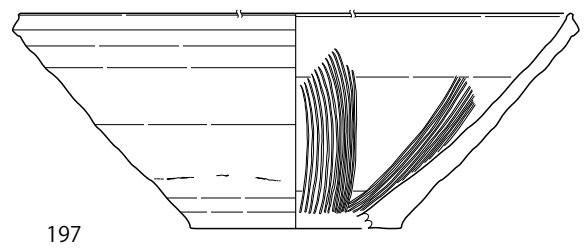
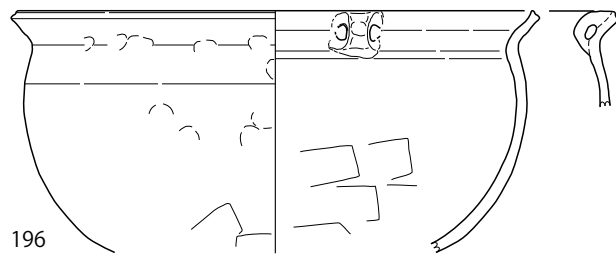
413SX出土遺物（第48図246）瀬戸窯産播鉢である。登窯第5小期に属するものである。

1591NR出土遺物（第48図247・248）山茶碗（247）、土師器皿（248）がある。247は渥美型で藤澤編年の第6形式、248はB類である。

1348SE出土遺物（第48図）瀬戸・美濃窯産陶器、常滑窯産陶器がある。瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗（249）、播鉢（250）があり、古瀬戸後Ⅳ新期から大窯1段階に属する。常滑窯産陶器には真焼の甕（251）があり、11形式に属する。15世紀後半から16世紀初頭と考えられる。

その他の遺構出土遺物（第49図252～277）柱穴などの遺構から少量出土した遺物を一括して紹介したい。瀬戸・美濃窯産陶器、常滑窯産

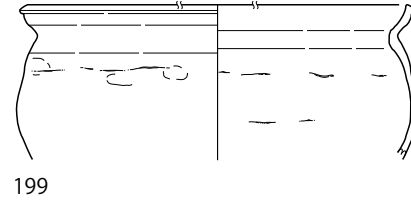
205SK



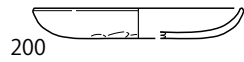
258SK



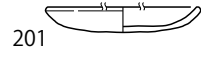
387SK



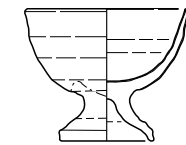
389SK



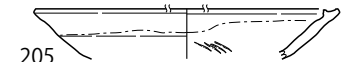
513SK



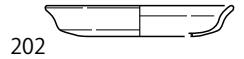
837SK



849SK



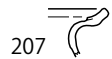
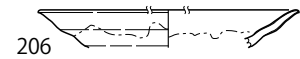
643SK



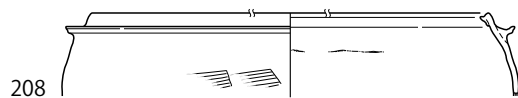
203



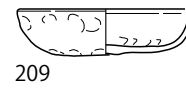
884SK



931SK



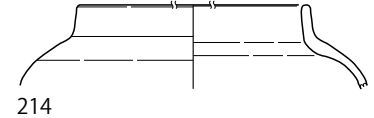
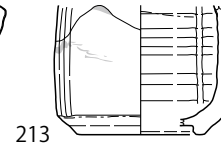
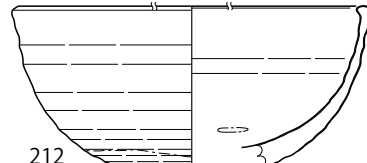
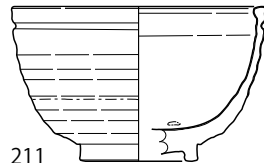
1137SK



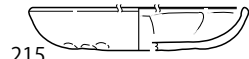
1317SK



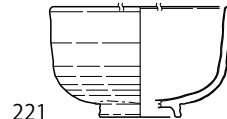
1347SK



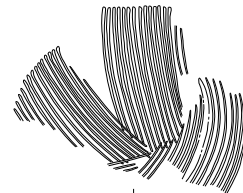
1373SK



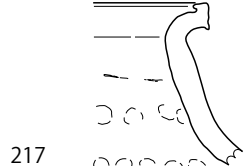
1527SK



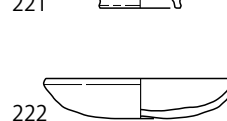
1398SK



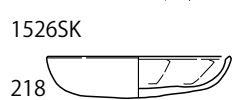
1524SK



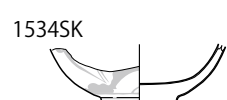
221



1526SK



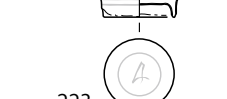
222



218



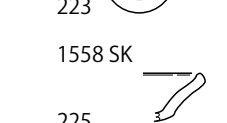
1534SK



219



223

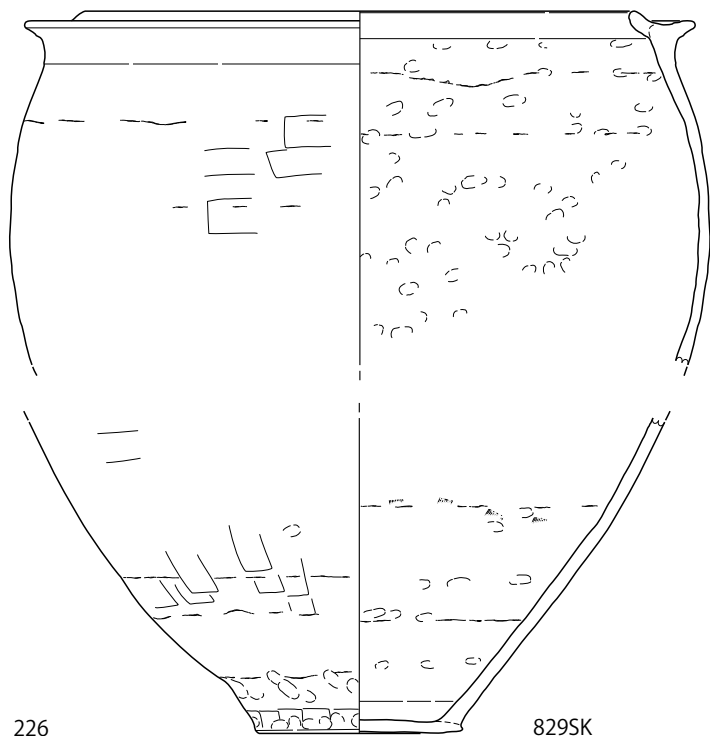


220

第 46 図 土坑出土遺物 (1) (S=1/4)

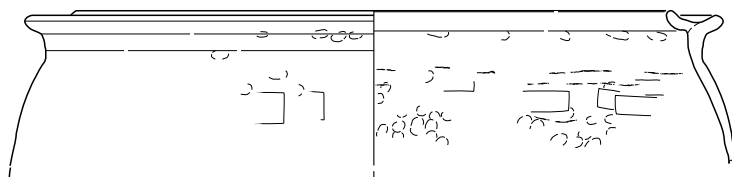
羽根遺跡

828SK



226

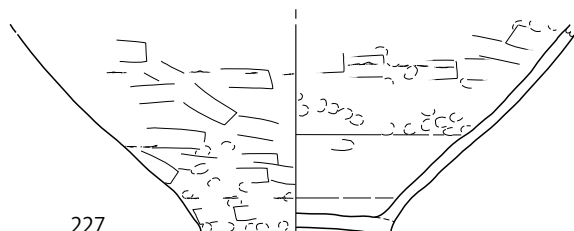
829SK



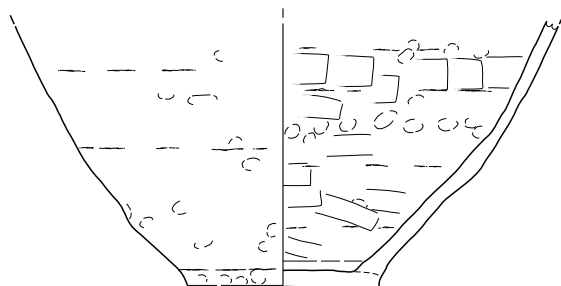
1527SK



227

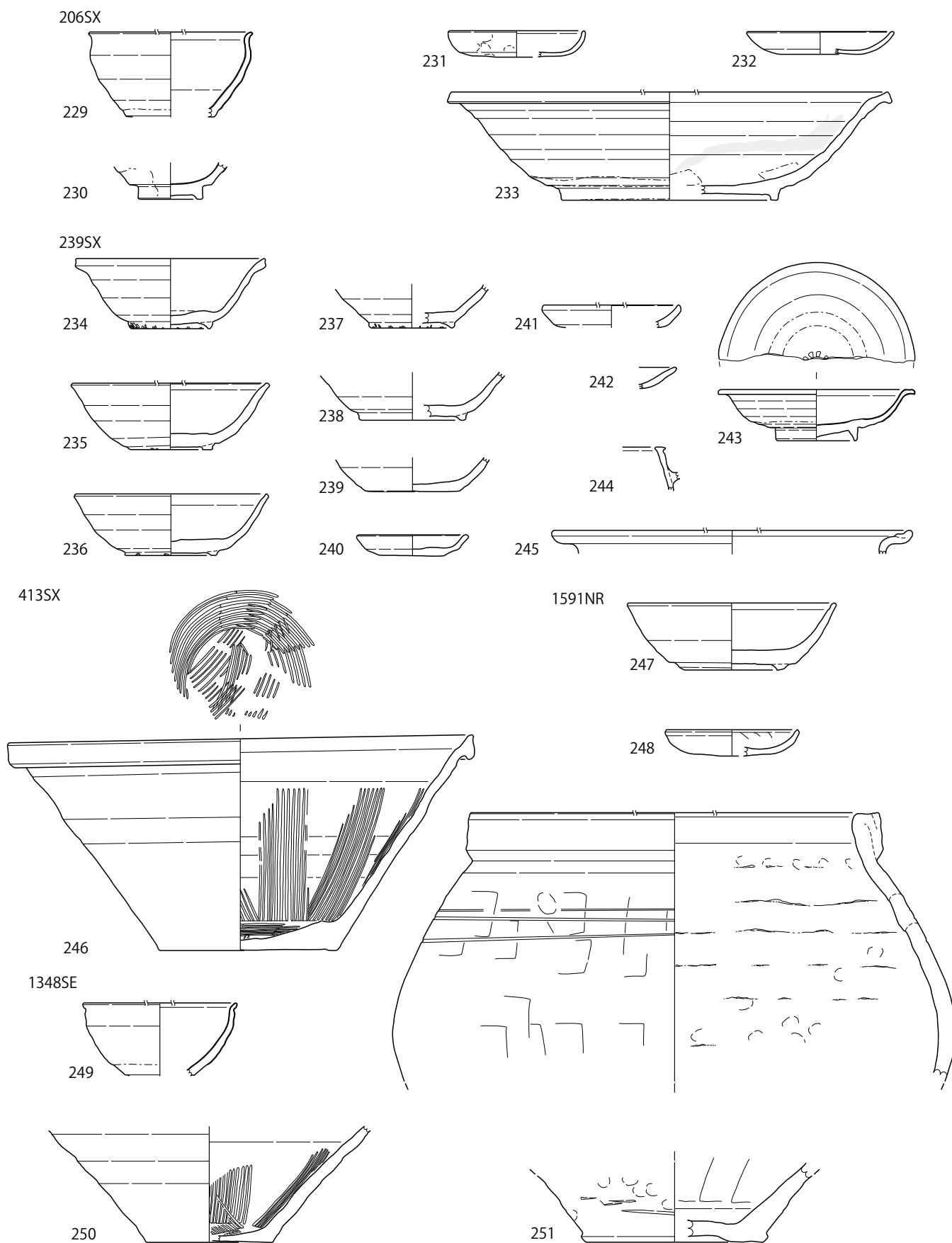


228



第 47 図 土坑出土遺物 (2) (S=1/8)

遺物



第 48 図 SX 等出土遺物 (S=1/4)

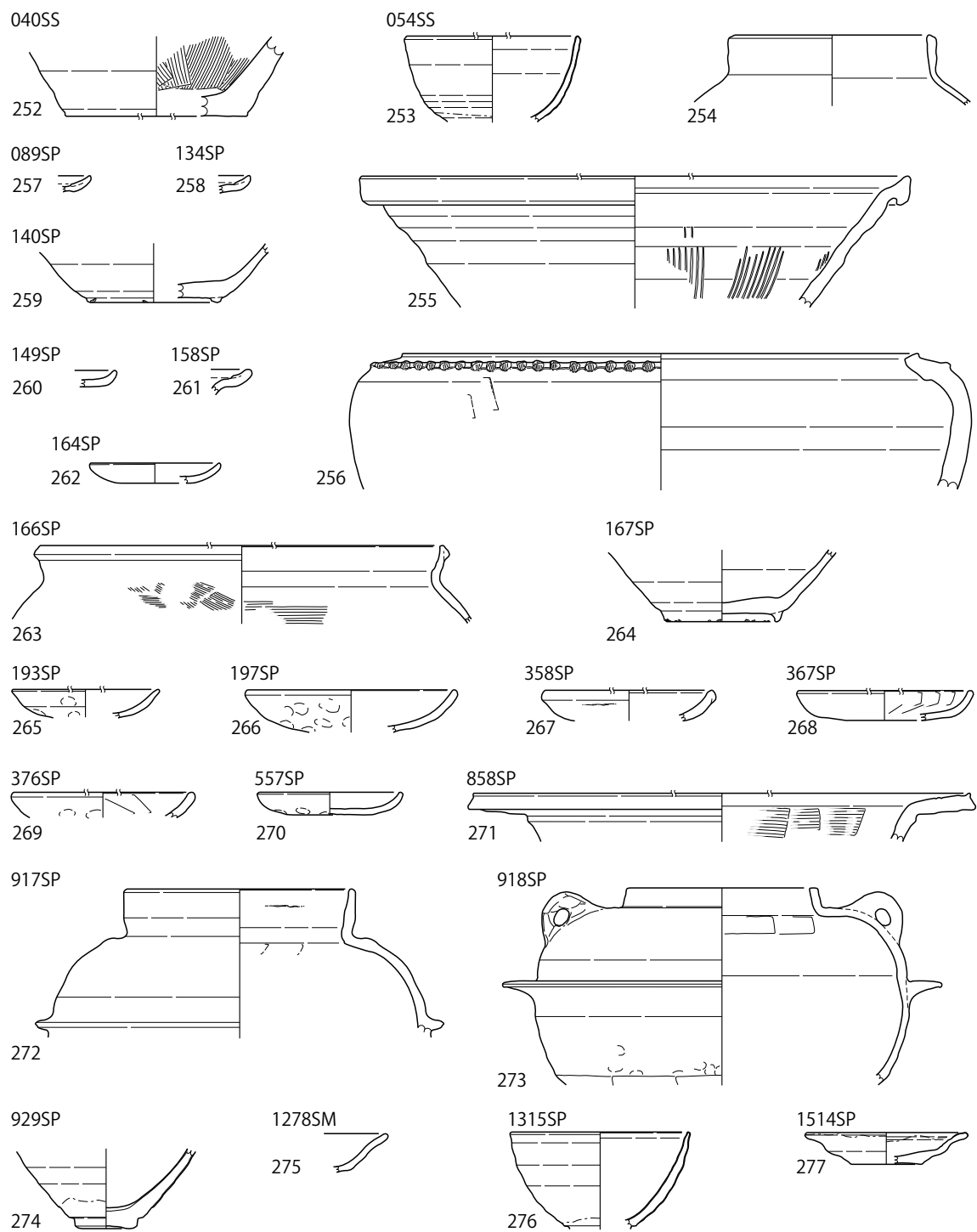
羽根遺跡

陶器、土師器、山茶碗などがある。瀬戸・美濃窯産陶器として播鉢（252・255）、天目茶碗（274・276）、縁釉小皿（277）がある。252は大窯1段階もしくは2段階、255は登窯第5小期、274は古瀬戸後Ⅲ期、276は大窯1段階、277は古瀬戸後Ⅳ古期である。常滑窯産陶器は17世紀の赤物の突帯付の深鉢（256）がある。土師器には皿（260・262・265～270・275）、茶釜（254・272・273）、伊勢型鍋（257・258・261）、内耳鍋C類（263）、火鉢（271）がある。土師器皿はB類（262・265～269・270）、C類（275）、その他（260）で、260は口径が小さく底部からわずかに口縁が立ち上がるものである。また265は内面にススが付着しており灯明皿としての使用が考えられる。263は内耳鍋C類第1形式である。山茶碗には渥美型山茶碗（259・264）があり、いずれも藤澤編年で第6形式である。他に産地不明の陶器丸碗（253）がある。

包含層掘削・検出時の遺物（[第50図](#) 278～308） 包含層の掘削や検出時に遺構出土の遺物として確認できなかった遺物を調査区ごとに一括して紹介したい。A区出土の遺物として瀬戸・美濃窯産陶器、土師器、渥美窯産壺などがある。瀬戸・美濃窯産陶器には天目茶碗（278～280）、播鉢（284）がある。279は登窯第4小期、278・280は登窯第5小期、284は古瀬戸後Ⅳ新期に属する。土師器には皿（281～

283）があり、281はC類、282がA類、283がB類である。285は渥美窯産の壺である。B区出土遺物としては土師器、弥生土器、瀬戸・美濃窯産陶器などがある。土師器には皿（286～291）があり、286～289はA類、290・291はD類である。弥生土器は壺（292～294）で、主に調査区西よりの山側から出土しているもので、弥生時代末期と考えるものである。瀬戸・美濃窯産陶器には小瓶（295）があり、登窯第8小期に属するものとする。C区出土の遺物としては、瀬戸・美濃窯産陶器、土師器、須恵器、瓦などがある。瀬戸・美濃窯産陶器には仏餉具（303）、端反皿（305）があり、303は登窯第6小期、305は登窯第1小期に属する。土師器には、皿（296～302）、土師器蓋（304）、内耳鍋C類（307）がある。土師器皿の多くは501SWの前面の埋土を掘削中に出土したものであり、296～300・302はA類、301はB類である。304は内面にススが付着しており、火消し壺の蓋と考えられる。307は2面への包含層掘削中に出土したもので内耳鍋C類第1形式である。須恵器は坏身（306）があり、底部にへら書きがあるもので湖西窯産の8世紀頃のものと考えられる。いぶし瓦には巴紋の軒丸瓦（308）がありコビキBである。747SDから出土した軒丸瓦と同形式のものと考えられる。

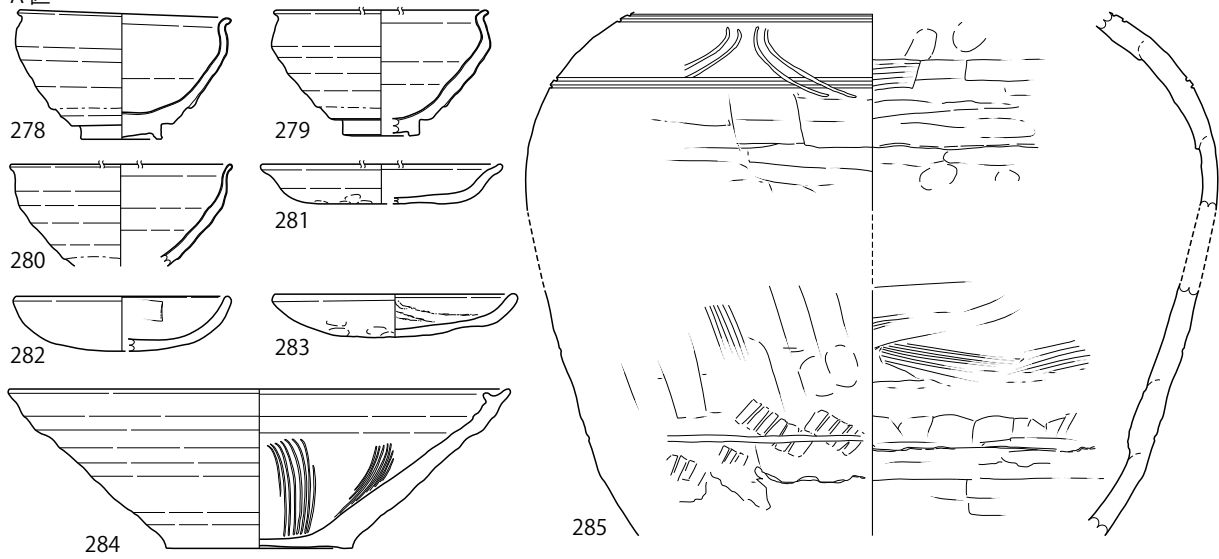
遺物



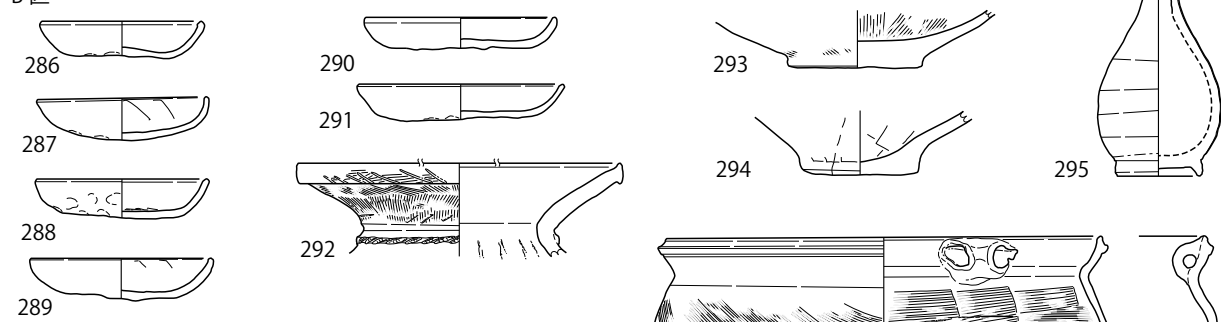
第 49 図 柱穴等出土遺物 (S=1/4)

羽根遺跡

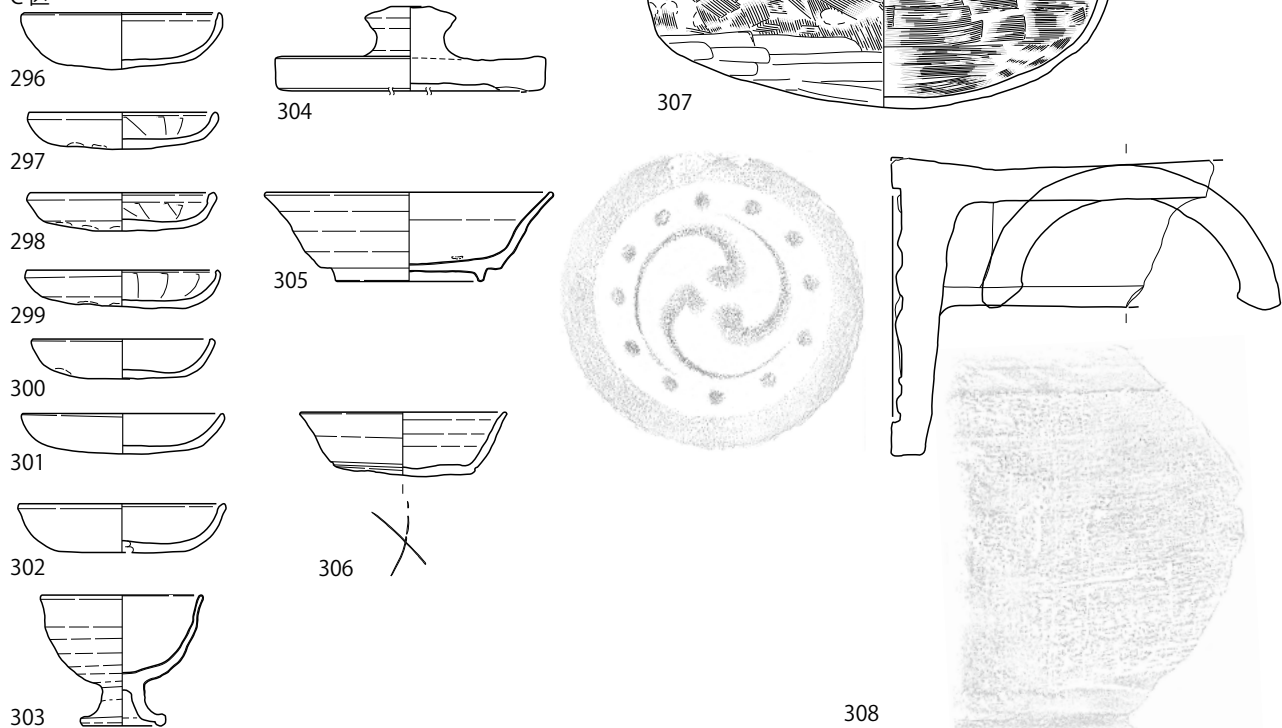
A 区



B 区



C 区



第 50 図 包含層掘削・検出時出土遺物 (S=1/4)

遺 物

第 3 節 金属製品・金属関連遺物

本遺跡から出土した金属関連遺物としては、銭貨、鉄製品、銅製品、鍛冶関連製品がある。ここではそれぞれについて紹介をしたい。

(1) 銭貨 (第 51 図 309～335)

銭貨は本調査で 32 点出土しており、そのほとんどが C 区からのもので、中でも 001SB (旧宗桂寺) から出土したもの中心である。301～320・327・329 は寛永通宝である。301～315・327 は古寛永、316～319・329 は新寛永、320 は不明である。

寛永通宝以外の銭貨として、321 は皇宋通宝、322 は紹聖元宝、324 は正隆元宝、325 は洪武通宝、328・335 は永楽通宝である。330～334 は C 区 2 面への包含層掘削時に一括出土したもので遺構は確認できなかったものの土坑墓の六道銭として埋納された可能性が考えられるものである。330・331 は祥符通宝、332 は鉄製の元祐通宝、333 と 334 はそれぞれ鉄銭 2 枚と銅銭 1 枚が重なったもので錆のため銭名は明確でないが、334 には X 線による撮影で永楽通宝が含まれていることが確認できた。これら寛永通宝以外の銭貨の中には非常に薄く雑なつくりのものも混じることから模鑄銭が含ま

れているものと考えられる。

やや特殊なものとして 323 がある。これはキセルの雁首をつぶして銭貨を模した雁首銭と考えられる。

(2) 金属製品 (第 52 図 336～354)

金属製品は本調査で 32 点出土しており、その多くは A 区と C 区で出土している。鉄製品と銅製品に分類される。

鉄製品としては、釘 (336～338、342・344・349・354)、刀子 (339)、刃物の中茎 (345)、鎌の刃先 (346) がある。

銅製品としては簪類 (340・343・348)、薄板 (341)、キセルの雁首 (350～353) がある。

(3) 鍛冶関連遺物 (第 53 図 355～359)

鍛冶関連遺物は本調査で 13 点出土しており、そのうち 10 点は C 区からのものである。

355 は 846SD 出土の鉄滓である。356 は 502SU 出土の炉壁で、銅片をかみ込んでいる。357 は B 区東端壁沿いで出土した炉壁で流動滓が付着している。358 は 503SM 出土の鞆羽口、359 は C 区 2 面への包含層掘削時に出土した鞆羽口で、流動滓が付着している。

第 4 節 木製品・布製品

木製品・布製品ともに腐食・消失しやすいために限られた遺構から出土したもののみである。

(1) 木製品 (第 54 図 360・361)

木製品は本遺跡での出土はわずかで、井戸の底や 001SB で出土している。ここでは製品として明確な 2 点のみ図化した。

360 は 001SB から出土した将棋の駒で「角

行」、高さ 3.6cm、幅 2.5cm のものである。361 は小型の曲げ物の底板で円形のもの、推定径で 9.0cm 程である。

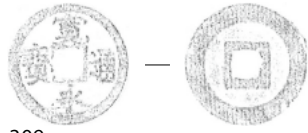
(2) 布製品 (写真図版 24-449)

1348SE の底部で出土したもので平織りの布と考えられる。

(成瀬友弘)

羽根遺跡

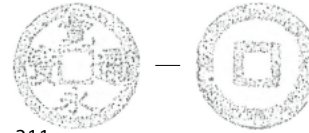
001SB



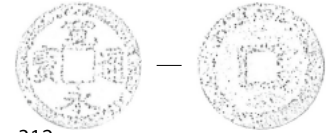
309



310



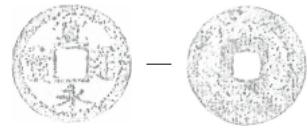
311



312



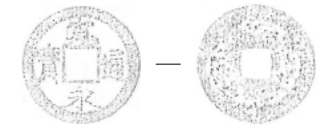
313



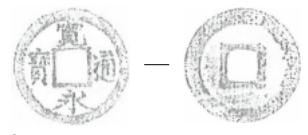
314



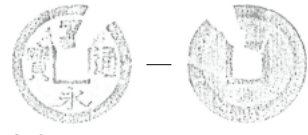
315



316



317



318



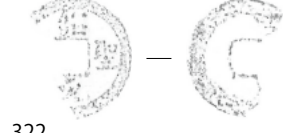
319



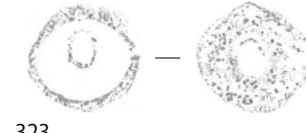
320



321



322



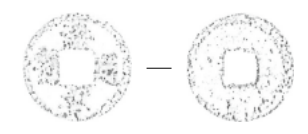
323

527SP



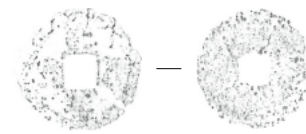
324

536SK



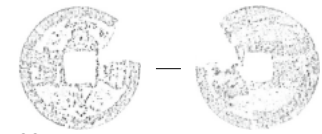
325

560SK



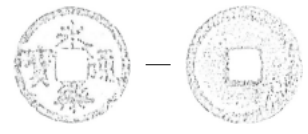
326

769SD



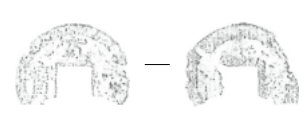
327

B 区

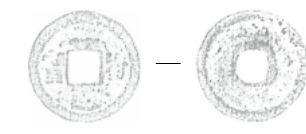


328

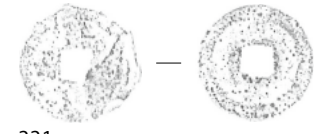
C 区



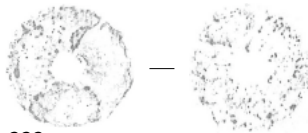
329



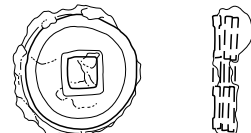
330



331



332

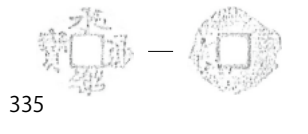


333



334

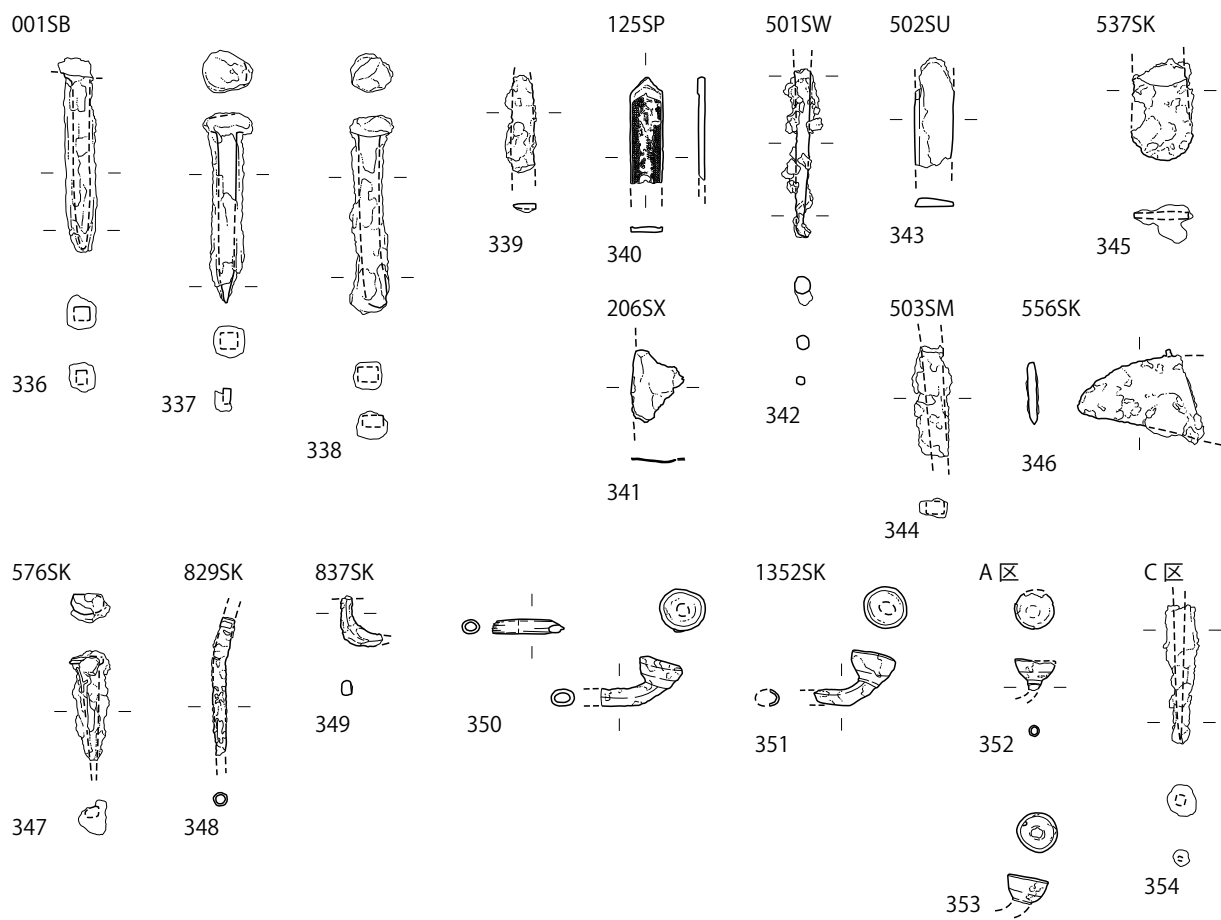
D 区



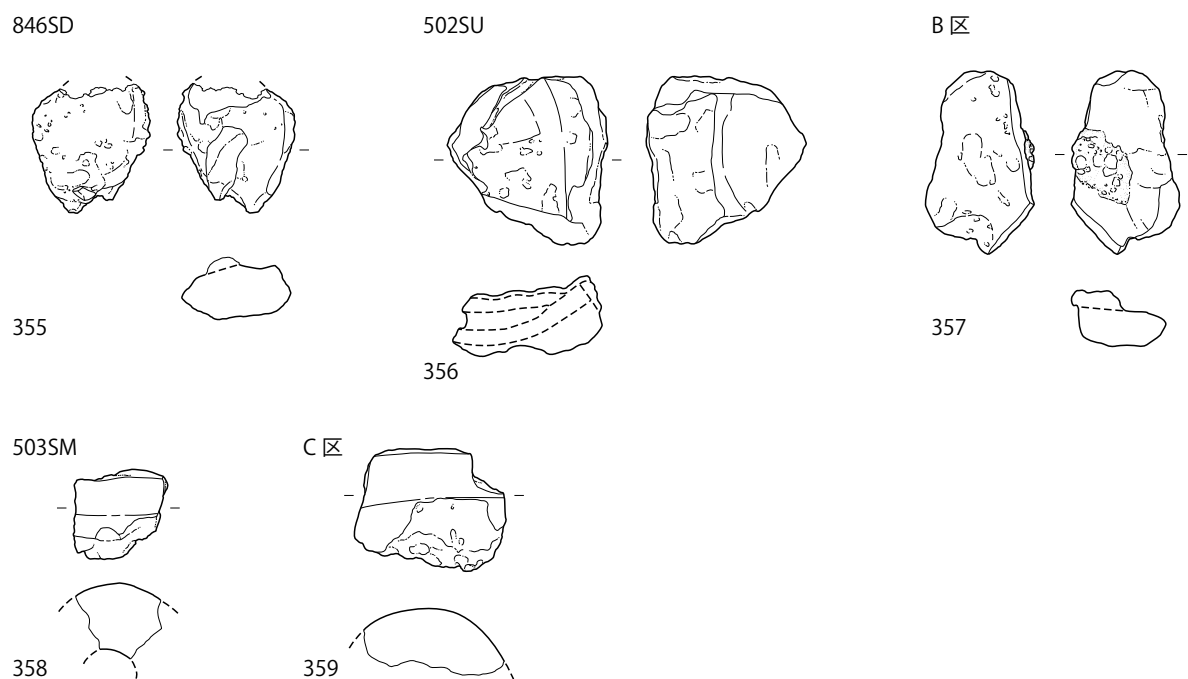
335

第 51 図 出土銭貨 (S ≒ 2/3)

遺物



第 52 図 金属製品 (S ≈ 1/3)



第 53 図 鍛冶関連遺物 (S=1/4)

羽根遺跡



第 54 図 木製品 (S=1/4)

第 5 節 石製品

ここで取り上げる資料は、中世およびそれ以降の石製品である。以下、器種別に報告する。

(1) 石塔類

羽根遺跡を最も特徴づける資料群の一つであり、石製品の主体をなす。62 点出土し、すべてを図化した (第 55 図 362 ～ 第 62 図 423)。大多数は C 区から出土しており、整地した平場崖面に上から投棄された一群 (502SU) と、その崖面の石積み裏込 (501SW 裏込) からの出土がほとんどである。502SU 出土資料は 363・364・370・371・374 ～ 378・380・381・389 ～ 392・394・395・397・399 ～ 405・407・410・411 ～ 417・419 ～ 423 で、501SW 裏込出土資料は 368・373・384・385・398・406・408・409 である。今回の資料では、接合例が 4 例確認できた (第 63 図)。このうち 363・368 の接合事例と 385・395 の接合事例は、ともに 501SW 裏込と 502SU との接合関係を示すもので、この石塔類の破壊と転用・廃棄行為が時間的断絶のない状況で行なわれたことを示す事例として、大いに注目できるように。以下、石材・種別・部位および残存部位に基づき報告を行う。なお、今回の資料では、梵字を含め文字資料は確認できなかった。

a. 花こう岩製 (362 ～ 383・404 ～ 423) 相輪 (362 ～ 368)、宝篋印塔 (笠: 369・370、基礎: 371 ～ 373)、五輪塔 (空風輪: 374、火輪: 375 ～ 377、水輪: 378、地輪: 379 ～

383)、一石五輪塔 (404 ～ 423) がある。相輪は、今回の資料では宝篋印塔に対応するものであった可能性が高い。伏鉢の裏には工具痕が多く残されている。宝篋印塔・五輪塔でも側面・裏面に幅 10cm 程度の工具痕が残されており、373 では裏面の凹みを作るために放射状の工具痕が観察できる。五輪塔は法量に二種類存在するようで、374・375・378 のやや大型のものと、376・377・379 ～ 383 のように小型のものがある。一石五輪塔は火輪・水輪・地輪のいずれかが残存している資料 13 点で幅を計測した結果、10.8 ～ 14.0cm の範囲で平均 12.58cm を測り、後述する凝灰岩製より若干大きい。器面には幅 5 ～ 10cm 程度のノミ状と考えられる工具痕が多く認められる。火輪と風輪との境付近で欠損している資料が目立つ。水輪の中央部に製作後の敲打痕が認められる資料 (417・421・422) がある。

b. 凝灰岩製 (384 ～ 403) 五輪塔 (地輪: 384)、一石五輪塔 (385 ～ 403) がある。五輪塔は花こう岩製で報告したところの小型の部類のものと考えられる。器面全体に工具痕が確認できる。一石五輪塔では、完形資料が 4 点存在している。あわせて火輪・水輪・地輪のいずれかが残存している資料計 15 点で幅を計測した結果、9.4 ～ 11.8cm の範囲で平均 10.18cm であった。花こう岩製同様に火輪と風輪との境付近で欠損している資料が目立ち、一打点から打撃が加えられ破損している事例

遺 物

(390・396～398 など) が多く確認できることから、意図的な破壊が行なわれた可能性が考えられる。水輪の中央部に製作後の敲打痕が認められる資料 (392・399) も同様な行為の結果かもしれない。これらも器面全体に工具痕が認められ、工具の作用による表面の剥がれなどもよく観察できる。

(2) 砥石

砥石としては、小型のもの (7 点出土で 6 点図化。第 64 図 424～430) と、大型のもの (3 点出土。同 432～434) があり、前者が手持砥石、後者が置砥石に該当するものと考えられる。小型のものは、断面形状が方形を呈するもの (424～427) と扁平なもの (428～430) にさらに分けられる。使用痕としては、全面磨痕が認められるものの、424 のように部分的に鋭い細溝状を呈する部分や 428 のように側面に不連続に刻目状に磨痕が認められるものもある。使用石材は、426・428・430 が泥岩で、その他は凝灰岩・凝灰質泥岩・泥質凝灰岩である。大型

のものは、礫の平面あるいは側面に連続した細溝状の使用痕が認められるものである。いずれも片麻岩製である。

(3) 石臼

2 点出土し、すべて図化した (第 64 図 435・436)。435 は A 区溝内から出土している。435 は下臼、436 は上臼と考えられる。435 は両面に目立てが施されていたようであるが、片面側の磨滅が特に著しい。側面には加工に伴うノミなどの工具痕が認められる。435・436 ともに平面に幅 5～10cm 程度の磨痕が認められることから、石臼としての使用後に砥石に転用されたものと考えられる。両者とも凝灰岩製である。

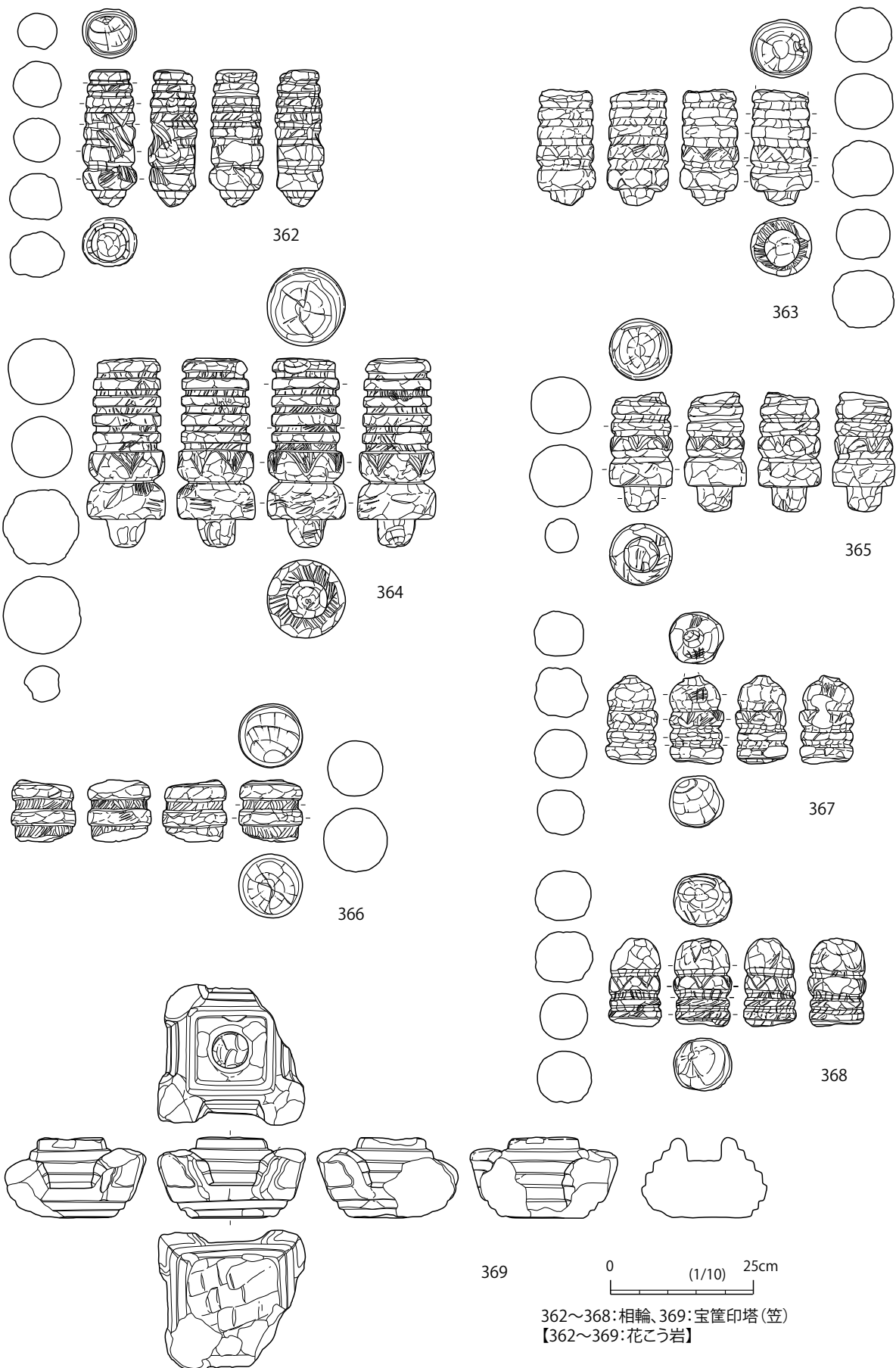
(4) 硯

1 点のみで、C 区 001SB から出土した (第 64 図 431)。一平面には周囲からの打撃痕が認められ、別の用途に転用する意図があった可能性もあるか。泥岩製である。

第 6 節 貝製品

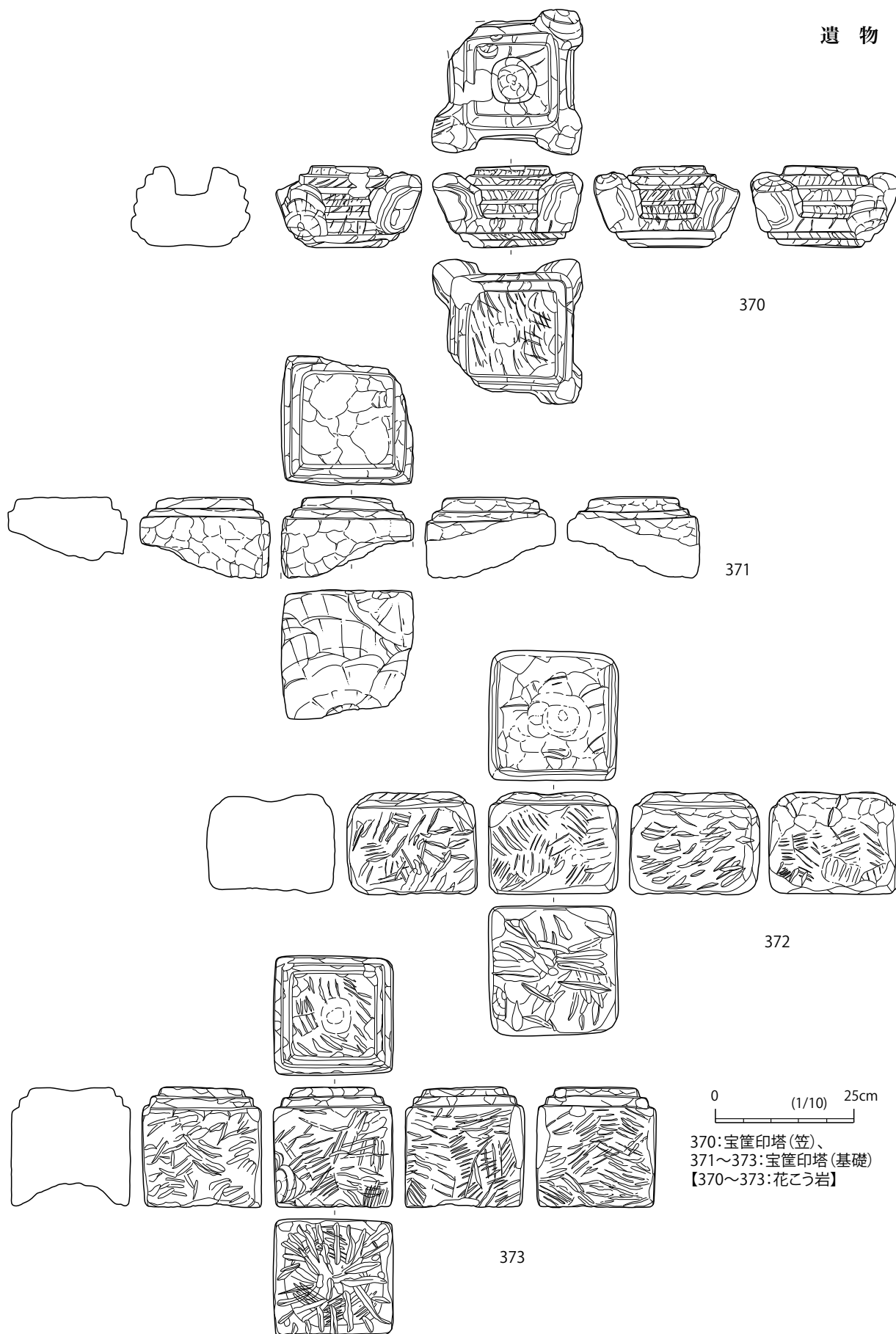
貝製品は 5 点出土し、すべて図化した (第 65 図 437～441)。いずれも C 区 001SB 付近からの出土である。径 1.5～2.5cm、厚さ 0.3～0.6cm 程度の、平面形状が楕円形あるいは隅丸方形になっており、440 など一部には最終

調整の研磨痕が認められる。重さは 0.6g～3.0g を測る。素材になった貝種は詳細にはできないものの、成長線の様相あるいは断面の形状などから、ミルクイガイなどの貝種が考えられる。



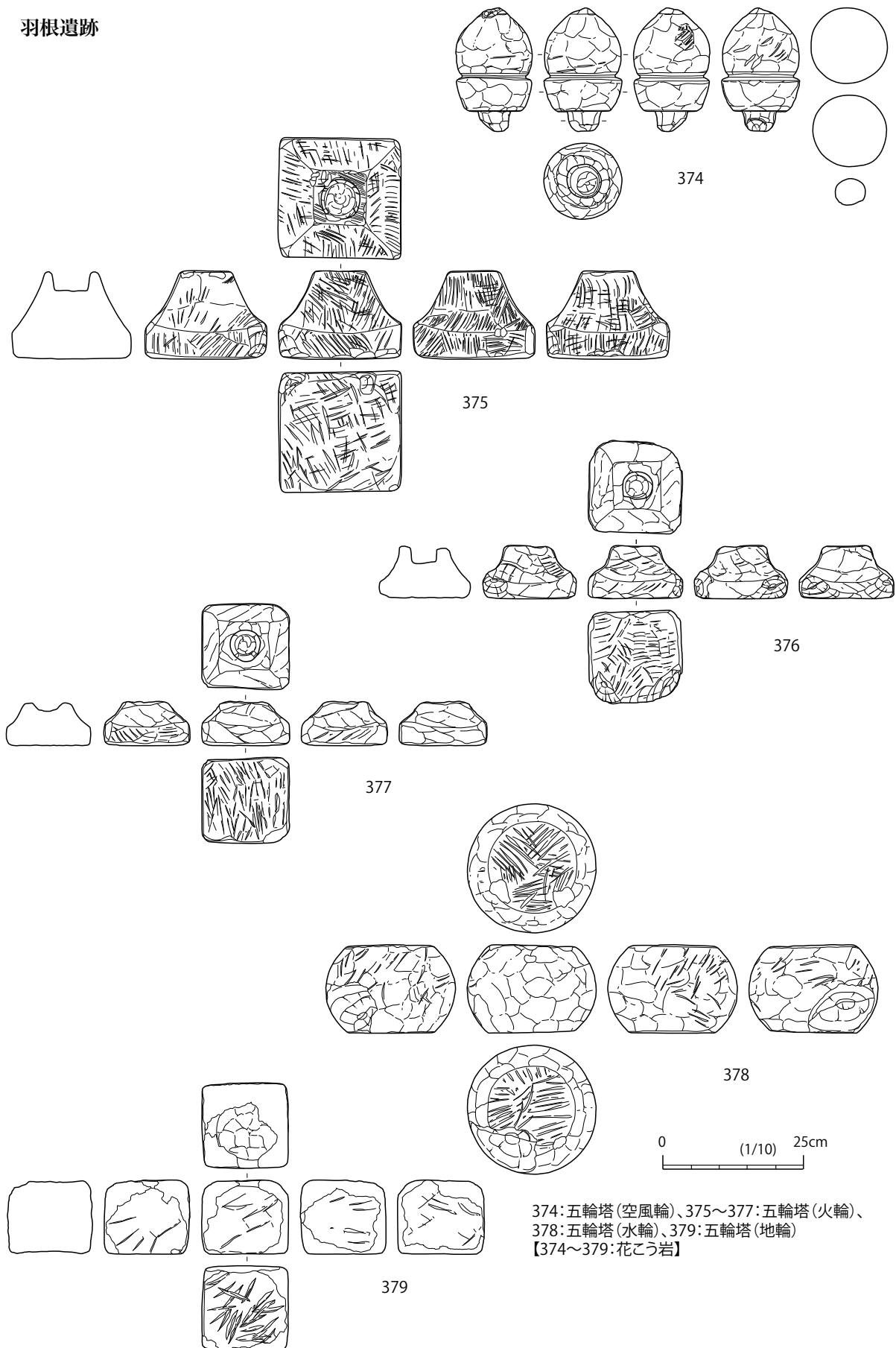
第 55 図 石塔類 (1)

遺物

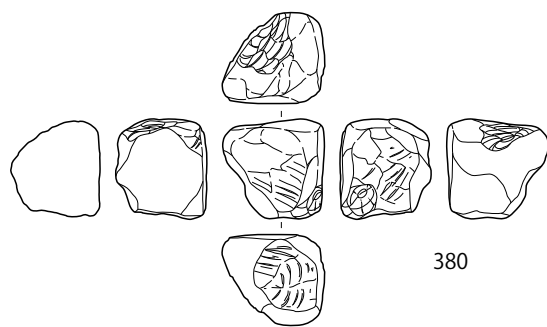


第 56 図 石塔類 (2)

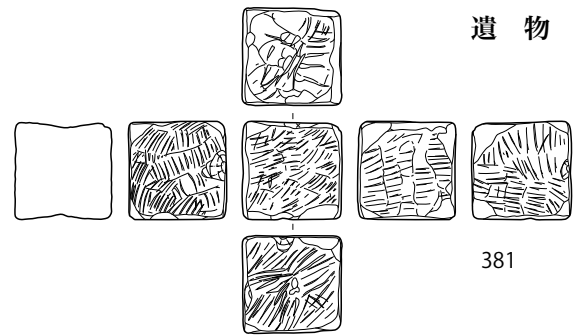
羽根遺跡



第 57 図 石塔類 (3)

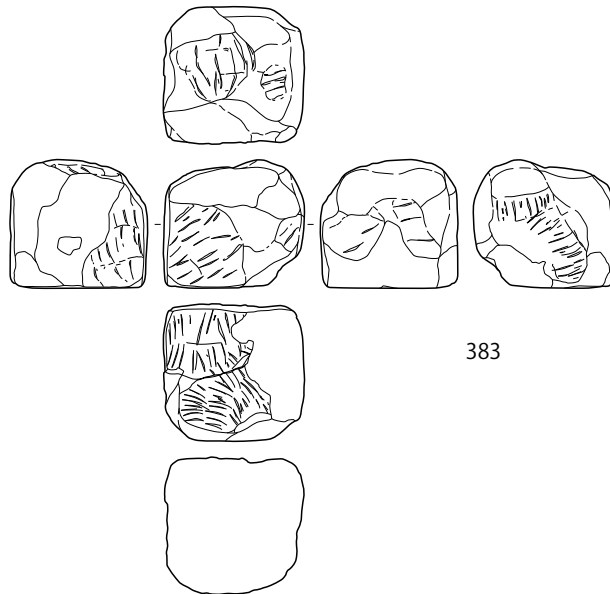


380

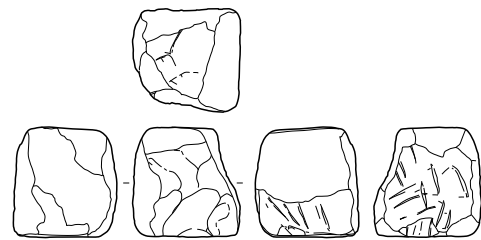


遺物

381



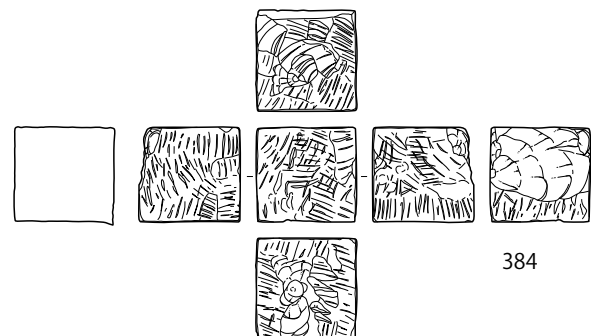
383



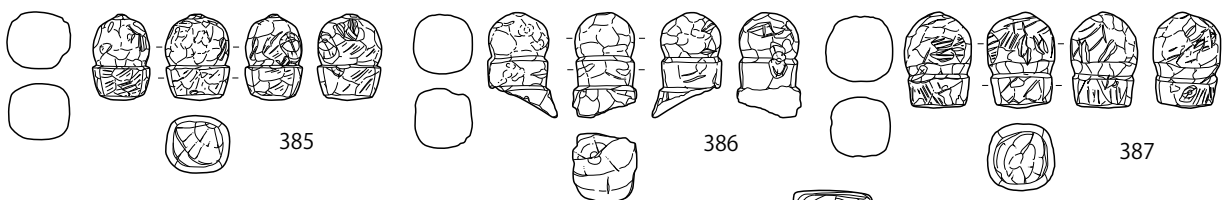
382

0 (1/10) 25cm

380～384:五輪塔(地輪)、385～389:一石五輪塔
【380～383:花こう岩、384～389:凝灰岩】



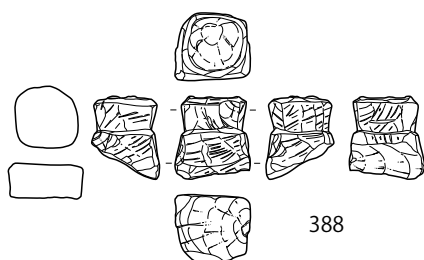
384



385

386

387



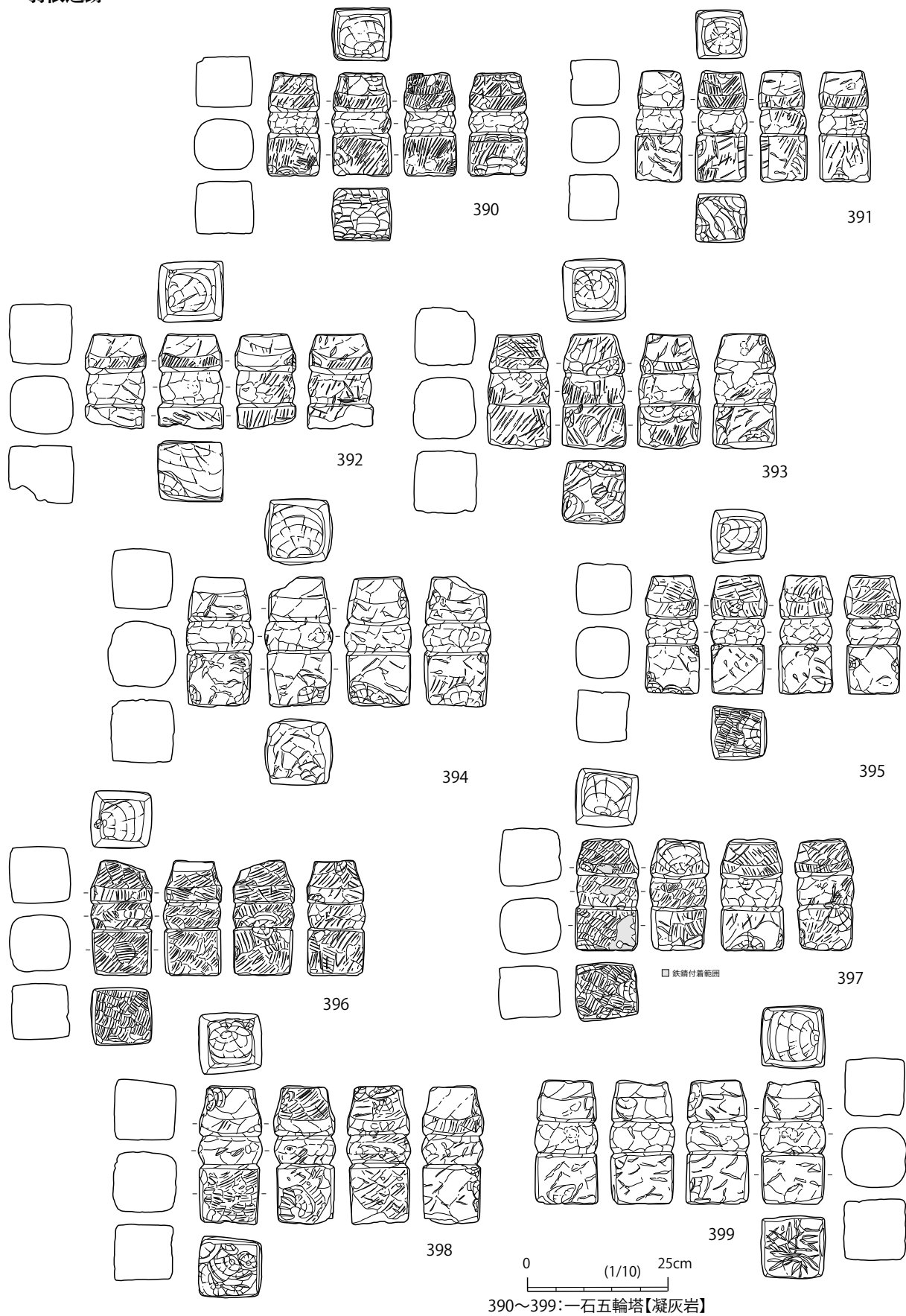
388



389

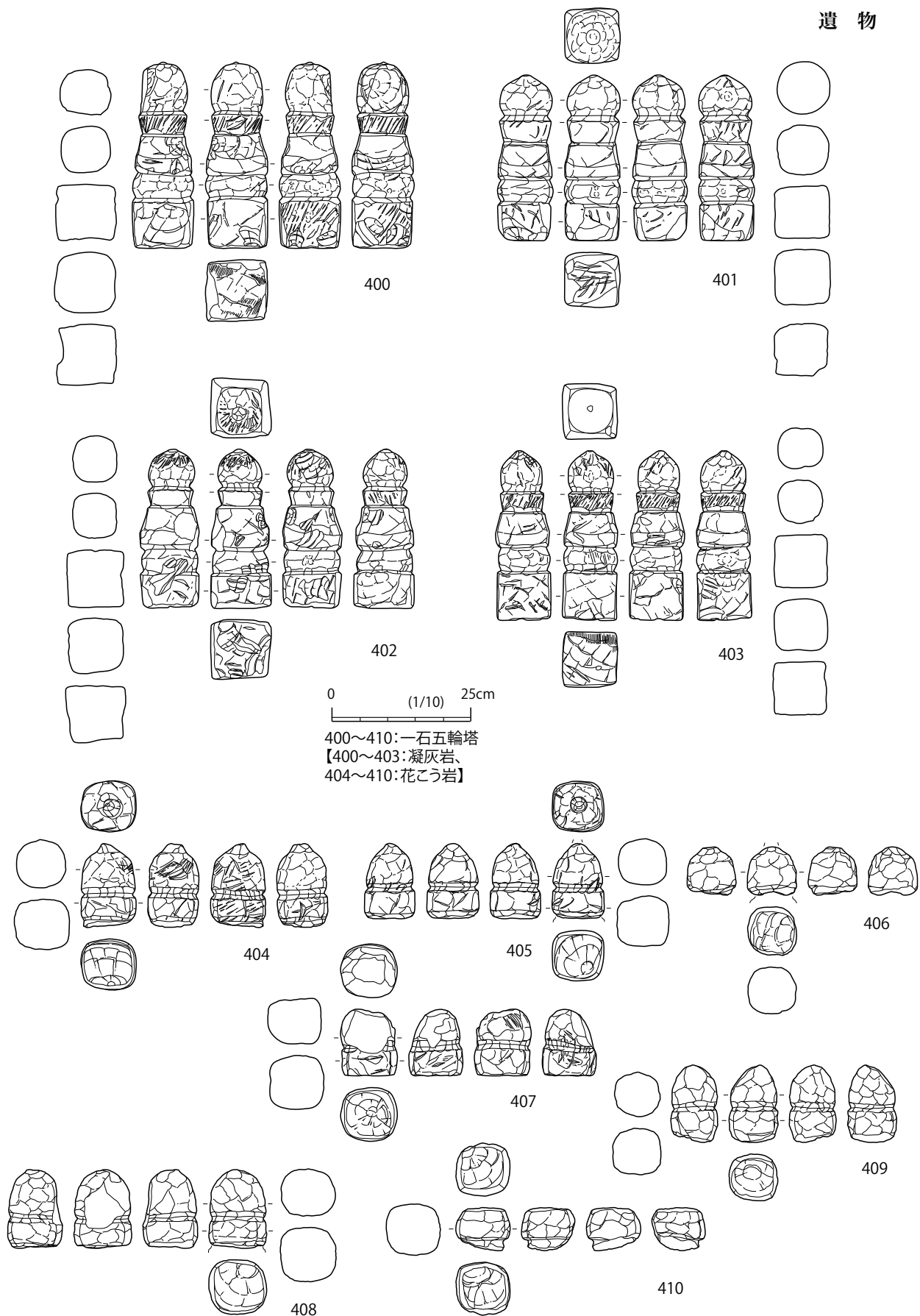
第 58 図 石塔類 (4)

羽根遺跡



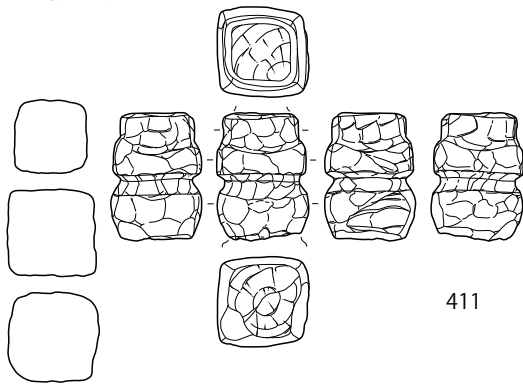
第 59 図 石塔類 (5)

遺物

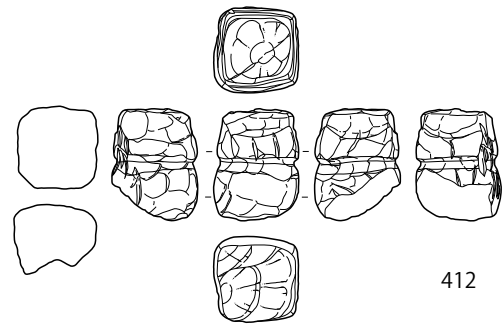


第 60 図 石塔類 (6)

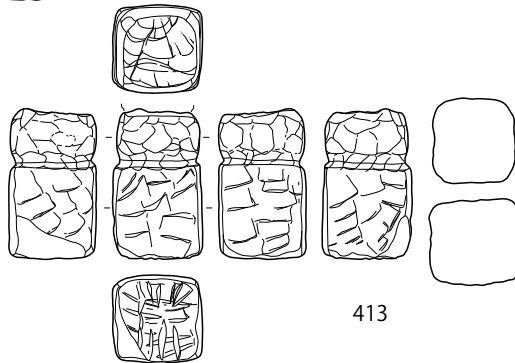
羽根遺跡



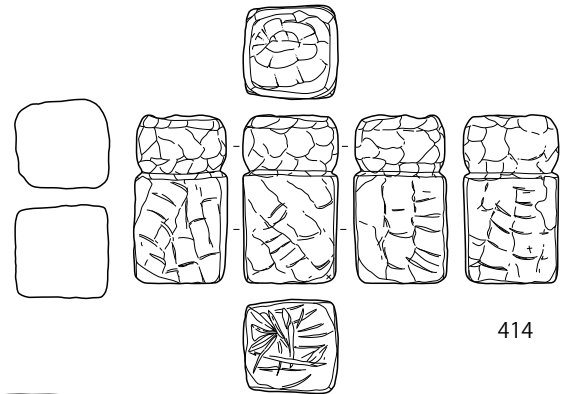
411



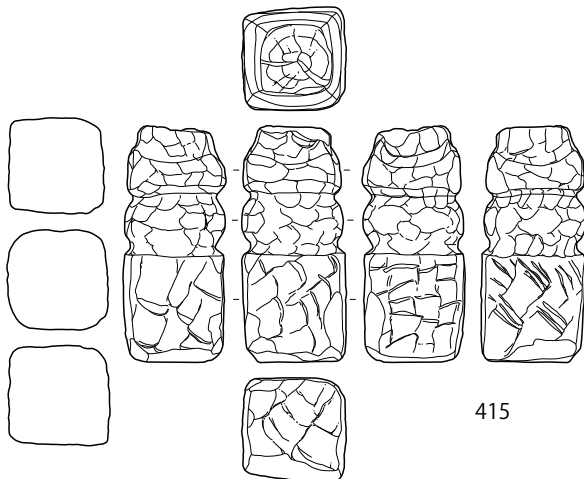
412



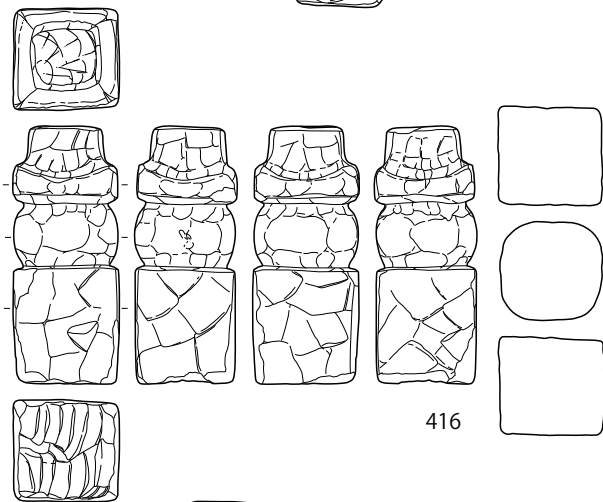
413



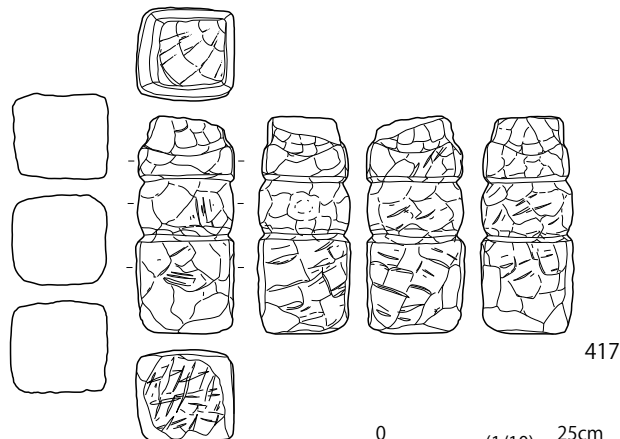
414



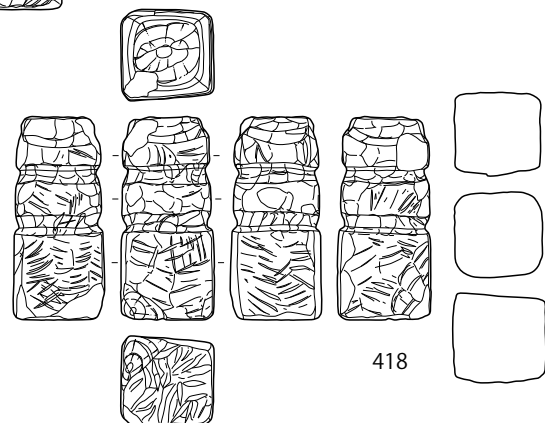
415



416



417



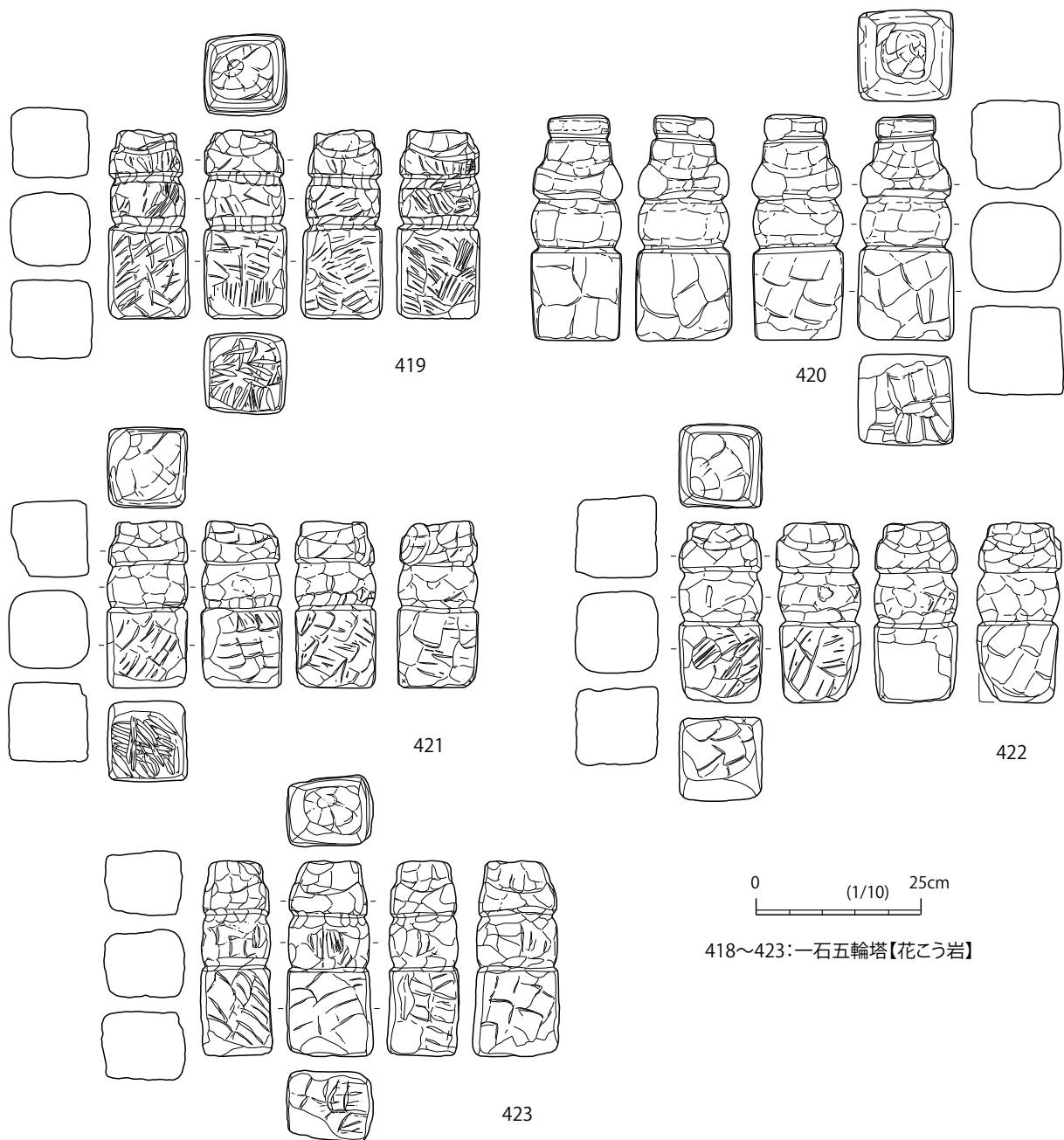
418

0 (1/10) 25cm

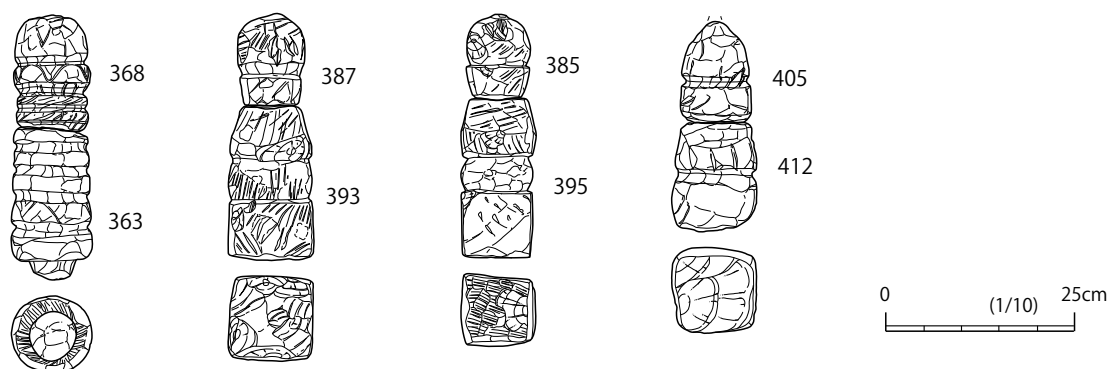
411~418:一石五輪塔【花こう岩】

第 61 図 石塔類 (7)

遺物

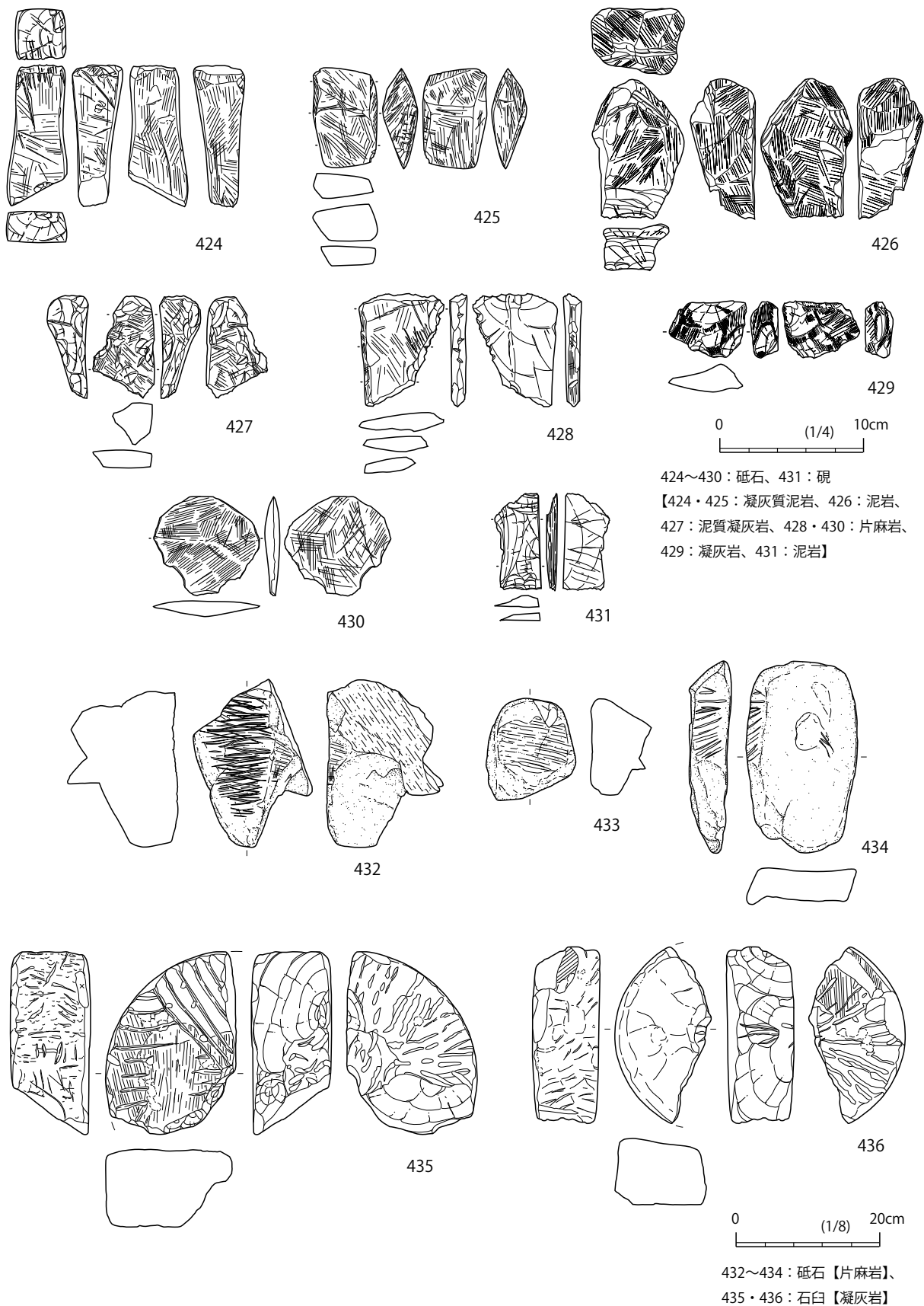


第 62 図 石塔類 (8)



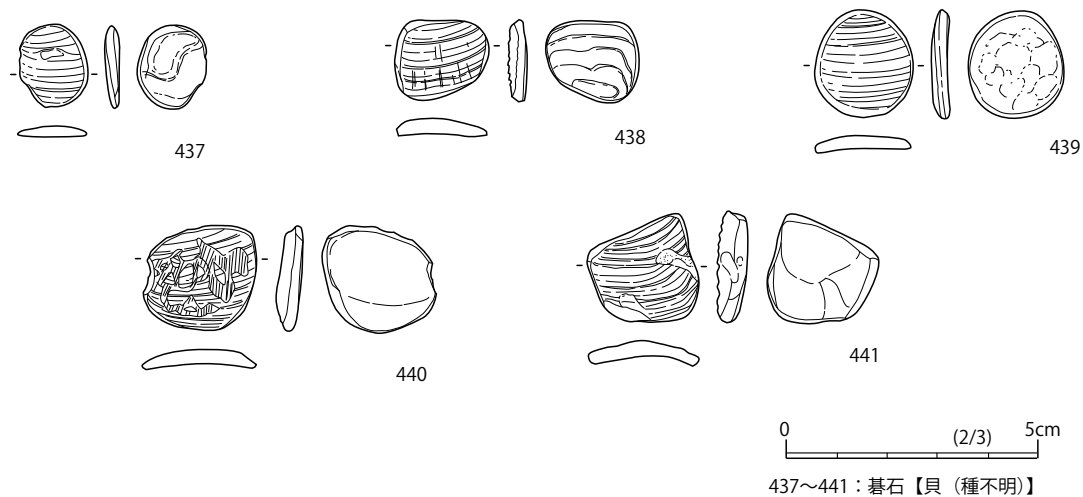
第 63 図 石塔類接合事例

羽根遺跡



第 64 図 石塔類以外の石器・石製品

遺物



第 65 図 貝製品

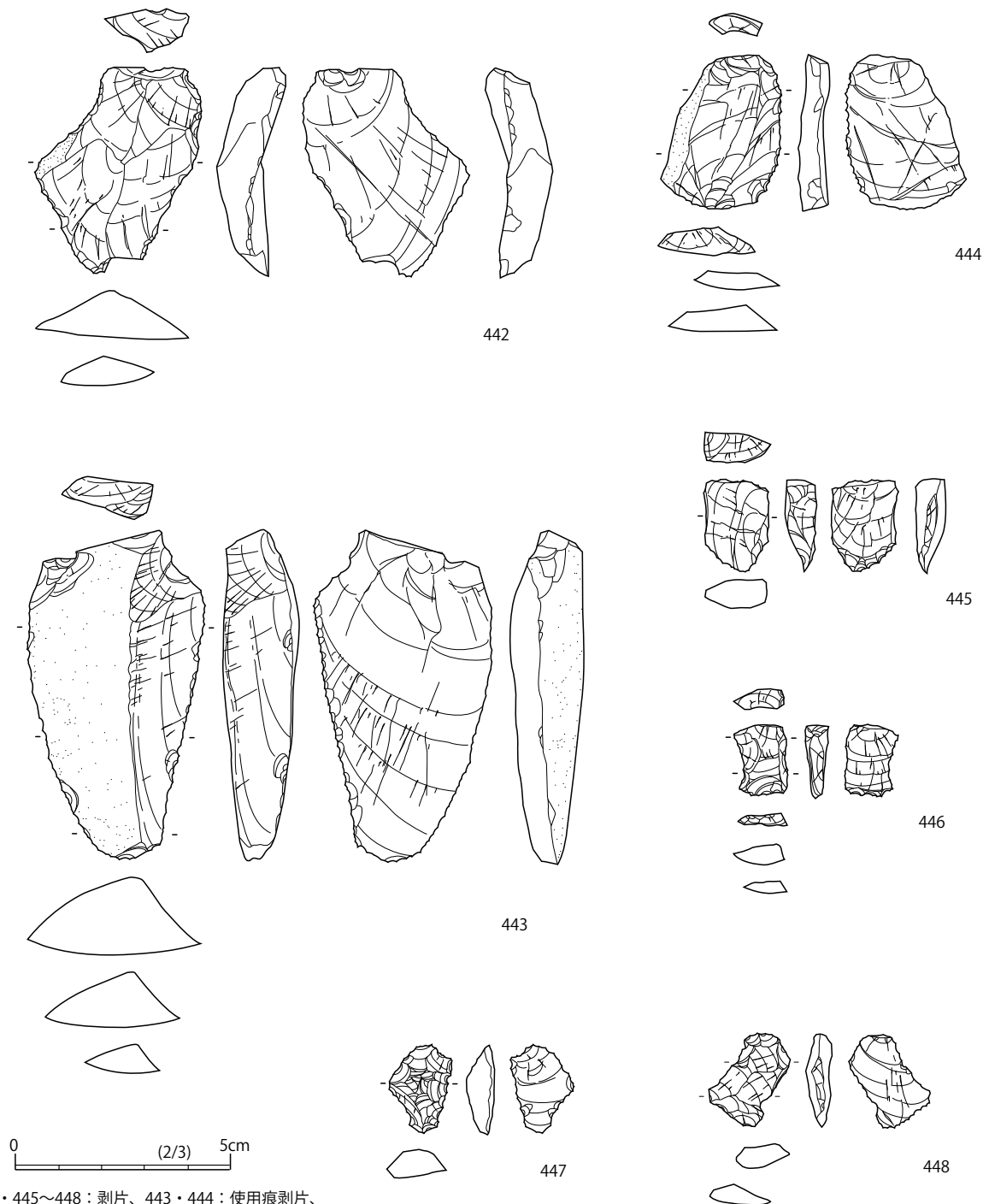
第 7 節 縄文時代以前の石器

該当資料は 7 点で、すべて図化した（第 66 図 442～448）。A 区からの出土が最も多いが、いずれも二次的な状態の出土と考えられる。すべて剥片石器で、細長い菱形あるいは縦長状の剥片である。442～446 は剥片作出前に打面を調整したものと考えられる。442 は一側面にノッチ状の挟りが認められるか。443・444 は

一側面に不連続な微細剥離が認められ、使用痕剥片と考えられる。石材は、442・443 が熔結凝灰岩、444～446 がチャート、447・448 が黒曜石で、熔結凝灰岩製の剥片がやや大型の傾向がある。

（川添和暁）

羽根遺跡



442・445～448：剥片、443・444：使用痕剥片、
 【442・443：熔結凝灰岩、444～446：チャート、
 447・448：黒曜石】

第 66 図 縄文時代に属すると考えられる石器

第4章 自然科学分析

第1節 羽根遺跡周辺の地形・地質

羽根遺跡のある愛知県豊川市は、知多半島と渥美半島とに挟まれた三河湾（渥美湾）の周りを囲む地域のひとつである。調査地点のある豊川市萩町羽根は市の北西にあり、豊川市役所から北西へおよそ 6.5 km 隔たった場所にある。調査地点の約 1.0 km 南には東名高速道路が通る。

調査地点の場所は今でこそ豊川市の北西地域であるが、かつては音羽町として豊川市とは山地により隔てられていた。そのため調査地点を含めた一帯は額堂山（標高 420 m）、観音山（標高 400 m）、宮路山（標高 360 m）といった山地と分水嶺により周りを囲まれている。その中を音羽川と山陰川という 2 つの河川が流れる。このうち調査地点の西約 120 m には山陰川が南流する。山陰川には調査地点の約 150 m 北西で室川が、約 1.0 km 南西で長根川が合流している。山地に周りを取り囲まれ、幅が狭くて長い平坦面を一般に谷床（または谷底）、そこに形成された低地を谷床平野（または谷底平野）と呼ぶ（高山，1970；今村ほか，1986）。音羽川と山陰川の流域は谷床平野の典型であるが、音羽川低地（岡田，1976）と呼ぶ場合もある。

愛知県には三河湾にそそぐ豊川付近を通り、長野県の諏訪湖にかけて北東から南西方向にのびる中央構造線がある。中央構造線で分けられる太平洋側を外帯、陸側を内帯と呼ぶ。調査地点周辺には内帯が広がり、1 億年前ごろの中生代と 180 万年前以降の新生代第四紀の地層が分布している。豊川の下流域にひろがる豊橋平野は、町田・大倉（1960）による段丘の区分とその堆積物についての研究を先鞭として、その後、木村ほか（1981，1982）により詳しく研究された。一方、羽根遺跡周辺の地形・地質

については荒巻（2005）、荒巻・原瀬（2005）、原瀬（2005）が音羽町史において詳しく述べており、本論も基本的にそれらに基づいて述べる。羽根遺跡の周辺には、中生代の基盤岩類とそれを覆う新生界第四系更新統の堆積物が明瞭に区分される場所にあたっており、調査地の東側半分には領家帯の変成岩類が露出する山地が広がる（図 1）。西は新生界第四系更新統以降の堆積物が分布する丘陵地や沖積地となっている。新生界第四系更新統は荒巻・原瀬（2005）によれば古期扇状地堆積層・新期扇状地堆積層・中位段丘堆積層に分類される。河川沿いには砂礫層からなる完新統が基盤岩類を覆う。

2500 分の 1 の豊川市都市計画図の標高値を基に山陰川流域の等高線を描くと、標高 70 m 前後を境にして、それよりも高いところには領家帯の砂質片麻岩が、低いところには更新統と完新統がみられる（図 1）。標高 70 m よりも高いところは山地と丘陵を形成し、低いところは近久・前田から羽根を通り、中大田面、赤坂と南へ向かうにつれて標高を減じる（図 2）。調査地点は領家帯の砂質片麻岩からなる山地から西側へ開析した谷の、標高約 70 m の西側斜面に位置している。遺跡調査で実施した深度 2 m の深掘では、赤褐色を呈する基質の粘土に砂質片麻岩からなる角礫を含む礫層により構成されていた。礫は、風化の進んだいわゆる「くさり礫」となっていた。これは荒巻（2005）の古期扇状地堆積物にあたる。（鬼頭剛）

参考文献

- 荒巻敏夫，2005，地質，音羽町史 自然-本文-，音羽町，10-21。
荒巻敏夫・原瀬能幸，2005，地形・地質概要，音羽町史 自然-本文-，音羽町，3-4。
原瀬能幸，2005，岩石，音羽町史 自然-本文-，音羽町，22-34。
今村遼平・岩田健治・足立勝治・塚本 哲，1986，画

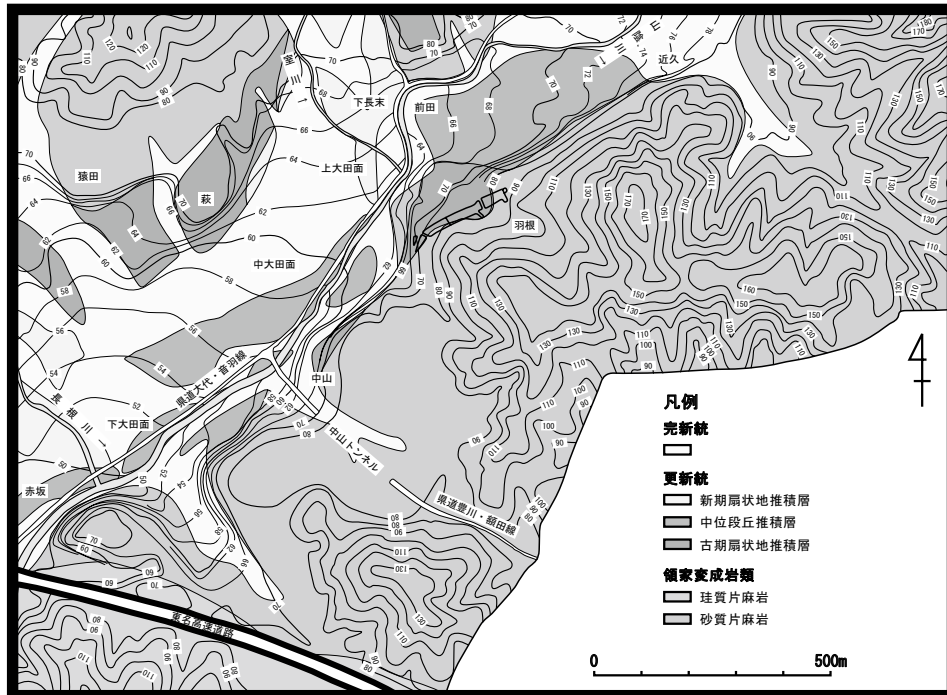
羽根遺跡

でみる地形・地質の基礎知識, 鹿島出版界, 32p.
 木村一朗・荒巻敏夫・大澤正吾・池田芳雄, 1981, 豊川中流および下流の段丘と更新統 (その1 段丘面), 愛知教育大学研究報告 (自然科学), 30, 221-232.
 木村一朗・荒巻敏夫・大澤正吾・池田芳雄, 1982, 豊川中流および下流の段丘と更新統 (その2 段丘堆積層), 愛知教育大学研究報告 (自然科学), 31, 195-210.

町田 貞・大倉陽子, 1960, 豊川中・下流の段丘地形, 地理評, 33, 551-563.

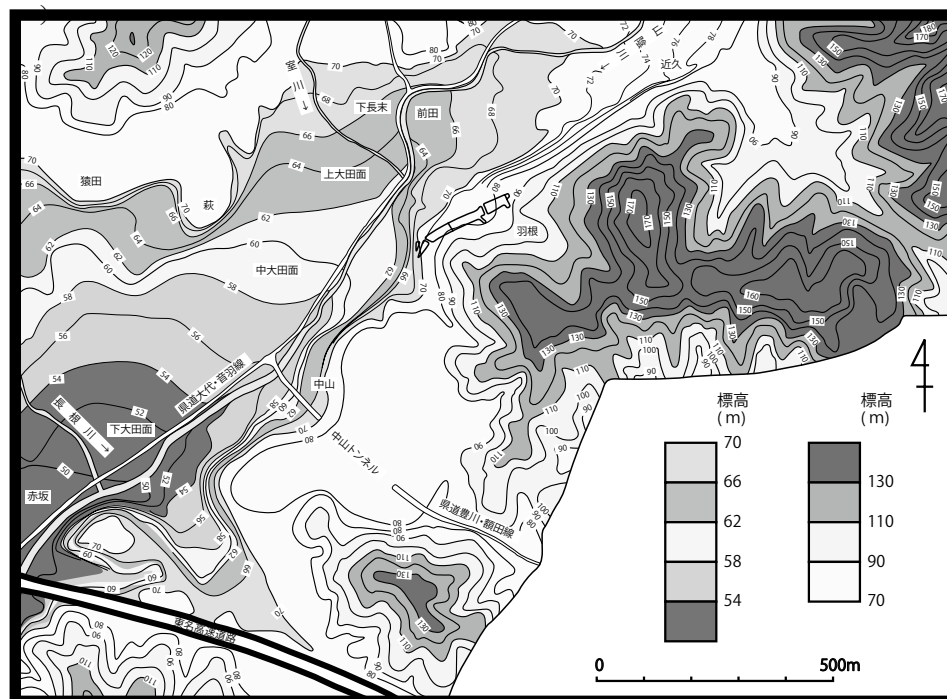
岡田篤正, 1976, 地形分類, 国土庁土地局・愛知県企画部編 愛知県土地分類基本調査「御油」, 愛知県, 15-33.

高山茂美, 1970, 谷床平野, 地学団体研究会編 増補改訂版 地学事典, 平凡社, 375.



第67図 羽根遺跡周辺の地質図

(図中に発掘調査区の位置も入れる。等高線は1/2500豊川市都市計画図の標高値をもとに鬼頭が、地質図は荒巻・原瀬(2005)を基に一部加筆。)



第68図 羽根遺跡周辺の等高線図

(等高線は1/2500豊川市都市計画図の標高値を基に作成。標高70mを境に等高線間隔が異なることに注意。)

第2節 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤茂・尾寄大真・丹生越子・廣田正史・小林紘一
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani

1. はじめに

愛知県豊川市に位置する羽根遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調製データは表1のとおりである。試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS: NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた ^{14}C 濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 ^{14}C 年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した ^{14}C 年代、 ^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下1桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

^{14}C 年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 ^{14}C 年代 (yrBP) の算出には、 ^{14}C の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した ^{14}C 年代誤差 ($\pm 1\sigma$) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の ^{14}C 年代がその ^{14}C 年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。
暦年較正とは、大気中の ^{14}C 濃度が一定で半

減期が 5568 年として算出された ^{14}C 年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の ^{14}C 濃度の変動、及び半減期の違い (^{14}C の半減期 5730 ± 40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

^{14}C 年代の暦年較正には OxCal4.1 (較正曲線データ: INTCAL04) を使用した。なお、 1σ 暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された ^{14}C 年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に 2σ 暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は ^{14}C 年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

参考文献

- Bronk Ramsey, C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program. Radiocarbon, 37, 425–430.
- Bronk Ramsey, C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal. Radiocarbon, 43, 355–363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の ^{14}C 年代, 3–20.
- Reimer, P.J., Baillie, M.G.L., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J.W., Bertrand, C.J.H., Blackwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Damon, P.E., Edwards, R.L., Fairbanks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormac, G., Manning, S., Bronk Ramsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Talamo, S., Taylor, F.W., van der Plicht, J. and Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0–26 cal kyr BP. Radiocarbon, 46, 1029–1058.

羽根遺跡

表 1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-13884	調査区：30HN08A グリッド：4H18j 遺構：247SK	試料の種類：炭化材（広葉樹，小枝） 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13885	調査区：30HN08A グリッド：4H20j 遺構：256SP	試料の種類：炭化材（シイ属，みかん割り） 試料の性状：最外年輪？ 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13886	調査区：30HN08A グリッド：4H19j 遺構：205SK 遺物 No.196	試料の種類：土器付着炭化物 器種：くの字形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）
PLD-13887	調査区：30HN08C グリッド：5G14f 遺構：502SU 遺物 No.54	試料の種類：土器付着炭化物 器種：羽釜 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）
PLD-13888	調査区：30HN08A グリッド：4H20j 遺構：387SK 遺物 No.199	試料の種類：土器付着炭化物 器種：くの字形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）
PLD-13889	調査区：30HN08B グリッド：5G6b 遺構：1256SD（トレンチ内） 遺物 No.117	試料の種類：土器付着炭化物 器種：くの字形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.1N，塩酸：1.2N）
PLD-13890	調査区：30HN08B グリッド：5G9n 遺構：1352SK 遺物 No.193	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13891	調査区：30HN08B グリッド：5G9n 遺構：1352SK 遺物 No.189	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13892	調査区：30HN08B グリッド：5G9n 遺構：1352SK 遺物 No.191	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13893	調査区：30HN08B グリッド：5G9n 遺構：1352SK 遺物 No.192	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13894	調査区：30HN08B グリッド：5H3b 遺構：1528SD 遺物 No.134	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13895	調査区：30HN08C グリッド：5G16e 遺構：501SW 裏込め 遺物 No.36	試料の種類：土器付着炭化物 器種：羽釜 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13896	調査区：30HN08C グリッド：5G15f 遺構：502SU 下層 遺物 No.55	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：口縁部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13897	調査区：30HN08C グリッド：5G14f 遺構：503SM 遺物 No.84	試料の種類：土器付着炭化物 器種：内湾形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13898	調査区：30HN08C グリッド：5G14f 遺構：503SM 遺物 No.79	試料の種類：土器付着炭化物 器種：くの字形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13899	調査区：30HN08C グリッド：5G14g 遺構：503SM 遺物 No.89	試料の種類：土器付着炭化物 器種：半球形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13900	調査区：30HN08C グリッド：5G13g 遺構：503SM 遺物 No.87	試料の種類：土器付着炭化物 器種：茶釜 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：0.5N，塩酸：1.2N）
PLD-13901	調査区：30HN08C グリッド：5G14f 遺構：769SD ベルト下層 遺物 No.180	試料の種類：土器付着炭化物 器種：内湾形内耳鍋 部位：胴部外面 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）
PLD-13902	調査区：30HN08C グリッド：5G15g 遺構：555SL	試料の種類：炭化材（クヌギ節） 試料の性状：最外年輪 状態：dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄（塩酸：1.2N，水酸化ナトリウム：1N，塩酸：1.2N）

自然科学分析

表 2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	暦年較正年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲	
				1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
PLD-13884	-28.18 $\pm$ 0.14	301 $\pm$ 16	300 $\pm$ 15	1525AD (49.5%) 1558AD 1631AD (18.7%) 1644AD	1521AD (69.6%) 1592AD 1619AD (25.8%) 1648AD
PLD-13885	-27.85 $\pm$ 0.12	462 $\pm$ 16	460 $\pm$ 15	1432AD (68.2%) 1446AD	1422AD (95.4%) 1450AD
PLD-13886	-27.30 $\pm$ 0.13	358 $\pm$ 19	360 $\pm$ 20	1470AD (43.3%) 1521AD 1592AD (24.9%) 1620AD	1458AD (50.3%) 1525AD 1557AD (45.1%) 1632AD
PLD-13887	-24.75 $\pm$ 0.16	355 $\pm$ 16	355 $\pm$ 15	1475AD (41.9%) 1521AD 1592AD (26.3%) 1620AD	1465AD (48.3%) 1525AD 1558AD (47.1%) 1632AD
PLD-13888	-25.84 $\pm$ 0.18	434 $\pm$ 17	435 $\pm$ 15	1439AD (68.2%) 1453AD	1432AD (95.4%) 1469AD
PLD-13889	-24.93 $\pm$ 0.11	403 $\pm$ 17	405 $\pm$ 15	1447AD (68.2%) 1474AD	1441AD (91.0%) 1494AD 1601AD (4.4%) 1612AD
PLD-13890	-26.09 $\pm$ 0.10	163 $\pm$ 18	165 $\pm$ 20	1675AD (6.8%) 1682AD 1735AD (43.9%) 1777AD 1799AD (6.4%) 1806AD 1930AD (11.1%) 1941AD	1666AD (17.0%) 1694AD 1727AD (48.4%) 1784AD 1796AD (10.9%) 1813AD 1918AD (19.2%) 1952AD
PLD-13891	-25.58 $\pm$ 0.17	164 $\pm$ 18	165 $\pm$ 20	1675AD (6.6%) 1682AD 1735AD (45.0%) 1777AD 1800AD (5.7%) 1805AD 1930AD (10.9%) 1941AD	1666AD (17.1%) 1694AD 1727AD (48.5%) 1784AD 1796AD (10.7%) 1813AD 1918AD (19.1%) 1952AD
PLD-13892	-27.22 $\pm$ 0.15	131 $\pm$ 20	130 $\pm$ 20	1683AD (11.0%) 1699AD 1723AD (8.2%) 1736AD 1805AD (7.3%) 1817AD 1834AD (29.5%) 1879AD 1916AD (12.2%) 1935AD	1680AD (33.6%) 1765AD 1774AD (0.4%) 1776AD 1800AD (45.8%) 1892AD 1908AD (15.5%) 1940AD
PLD-13893	-26.80 $\pm$ 0.11	146 $\pm$ 18	145 $\pm$ 20	1680AD (11.4%) 1694AD 1727AD (29.2%) 1764AD 1800AD (10.0%) 1813AD 1919AD (17.6%) 1939AD	1668AD (15.4%) 1700AD 1721AD (33.9%) 1781AD 1796AD (11.5%) 1819AD 1832AD (16.0%) 1880AD 1915AD (18.6%) 1945AD
PLD-13894	-24.89 $\pm$ 0.20	317 $\pm$ 18	315 $\pm$ 20	1522AD (49.7%) 1575AD 1583AD (5.9%) 1591AD 1623AD (12.6%) 1638AD	1494AD (75.3%) 1602AD 1616AD (20.1%) 1644AD
PLD-13895	-25.67 $\pm$ 0.12	380 $\pm$ 18	380 $\pm$ 20	1453AD (55.5%) 1492AD 1602AD (12.7%) 1613AD	1447AD (74.7%) 1521AD 1592AD (20.7%) 1620AD
PLD-13896	-25.55 $\pm$ 0.12	382 $\pm$ 20	380 $\pm$ 20	1451AD (54.6%) 1494AD 1602AD (13.6%) 1615AD	1446AD (74.3%) 1522AD 1577AD (0.8%) 1582AD 1591AD (20.3%) 1621AD
PLD-13897	-26.57 $\pm$ 0.13	369 $\pm$ 18	370 $\pm$ 20	1464AD (50.0%) 1513AD 1601AD (18.2%) 1617AD	1451AD (63.3%) 1523AD 1573AD (32.1%) 1627AD
PLD-13898	-26.89 $\pm$ 0.14	400 $\pm$ 18	400 $\pm$ 20	1447AD (68.2%) 1478AD	1441AD (88.7%) 1500AD 1601AD (6.7%) 1615AD
PLD-13899	-25.24 $\pm$ 0.26	397 $\pm$ 21	395 $\pm$ 20	1448AD (68.2%) 1485AD	1441AD (84.7%) 1515AD 1600AD (10.7%) 1618AD
PLD-13900	-26.71 $\pm$ 0.11	416 $\pm$ 20	415 $\pm$ 20	1443AD (68.2%) 1467AD	1436AD (93.6%) 1490AD 1603AD (1.8%) 1609AD
PLD-13901	-27.40 $\pm$ 0.19	384 $\pm$ 21	385 $\pm$ 20	1450AD (55.3%) 1494AD 1602AD (12.9%) 1615AD	1445AD (74.9%) 1522AD 1576AD (1.0%) 1583AD 1591AD (19.5%) 1622AD
PLD-13902	-26.42 $\pm$ 0.16	381 $\pm$ 19	380 $\pm$ 20	1452AD (55.3%) 1493AD 1602AD (12.9%) 1614AD	1446AD (74.9%) 1522AD 1591AD (20.5%) 1620AD

羽根遺跡

第5章 考察・総括

第1節 遺構の変遷

(1) はじめに

今回の羽根遺跡の発掘調査では、戦国時代から江戸時代を中心に遺構と遺物が確認されているものの、それ以前については遺物の出土はあるが遺構はA区とB区間の沢周辺で中世前半と考えられる遺構がわずかに確認されたにすぎなかった。

そこで、今回の調査成果を分析するための作業として本遺跡の遺構の中心となる戦国時代から江戸時代までの遺構の時期区分を行うこととした。遺構の時期区分をするにあたっては、瀬戸・美濃窯産陶器の藤澤良祐らの研究成果を援用するとともに、その他の遺物や放射性炭素年代測定の結果等も加味して行った。

(2) 遺構の変遷（第69図）

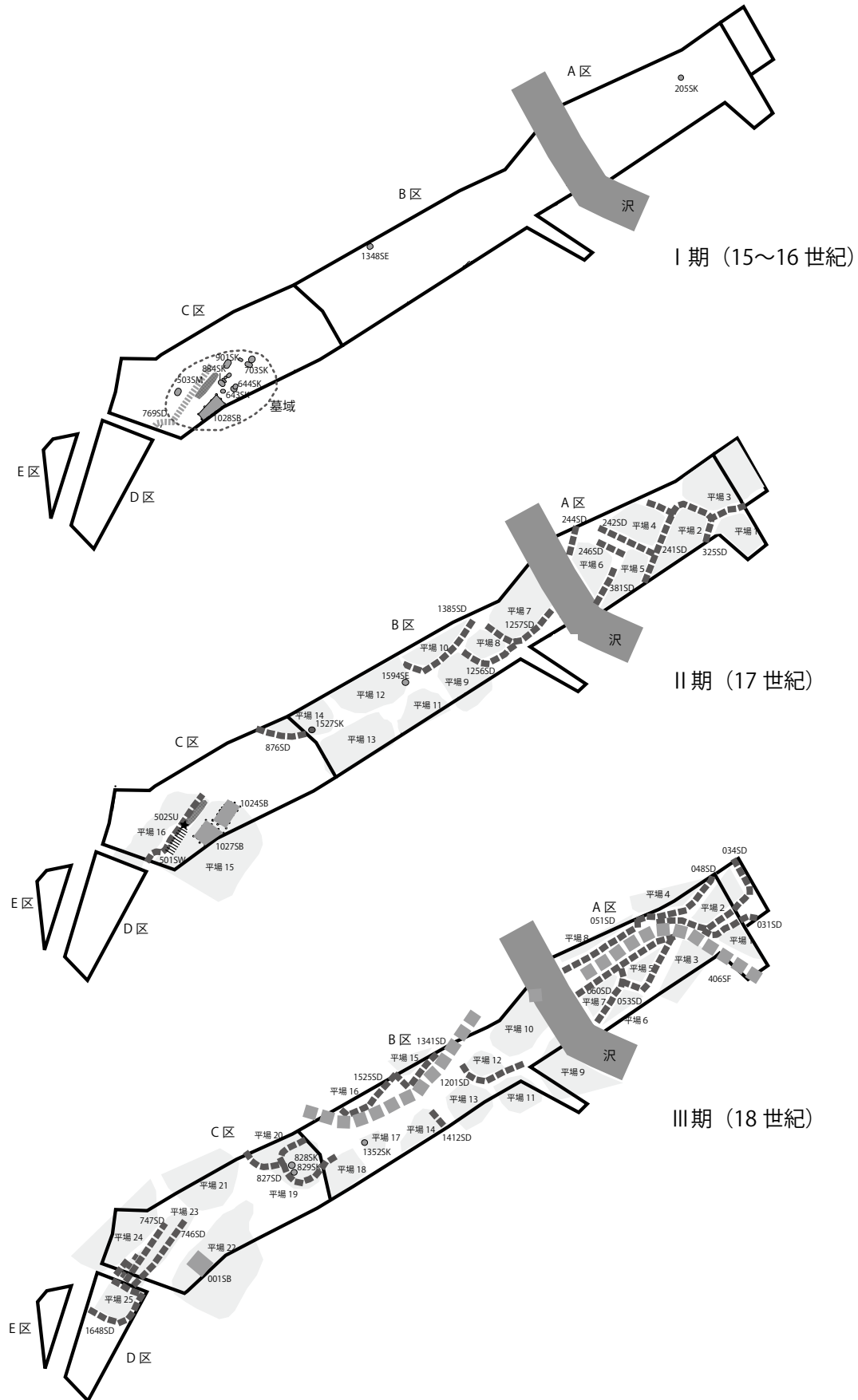
遺構の分析の結果、羽根遺跡の遺構は大きくⅠ期（15～16世紀）、Ⅱ期（17世紀）、Ⅲ期（18世紀）の3時期に区分できると考えられる。以下それぞれの時期について概観をまとめてみたい。

Ⅰ期（15～16世紀） 遺構はC区にほとんど展開している。掘立柱建物1028SBの北側を中心に643SK・644SK・884SK等一辺が1m以上の隅丸方形の土坑や大型の円形土坑が多く展開している状況や、一石五輪塔等を含む石塔類が数多く廃棄されていることから、この区域には石塔をもつ土坑墓群からなる墓域が形成されていたと考えられる。墓域は少なくとも15世紀代には形成されていたと考えられ、16世紀になり盛り土503SM、溝769SDなどが作られて最上段の平場がやや拡張され、17世紀初頭に土地利用の変更で墓域の移転・廃絶もしくは縮小等があったために石塔類の廃棄につながったと考えられる。

Ⅱ期（17世紀） 調査区の北と南で遺構の様相を異にしていると考えられる。調査区北側のA区・B区では緩斜面を削平や盛り土により平場を形成し、それぞれの平場に溝を巡らせた区画が整備され、集落が展開していたと考えられる。一方、南側のC区では溝769SDの東側斜面に石垣501SWが作られ、上段の平場が拡張され、墓域から掘立柱建物の展開する場所へと変化を遂げたと考えられる。墓域については、現在の墓地がD区の東側に展開していることからこの時期にC区から南側の地へと移転が行われたとも考えられ、C区の掘立柱建物も墓地と関連する施設の可能性がある。

Ⅲ期（18世紀） 18世紀になるとA区・B区にはそれまでの区画を切るように道が作られ、道の両側に平場が展開する状況へと変化する。特にA区では尾根へとのびる道406SFがそれまでであった平場区画を縦断したこともあり、一つ一つの区画が前段階よりも小規模になったことが確認された。また、それぞれの区画に展開する溝は、地盤の弱い部分や溝が複雑に合流する部分等を中心に地元産の片麻岩等を使った石組みによって強化していることが確認されている。B区・C区の境界付近には、828SK・829SK等常滑窯産の赤物甕を埋設した土坑が5カ所確認されたが、これらはカルシウム分等の付着がほとんどなく用途が不明のものである。平場21は調査区外も含め最も低い場所になっており、周辺の溝がここに向かいのびていること等から考えると、ここが池であったと推測される。C区の平場22については18世紀後半に旧宗桂寺基壇（001SB）をもつ建物が作られたと考えられる。

考察・総括



第 69 図 羽根遺跡主要遺構変遷図

羽根遺跡

第2節 総括

羽根遺跡は中世から近世を中心とする遺跡であり、今回の調査でその一端を確認することができた。そこで総括として、羽根遺跡の成果をもとにそのまとめと課題を提起しておきたい。

遺物等から確認される羽根遺跡は縄文時代から近世まで確認されるものであったが遺構は中世以前のものは確認できていない。これらは中世以降の地形の改変により遺構が削平されてしまった、もしくは今回の調査区よりもやや高い位置に遺構が展開する可能性が指摘できる。戦国時代から近世の遺構は3段階に変遷が見られるが、画期となる時期にこの地域の支配権がⅠ期（奥平氏）、Ⅱ期（幕府）、Ⅲ期（鍋島氏）と替わっているのも注目すべき点であろう。また、今回の調査で15～16世紀にかけて土坑墓を中心とする墓域の展開が確認され、これが近世に現在地へと移動したと考えているが、明治17年の宝飯郡萩村の地籍図で羽根遺跡周辺を確認すると、D区東に現在の墓地がある一方、A区東側の沢沿いに「埋葬場」と記載される場所があることから明治時代には埋め墓と参り墓を別にしてたと推測され、これがどの時期にこのような形態へと変化したかははっきりとしない。

中世から近世の遺物については、焼物として土師器の鍋・皿類が、石製品では石塔類が豊富に出土している。その特徴として鍋類については、東三河のハケ目をしっかり残すものよりも西三河のハケ目のあまりないものが多い見受けられた。これに対し、皿類についてはそのほとんどが非クロ調整皿であり、西三河より東三

河の様相が強い。石塔類では西三河の花こう岩を使ったものと東三河の凝灰岩を使ったものが同程度見られる。これらは羽根遺跡が東三河・西三河の境界に近いところに立地していることと無縁ではなかろう。

今回の調査は、過去この地域であまり行われていなかった中・近世の集落遺跡の調査であったことから、この時期の集落の形成や変遷を知る上で貴重な資料を提供することができたと考える。本報告をきっかけに当地域の歴史解明が進むことを期待したい。（成瀬友弘）

主要参考・引用文献

- 池上年 1962 『石塔の形式から見た津具盆地』 津具郷土資料保存会
 池上年編 1966 『旭村古石塔の根源』 旭村教育委員会
 井上和雄・後藤和夫編 1986 『三河国宝飯地方宗門人別改帳』 国書刊行会
 鈴木正貴 1996 「東海地方の土師器内耳鍋の生産について」『鍋と甕—そのデザイナー—』
 鈴木正貴編 2009 『今町遺跡Ⅱ』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第162集
 中野晴久 1994 「生産地における編年について」『「中世常滑焼をおって」資料集』 日本福祉大学知多半島総合研究所
 中野晴久 1995 「常滑の赤物」『常滑の赤物展～もう一つの常滑焼～』 常滑市教育委員会
 中野晴久 2006 「常滑窯」『江戸時代のやきもの—生産と流通—記念講演会・シンポジウム資料集』 財団法人瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
 萩原正彦他 2006 『音羽町史通史編』 音羽町
 萩原正彦他 2006 『音羽町史（史料編1）近世村方資料』 音羽町
 藤澤良祐 2007 「総論」『愛知県史 別編窯業2 中世・近世瀬戸系』 愛知県

石取り上げ観察表

石取り上げ観察表 1

(08A)								(08A)								(08A)							
番号	道槽名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱 備考	番号	道槽名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱 備考	番号	道槽名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱 備考
1	052SS		11	6	6	砂岩		86	051SD		30	19	3	砂岩		171	048SD		21	12	11	片麻岩	
2	052SS		21	14	5	片麻岩		87	051SD		16	12	10	片麻岩		172	048SD		19	12	4	片麻岩	
3	052SS		66	24	12	砂岩		88	051SD		25	10	6	片麻岩		173	048SD		21	14	5	片麻岩	
4	052SS		36	21	13	砂岩		89	051SD		21	10	7	片麻岩		174	048SD		18	16	9	片麻岩	
5	052SS		32	16	5	砂岩		90	051SD		25	13	9	片麻岩		175	048SD		11	6	4	片麻岩	
6	052SS		14	7	5	花崗岩		91	051SD		16	9	6	片麻岩		176	048SD		11	5	3	片麻岩	
7	052SS		46	18	11	砂岩		92	051SD		23	11	2	片麻岩		177	048SD		15	7	5	片麻岩	
8	052SS		19	11	7	砂岩		93	051SD		29	8	11	片麻岩		178	048SD		14	8	7	片麻岩	
9	052SS		32	20	11	砂岩		94	051SD		28	11	8	片麻岩		179	048SD		14	8	4	片麻岩	
10	052SS		45	30	10	砂岩		95	051SD		30	7	5	片麻岩		180	048SD		14	6	3	片麻岩	
11	052SS		22	16	5	砂岩		96	051SD		37	23	16	砂岩		181	048SD		16	13	3	片麻岩	
12	052SS		22	11	4	砂岩		97	051SD		77	24	8	片麻岩		182	048SD		17	8	3	片麻岩	
13	052SS		32	18	17	砂岩		98	051SD		26	13	8	片麻岩		183	048SD		16	10	7	片麻岩	
14	052SS		32	17	19	片麻岩		99	051SD		14	8	7	片麻岩		184	048SD		12	9	3	片麻岩	
15	052SS		19	11	4	砂岩		100	051SD		25	8	5	片麻岩		185	048SD		22	6	3	片麻岩	
16	052SS		18	9	6	砂岩		101	051SD		21	11	13	片麻岩		186	048SD		26	18	14	片麻岩	
17	052SS		30	22	4	砂岩		102	051SD		39	18	17	片麻岩		187	048SD		18	6	4	片麻岩	
18	052SS		30	16	6	砂岩		103	051SD		20	8	5	片麻岩		188	048SD		15	6	4	砂岩	
19	052SS		16	9	7	砂岩		104	051SD		12	9	4	片麻岩		189	048SD		26	12	5	片麻岩	
20	052SS		15	13	2	砂岩		105	051SD		42	17	7	砂岩		190	048SD		15	8	10	片麻岩	
21	052SS		15	14	5	砂岩		106	051SD		58	33	14	砂岩		191	048SD		17	12	8	片麻岩	
22	052SS		15	11	3	片麻岩		107	051SD		20	11	8	片麻岩		192	048SD		15	9	6	片麻岩	
23	052SS		13	6	7	長石		108	051SD		13	8	5	片麻岩		193	048SD		16	11	10	片麻岩	
24	052SS		30	5	6	砂岩		109	051SD		20	11	3	片麻岩		194	048SD		11	6	6	片麻岩	
25	052SS		23	13	8	砂岩		110	051SD		15	12	8	片麻岩		195	048SD		22	5	4	片麻岩	
26	052SS		40	20	12	砂岩		111	051SD	2つ	29	19	8	片麻岩		196	048SD		18	16	6	片麻岩	
27	052SS		20	14	6	砂岩		112	051SD		33	14	5	片麻岩		197	048SD		16	9	6	片麻岩	
28	052SS		16	8	5	砂岩		113	051SD		40	26	21	砂岩		198	048SD		17	9	11	片麻岩	
29	052SS		14	6	4	砂岩		114	051SD		32	14	5	片麻岩		199	048SD		19	14	11	片麻岩	
30	052SS		41	23	14	砂岩		115	051SD		29	14	8	砂岩		200	048SD		17	16	10	片麻岩	
31	052SS		47	24	13	砂岩		116	051SD		17	11	10	片麻岩		201	048SD		18	10	4	片麻岩	
32	052SS		41	12	11	砂岩		117	051SD		30	31	17	片麻岩		202	048SD		17	12	8	片麻岩	
33	052SS		29	14	4	砂岩		118	051SD		26	8	7	片麻岩		203	048SD		10	8	6	片麻岩	
34	052SS		10	5	3	砂岩		119	051SD		18	19	12	片麻岩		204	048SD		17	11	6	片麻岩	
35	052SS		18	13	3	砂岩		120	051SD		29	17	6	片麻岩		205	048SD		8	6	2	片麻岩	
36	052SS		14	6	3	砂岩		121	051SD		19	11	7	片麻岩		206	048SD		13	8	6	片麻岩	
37	052SS		16	7	4	砂岩		122	051SD		18	14	4	片麻岩		207	048SD		15	11	4	片麻岩	
38	052SS		24	11	8	砂岩		123	051SD		34	12	8	片麻岩		208	048SD		25	13	4	片麻岩	
39	052SS		22	11	8	砂岩		124	051SD		12	6	4	片麻岩		209	048SD		9	7	2	片麻岩	
40	052SS		16	11	6	砂岩		125	051SD		13	12	9	片麻岩		210	048SD		9	4	5	片麻岩	
41	052SS		27	18	13	砂岩		126	051SD		14	4	5	片麻岩		211	048SD		19	8	7	片麻岩	
42	052SS		30	12	5	片麻岩		127	051SD		29	10	5	砂岩		212	048SD		20	12	4	片麻岩	
43	052SS		22	9	4	片麻岩		128	052SS		13	10	9	片麻岩		213	048SD		19	14	8	片麻岩	
44	052SS		20	14	10	砂岩		129	052SS		15	12	13	片麻岩		214	048SD		26	10	8	片麻岩	
45	052SS		36	24	11	片麻岩		130	052SS		14	11	6	片麻岩		215	048SD		23	9	4	片麻岩	
46	052SS		41	16	13	砂岩		131	052SS		17	13	3	片麻岩		216	048SD		20	11	10	片麻岩	
47	052SS		23	21	14	砂岩		132	052SS		17	9	7	砂岩		217	048SD		16	11	5	片麻岩	
48	052SS		14	10	8	片麻岩		133	052SS		14	11	12	片麻岩		218	048SD		20	12	4	片麻岩	
49	052SS		9	6	4	砂岩		134	052SS		17	7	7	片麻岩		219	048SD		22	20	5	片麻岩	
50	052SS		9	4	3	砂岩		135	052SS		22	10	5	片麻岩		220	048SD		22	10	5	片麻岩	
51	052SS		40	21	20	砂岩		136	052SS		17	8	3	片麻岩		221	048SD		14	16	4	片麻岩	
52	052SS	2つ	17	11	13	砂岩		137	052SS		18	10	6	片麻岩		222	048SD		21	15	7	片麻岩	
53	051SD		19	11	4	片麻岩		138	052SS		13	12	2	片麻岩		223	048SD		23	16	5	片麻岩	
54	051SD		14	10	3	砂岩		139	052SS		16	5	4	片麻岩		224	048SD		26	7	3	片麻岩	
55	051SD		14	11	9	砂岩		140	052SS		27	12	8	片麻岩		225	048SD		20	9	7	片麻岩	
56	051SD		13	15	7	片麻岩		141	052SS		18	12	6	片麻岩		226	048SD		21	20	6	片麻岩	
57	051SD		8	9	4	片麻岩		142	052SS		18	13	7	片麻岩		227	048SD		17	11	3	片麻岩	
58	051SD		25	14	3	片麻岩		143	052SS		20	11	5	片麻岩		228	048SD	2つ	19	14	5	片麻岩	
59	051SD		23	12	10	片麻岩		144	052SS		11	8	3	片麻岩		229	048SD		20	17	9	片麻岩	
60	051SD		16	9	3	砂岩		145	052SS		28	12	6	片麻岩		230	048SD		30	11	6	片麻岩	
61	051SD		13	11	9	片麻岩		146	052SS														

羽根遺跡

石取り上げ観察表 2

(08A)									(08A)									(08A)								
番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考
256	048SD		13	7	3	片麻岩			341	051SD		22	10	13	片麻岩			426	048-051SD		12	12	2	花崗岩		
257	048SD		24	14	3	片麻岩			342	070SD		20	16	12	片麻岩			427	048-051SD		13	8	5	花崗岩		
258	048SD		19	8	3	片麻岩			343	070SD		14	15	9	片麻岩			428	048-051SD		13	6	6	花崗岩		
259	048SD		13	19	11	片麻岩			344	070SD		19	10	3	片麻岩			429	048-051SD		37	11	8	花崗岩		
260	048SD		17	15	3	片麻岩			345	070SD		20	9	3	片麻岩			430	048-051SD		20	12	10	花崗岩		
261	048SD		20	9	8	片麻岩			346	070SD		20	16	4	片麻岩			431	048-051SD		31	34	15	花崗岩		
262	048SD		25	12	13	片麻岩			347	070SD		41	16	8	片麻岩			432	048-051SD							
263	048SD		15	8	9	片麻岩			348	070SD		16	8	7	片麻岩			433	048-051SD		12	6	4	片麻岩		
264	048SD		18	14	6	片麻岩			349	070SD		40	22	7	片麻岩			434	048-051SD		13	6	3	片麻岩		
265	048SD		22	17	7	片麻岩			350	070SD		22	17	6	片麻岩			435	048-051SD		13	4	3	砂岩		
266	048SD		16	11	6	片麻岩			351	070SD		12	11	7	片麻岩			436	048-051SD		27	19	5	片麻岩		
267	048SD		23	10	8	片麻岩			352	070SD		11	6	5	片麻岩			437	048-051SD		26	11	8	片麻岩		
268	048SD		9	10	4	片麻岩			353	070SD		17	14	5	片麻岩			438	048-051SD		11	7	3	片麻岩		
269	048SD		20	12	4	片麻岩			354	070SD		17	8	7	片麻岩			439	048-051SD		37	30	8	片麻岩		
270	048SD		10	9	3	片麻岩			355	070SD		21	13	8	片麻岩			440	048-051SD	2つ	31	16	4	片麻岩		
271	048SD		12	8	4	片麻岩			356	070SD		22	10	8	片麻岩			441	048-051SD		16	11	3	片麻岩		
272	048SD		10	8	8	片麻岩			357	070SD		22	20	7	片麻岩			442	048-051SD		16	14	4	片麻岩		
273	048SD		16	8	3	片麻岩			358	070SD		14	5	4	片麻岩			443	048-051SD		9	7	6	片麻岩		
274	048SD		14	8	5	片麻岩			359	070SD		9	14	5	片麻岩			444	048-051SD		12	9	8	片麻岩		
275	048SD		13	11	3	片麻岩			360	070SD		10	4	2	片麻岩			445	048-051SD		16	8	2	片麻岩		
276	048SD		11	6	4	片麻岩			361	070SD		18	8	4	片麻岩			446	048-051SD		13	5	6	片麻岩		
277	048SD		10	8	5	片麻岩			362	070SD	2つ	29	15	4	片麻岩			447	048-051SD		8	6	5	片麻岩		
278	048SD		26	15	3	片麻岩			363	070SD		31	21	5	片麻岩			448	048-051SD		7	5	4	片麻岩		
279	048SD		13	5	4	片麻岩			364	070SD		23	11	11	片麻岩			449	048-051SD		16	8	5	片麻岩		
280	048SD	2つ	26	17	13	片麻岩			365	070SD		24	13	2	片麻岩			450	048-051SD		16	8	5	片麻岩		
281	048SD		14	13	12	片麻岩			366	070SD		18	13	4	片麻岩			451	048-051SD		32	19	5	片麻岩		
282	048SD		32	18	9	片麻岩			367	070SD		21	13	3	片麻岩			452	048-051SD		20	17	15	砂岩		
283	048SD		31	23	7	片麻岩			368	070SD		14	7	3	片麻岩			453	048-051SD		15	11	6	片麻岩		
284	048SD		30	11	12	片麻岩			369	070SD		18	13	5	片麻岩			454	048-051SD		13	8	7	片麻岩		
285	048SD		32	20	11	片麻岩			370	070SD		22	16	7	片麻岩			455	048-051SD		16	13	4	片麻岩		
286	048SD		31	17	5	片麻岩			371	070SD		23	7	3	片麻岩			456	048-051SD		45	15	12	片麻岩		
287	048SD		24	12	9	片麻岩			372	070SD		17	8	7	アップライト			457	048-051SD		30	12	11	砂岩		
288	051SD		22	13	8	片麻岩			373	070SD							石白	458	048-051SD		17	8	10	砂岩		
289	051SD		23	13	6	片麻岩			374	070SD		12	9	7	片麻岩			459	048-051SD		21	10	8	片麻岩		
290	051SD		34	15	6	片麻岩			375	070SD		23	10	3	片麻岩			460	048-051SD		57	29	11	片麻岩		
291	051SD		27	11	13	片麻岩			376	070SD		17	7	3	片麻岩			461	048-051SD		20	7	6	片麻岩		
292	051SD		27	20	9	片麻岩			377	070SD		23	20	2	片麻岩			462	048-051SD		21	9	8	片麻岩		
293	051SD		15	11	9	片麻岩			378	070SD		20	13	7	片麻岩			463	048-051SD		23	11	4	片麻岩		
294	051SD		14	12	4	花崗岩			379	070SD		20	13	4	片麻岩			464	048-051SD		16	15	11	片麻岩		
295	051SD		34	24	28	片麻岩			380	070SD		20	17	11	片麻岩			465	048-051SD		16	21	4	片麻岩		
296	051SD		56	28	19	片麻岩			381	070SD		18	13	4	片麻岩			466	048-051SD		32	20	13	砂岩		
297	051SD		23	15	4	片麻岩			382	070SD		19	12	2	片麻岩			467	048-051SD		23	7	11	片麻岩		
298	051SD		29	10	11	片麻岩			383	070SD		15	11	9	片麻岩			468	048-051SD		15	9	3	砂岩		
299	051SD		25	17	5	片麻岩			384	070SD		12	10	3	片麻岩			469	048-051SD		21	11	4	砂岩		
300	051SD		21	21	21	片麻岩			385	070SD		18	10	8	片麻岩			470	048-051SD		17	18	7	砂岩		
301	051SD		13	11	3	片麻岩			386	070SD		16	13	6	砂岩			471	048-051SD		30	21	8	片麻岩		
302	051SD		13	6	4	片麻岩			387	070SD		23	15	7	砂岩			472	048-051SD		27	10	5	片麻岩		
303	051SD		13	5	4	片麻岩			388	070SD	2つ	15	20	8	片麻岩			473	048-051SD		21	14	10	片麻岩		
304	051SD		6	5	6	片麻岩			389	070SD		18	12	5	片麻岩			474	048-051SD		11	10	6	片麻岩		
305	051SD		14	7	7	片麻岩			390	070SD		11	9	3	片麻岩			475	048-051SD		24	20	5	片麻岩		
306	051SD		22	11	8	片麻岩			391	070SD		10	8	4	砂岩			476	048-051SD		19	8	4	片麻岩		
307	051SD		19	10	5	片麻岩			392	070SD		5	5	4	砂岩			477	048-051SD		14	10	8	片麻岩		
308	051SD		14	16	6	片麻岩			393	070SD		6	5	3	砂岩			478	048-051SD		32	18	11	片麻岩		
309	051SD		28	13	11	片麻岩			394	070SD		17	8	9	片麻岩			479	048-051SD		18	17	5			

石取り上げ観察表

石取り上げ観察表 3

(08A)									(08A)									(08B)								
番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考
511	048-051SD		17	11	5	片麻岩			596	035SS		20	15	8	片麻岩			1	1385SD		18	13	5	片麻岩		
512	048-051SD		15	10	5	片麻岩			597	035SS		20	15	7	片麻岩			2	1385SD		11	7	5	片麻岩		
513	070SD		27	17	3	片麻岩			598	256SP								3	1385SD		17	8	2	片麻岩		
514	070SD		21	12	6	片麻岩			599	256SP								4	1385SD		25	20	10	片麻岩	○	
515	070SD		11	11	5	片麻岩			600	256SP								5	1385SD		18	13	6	片麻岩	○	
516	070SD		12	6	4	片麻岩			601	256SP								6	1385SD		23	21	6	片麻岩		
517	070SD		11	11	5	長石			602	256SP		8	12	5	片麻岩			7	1385SD		9	7	5	片麻岩	○	
518	070SD		13	8	3	片麻岩			603	256SP		9	4	3	片麻岩			8	1385SD		35	9	9	片麻岩		
519	070SD		10	5	6	片麻岩			604	256SP		6	5	4	片麻岩			9	1385SD		25	20	7	片麻岩	○	
520	070SD		12	6	4	砂岩			605	256SP		13	6	4	片麻岩			10	1385SD		30	17	9	片麻岩		
521	070SD		25	12	7	片麻岩			606	256SP		20	9	4	片麻岩			11	1385SD		20	13	13	片麻岩		
522	070SD		37	19	11	片麻岩			607	257SP		20	11	4	片麻岩			12	1385SD		16	8	2	片麻岩		
523	070SD		14	7	5	片麻岩			608	257SP		19	6	5	片麻岩			13	1385SD		21	8	3	片麻岩		
524	070SD		27	18	11	砂岩			609	257SP		8	4	3	片麻岩			14	1385SD		26	17	12	片麻岩		
525	070SD		18	8	6	砂岩			610	257SP		7	5	4	片麻岩			15	1385SD		10	7	2	片麻岩		
526	070SD		23	15	8	片麻岩			611	257SP		7	6	3	片麻岩			16	1385SD		18	8	7	片麻岩		
527	070SD		14	8	6	片麻岩			612	257SP		30	22	7	片麻岩			17	1385SD		7	4	5	片麻岩		
528	070SD		17	13	7	片麻岩			613	257SP		19	9	4	片麻岩			18	1385SD		17	11	8	花崗岩		
529	070SD		44	16	13	片麻岩			614	257SP		10	5	3	片麻岩			19	1385SD		11	4	4			
530	070SD		5	5	6	片麻岩			615	257SP		12	9	2	片麻岩			20	1385SD		19	8	3	片麻岩		
531	070SD		11	6	3	砂岩			616	257SP		5	5	3	片麻岩			21	1385SD		8	13	6	片麻岩		
532	070SD		9	6	5	砂岩			617	257SP		5	4	1	片麻岩			22	1385SD		6	4	4	片麻岩	○	
533	070SD		11	5	5	片麻岩			618	257SP		14	8	3	片麻岩			23	1385SD		10	9	5	片麻岩		
534	070SD		13	6	3	片麻岩			619	257SP		14	6	3	片麻岩			24	1385SD		7	5	4	片麻岩		
535	070SD		16	7	2	片麻岩			620	257SP		7	4	4	片麻岩			25	1385SD		11	5	4	片麻岩		
536	070SD		16	18	10	片麻岩			621	257SP		7	5	2	片麻岩			26	1385SD		18	13	11	片麻岩		
537	070SD		14	6	5	片麻岩			622	257SP		12	10	3	片麻岩			27	1385SD		19	11	4	片麻岩	○	
538	070SD		13	9	4	片麻岩			623	387SK		20	7	5	片麻岩			28	1385SD		14	8	4	片麻岩		
539	070SD		12	7	5	片麻岩			624	387SK		8	5	4	片麻岩			29	1385SD		7	5	3	片麻岩		
540	070SD		12	4	3	砂岩			625	387SK		23	16	6	片麻岩			30	1385SD		11	6	8	片麻岩		
541	070SD		33	16	14	片麻岩			626	387SK		25	9	2	片麻岩			31	1385SD		13	5	3	片麻岩		
542	070SD		11	8	4	砂岩			627	387SK		23	12	7	片麻岩			32	1385SD		5	4	2	片麻岩		
543	070SD		5	4	2	片麻岩			628	387SK		11	9	3	片麻岩			33	1385SD		10	4	2	片麻岩		
544	070SD		5	3	1	片麻岩			629	387SK		10	9	9	片麻岩			34	1385SD		8	6	4	花崗岩		
545	070SD		5	5	2	砂岩			630	387SK		9	7	5	片麻岩			35	1385SD		12	7	6	片麻岩		
546	070SD		5	3	2	片麻岩			631	387SK							土器	36	1385SD							
547	070SD		5	2	2	片麻岩			632	387SK		25	8	5	片麻岩			37	1385SD		9	5	4	片麻岩		
548	070SD		10	5	5	砂岩			633	387SK		13	5	2	片麻岩			38	1385SD		5	4	2	片麻岩		
549	070SD		30	12	10	片麻岩			634	387SK		9	5	2	片麻岩			39	1385SD		14	6	6	花崗岩	○	
550	070SD		28	14	10	片麻岩			635	387SK		13	7	2	片麻岩			40	1385SD		23	8	6	片麻岩		
551	070SD		29	15	13	砂岩			636	387SK		9	6	15	片麻岩			41	1385SD		9	4	5	片麻岩		
552	070SD		31	12	11	片麻岩			637	264SD		15	16	4	片麻岩			42	1385SD		23	16	6	片麻岩	○	
553	070SD		25	28	25	片麻岩			638	264SD		15	15	3	片麻岩			43	1385SD		26	18	10	片麻岩	○	
554	070SD		10	6	4	片麻岩			639	264SD		28	10	14	片麻岩			44	1385SD		9	4	4	片麻岩		
555	070SD		18	21	11	片麻岩			640	264SD		12	17	5	片麻岩			45	1385SD		9	6	3	片麻岩		
556	070SD		29	14	12	片麻岩			641	264SD		17	10	6	片麻岩			46	1385SD		8	4	4			
557	070SD		36	20	10	片麻岩			642	264SD		13	8	2	片麻岩			47	1385SD		13	12	6	片麻岩		
558	070SD		9	10	4	砂岩			643	264SD		17	10	11	片麻岩			48	1385SD		10	5	5	片麻岩		
559	070SD		17	13	11	片麻岩			644	264SD		21	12	13	片麻岩			49	1385SD		8	5	3	片麻岩		
560	070SD		39	18	8	片麻岩			645	264SD		24	15	6	片麻岩			50	1385SD		6	2	3	花崗岩		
561	035SS		15	7	5	片麻岩			646	264SD		15	18	7	片麻岩			51	1385SD		14	8	4	片麻岩		
562	035SS		21	14	4	片麻岩			647	264SD		26	13	9	片麻岩			52	1385SD		12	10	3	片麻岩	○	
563	035SS		15	5	3	片麻岩			648	264SD		26	20	2	片麻岩			53	1385SD		11	7	3	片麻岩	○	
564	035SS		15	9	10	片麻岩			649	264SD		20	15	3	片麻岩			54	1385SD		20	13	6	片麻岩		
565	035SS		8	6	4	片麻岩			650	264SD		11	6	2	片麻岩			55	1385SD		15	8	2	片麻岩	○	
566	035SS		13	10	3	片麻岩			651	264SD		29	11	4	片麻岩			56	1385SD		20	8	4	片麻岩		
567	035SS		15	9	3	片麻岩			652	26																

羽根遺跡

石取り上げ観察表 4

(08B)									(08B)									(08C)								
番号	遺構番号	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考
86	1385SD		10	5	4	片麻岩			171	1385SD		16	6	4	片麻岩			1	001SB		18	10	10	砂岩		
87	1385SD		36	16	5	片麻岩			172	1385SD		11	9	3				2	001SB		22	13	11	片麻岩		
88	1385SD		25	24	12	片麻岩	○		173	1385SD		10	10	6				3	001SB		26	11	9	砂岩		
89	1385SD		9	7	3				174	1385SD		25	15	7	片麻岩			4	001SB		30	12	9	片麻岩		
90	1385SD		16	12	6	花崗岩			175	1385SD		30	16	6	片麻岩			5	001SB		16	11	10	砂岩		
91	1385SD		8	4	7	片麻岩			176	1385SD		22	13	9	片麻岩			6	001SB		21	17	14	片麻岩		
92	1385SD		8	7	5	片麻岩			177	1385SD		20	18	3	片麻岩			7	001SB		18	18	6	片麻岩		
93	1385SD		10	5	4	花崗岩			178	1385SD		29	17	7	花崗岩			8	001SB		21	14	15	片麻岩		
94	1385SD		12	5	2	片麻岩			179	1385SD		17	13	12	片麻岩	○		9	001SB		30	22	20	砂岩		
95	1385SD								180	1385SD		26	17	9	花崗岩			10	001SB		20	14	7	片麻岩		
96	1385SD		22	15	7	片麻岩	○		181	1385SD		11	7	5	片麻岩			11	001SB		29	15	5	片麻岩		
97	1385SD		20	11	4	片麻岩			182	1385SD		11	8	3				12	001SB		23	20	9	片麻岩		
98	1385SD								183	1385SD		40	31	18	片麻岩			13	001SB		22	14	11	砂岩		
99	1385SD		9	3	4				184	1385SD 下層		42	17	13				14	001SB		17	9	10	片麻岩		
100	1385SD		8	5	3	片麻岩	○		185	1386SD 下層		18	12	3	片麻岩			15	001SB		30	21	15	片麻岩		
101	1385SD		9	3	3	片麻岩			186	1387SD 下層		25	13	7	片麻岩	○		16	001SB		25	12	6	片麻岩		
102	1385SD		8	5	4	片麻岩			187	1388SD 下層		41	10	3	片麻岩			17	001SB		29	36	24	砂岩		
103	1385SD		21	11	8	片麻岩			188	1389SD 下層		34	16	4	片麻岩	○		18	001SB		24	15	11	花崗岩		
104	1385SD		19	10	4	片麻岩			189	1390SD 下層		26	11	7	片麻岩	○		19	001SB		42	22	6	片麻岩		
105	1385SD		8	4	5	片麻岩			190	1391SD 下層		12	11	4				20	001SB		31	14	3	片麻岩		
106	1385SD		8	6	3	片麻岩			191	1392SD 下層		37	17	13	片麻岩	○		21	001SB		41	31	19	片麻岩		
107	1385SD		15	14	8	片麻岩			192	1393SD 下層		22	10	6	花崗岩			22	001SB		14	11	3	片麻岩		
108	1385SD		12	6	4	片麻岩			193	1394SD 下層		7	4	3				23	001SB		11	9	4	片麻岩		
109	1385SD		17	6	3	片麻岩	○		194	1395SD 下層		23	10	6	片麻岩	○		24	001SB		12	14	10	片麻岩		
110	1385SD		10	6	4	花崗岩			195	1396SD 下層		37	15	13	片麻岩	○		25	001SB		24	15	10	片麻岩		
111	1385SD		8	8	2	片麻岩											26	001SB		23	17	9	片麻岩			
112	1385SD		24	4	4	片麻岩											27	001SB		25	9	9	片麻岩			
113	1385SD		10	6	1	片麻岩											28	001SB		30	19	11	片麻岩			
114	1385SD		6	4	2	片麻岩											29	001SB		30	16	7	片麻岩			
115	1385SD		10	4	3	片麻岩											30	001SB	3つ組合わせ	30	18	11	片麻岩			
116	1385SD		9	5	4	片麻岩											31	001SB		30	15	14	砂岩			
117	1385SD		15	5	4	片麻岩											32	001SB		28	16	11	砂岩			
118	1385SD		12	5	4	片麻岩											33	001SB		22	18	12	砂岩			
119	1385SD		12	7	2	片麻岩											34	001SB		24	25	12	砂岩			
120	1385SD		10	4	4	片麻岩											35	001SB		24	18	8	片麻岩			
121	1341SD		35	15	7	片麻岩											36	001SB		40	17	9	片麻岩			
122	1341SD		17	8	3	片麻岩											37	001SB		32	18	12	片麻岩			
123	1341SD		13	7	6	片麻岩											38	001SB		24	14	7	片麻岩			
124	1341SD		32	10	7	花崗岩											39	001SB		15	14	4	片麻岩			
125	1341SD		15	8	4	片麻岩											40	001SB		40	30	18	砂岩			
126	1341SD		10	12	3	片麻岩											41	001SB		17	18	8	砂岩			
127	1341SD		10	6	4	片麻岩											42	001SB		19	20	7	片麻岩			
128	1341SD		10	6	4	片麻岩											43	001SB		34	15	14	片麻岩			
129	1341SD		8	5	3	片麻岩											44	001SB		20	15	9	砂岩			
130	1341SD		15	7	4	片麻岩											45	001SB		30	19	15	砂岩			
131	1341SD		11	7	4	片麻岩											46	001SB		27	14	8	片麻岩			
132	1341SD		10	4	4	片麻岩											47	001SB		33	20	13	片麻岩			
133	1341SD		11	8	7	片麻岩											48	001SB		17	11	4	砂岩			
134	1341SD		20	8	7	片麻岩	○										49	001SB		19	17	11	片麻岩			
135	1341SD		17	14	5	片麻岩											50	001SB		20	18	13	片麻岩			
136	1341SD		22	9	3	片麻岩											51	001SB		36	21	16	片麻岩			
137	1341SD		31	10	12	片麻岩											52	001SB		10	8	4	片麻岩			
138	1341SD		20	13	5	片麻岩											53	001SB		22	13	6				
139	1341SD		13	5	5	片麻岩											54	001SB		28	18	9	片麻岩			
140	1341SD		18	13	5	片麻岩											55	001SB		25	19	7	片麻岩			
141	1341SD		7	4	3	片麻岩	○										56	001SB		25	16	13	砂岩			
142	1341SD		17	5	6	片麻岩											57	001SB		18	14	9	砂岩			
143	1341SD		25	13	4	片麻岩											58	001SB		19	11	13	片麻岩			
144	1341SD		9	6	3	片麻岩											59	001SB		55	20	11	片麻岩			
145	1341SD		25	12	9	片麻岩											60	001SB		16	8	5	片麻岩			

石取り上げ観察表

石取り上げ観察表 5

(08C)									(08C)									(09C)								
番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考
86	001SB		22	9	8	片麻岩			171	001SB		16	10	11	片麻岩			256	001SB		35	28	17	砂岩		
87	001SB		26	14	9	砂岩			172	001SB		30	24	14	砂岩			257	001SB		35	21	8	片麻岩		
88	001SB		24	16	17	砂岩			173	001SB		31	13	10	片麻岩			258	001SB		23	20	6	片麻岩		
89	001SB		28	19	9	片麻岩			174	001SB		18	16	14	砂岩			259	001SB		65	28	17	片麻岩		墨書き
90	001SB		28	20	7	片麻岩			175	001SB		24	16	9	片麻岩			260	001SB		23	15	5	片麻岩		
91	001SB		25	18	6	片麻岩			176	001SB		26	14	6	片麻岩			261	001SB		33	26	15	砂岩		
92	001SB		27	19	10	砂岩			177	001SB		26	14	11	片麻岩			262	001SB		87	47	28	片麻岩		墨書き
93	001SB		22	17	16	片麻岩			178	001SB		28	16	18	片麻岩			263	001SB		45	25	6	片麻岩		
94	001SB		20	11	5	砂岩			179	001SB		40	19	12	片麻岩			264	001SB		34	31	17	片麻岩		墨書き
95	001SB		15	11	11	片麻岩			180	001SB		23	10	5	片麻岩			265	001SB		32	15	6	片麻岩		
96	001SB		18	12	9	砂岩			181	001SB		38	19	8	片麻岩			266	001SB		37	24	24	片麻岩		
97	001SB		37	22	9	片麻岩			182	001SB		13	7	3	砂岩			267	001SB		24	22	14	砂岩		
98	001SB		35	22	11	砂岩			183	001SB		9	5	3	片麻岩			268	001SB		25	14	8	片麻岩		
99	001SB		46	28	22	片麻岩			184	001SB		14	6	8	片麻岩			269	001SB		23	16	8	片麻岩		
100	001SB		18	14	12	砂岩			185	001SB		14	7	7	砂岩			270	001SB		39	21	16	砂岩		
101	001SB		18	13	7	片麻岩			186	001SB		13	9	8	片麻岩			271	001SB		26	14	7	片麻岩		
102	001SB		25	18	9	砂岩			187	001SB		49	23	16	砂岩			272	001SB		24	12	6	片麻岩		
103	001SB		23	15	10	砂岩			188	001SB		26	20	10	砂岩			273	001SB		25	26	17	片麻岩		
104	001SB		24	15	12	片麻岩			189	001SB		23	13	18	砂岩			274	001SB		30	24	24	片麻岩		礎石
105	001SB		23	17	7	片麻岩			190	001SB		12	8	3	片麻岩			275	001SB		32	35	18	片麻岩		礎石
106	001SB		20	13	15	片麻岩			191	001SB		31	23	16	片麻岩			276	001SB	2つ	59	58	30	片麻岩		中心礎石
107	001SB		17	15	16	片麻岩			192	001SB		43	28	36	砂岩			277	001SB		25	14	5	片麻岩		礎石
108	001SB		39	18	15	片麻岩			193	001SB		25	13	5	片麻岩			278	001SB		42	36	15	片麻岩		礎石
109	001SB		21	24	15	片麻岩			194	001SB		19	12	4				279	501SW		13	9	6	片麻岩		
110	001SB		18	13	10	片麻岩			195	001SB		19	14	4	片麻岩			280	501SW		20	12	10	片麻岩		
111	001SB		30	33	18	片麻岩			196	001SB		38	25	14	片麻岩			281	501SW		22	10	4	片麻岩		
112	001SB		73	19	10	片麻岩			197	001SB		26	10	17	片麻岩			282	501SW		13	10	6	片麻岩		
113	001SB		24	10	8	片麻岩			198	001SB		41	13	14	砂岩			283	501SW		27	22	13	片麻岩		
114	001SB		30	12	12	片麻岩			199	001SB		27	21	13	片麻岩			284	501SW		18	7	8	片麻岩		
115	001SB		22	18	13	砂岩			200	001SB		31	18	13	片麻岩			285	501SW		23	17	15	片麻岩		
116	001SB		27	14	13	片麻岩			201	001SB		28	16	8	片麻岩			286	501SW		11	8	4	片麻岩		
117	001SB		20	14	11	砂岩			202	001SB		27	21	11	砂岩			287	501SW		15	8	6	片麻岩		
118	001SB		26	19	7	片麻岩			203	001SB		28	13	15	片麻岩			288	501SW		19	13	6	片麻岩		
119	001SB		28	13	9	片麻岩			204	001SB		40	25	15	片麻岩			289	501SW		25	8	7	片麻岩		
120	001SB		28	16	11	花崗岩			205	001SB		20	15	12	花崗岩			290	501SW		17	19	15	片麻岩	○	
121	001SB		40	19	18	片麻岩			206	001SB		25	12	8	片麻岩			291	501SW		32	16	18	片麻岩		
122	001SB		33	16	14	片麻岩			207	001SB		31	15	8	片麻岩			292	501SW		24	14	8	花崗岩	○	
123	001SB		19	8	6	片麻岩			208	001SB		26	14	7	片麻岩			293	501SW		22	19	15	片麻岩		
124	001SB		20	13	16	片麻岩			209	001SB		25	22	12	片麻岩			294	501SW		28	12	11	片麻岩	○	
125	001SB		21	11	7	砂岩			210	001SB		25	12	5	片麻岩			295	501SW		13	8	5	片麻岩		
126	001SB		24	15	8	砂岩			211	001SB		32	15	11	片麻岩			296	501SW		28	13	9	片麻岩	○	
127	001SB		20	17	6	片麻岩			212	001SB		34	22	15	砂岩			297	501SW		25	15	12	片麻岩	○	
128	001SB		40	23	20	片麻岩			213	001SB		45	28	13	砂岩			298	501SW		32	22	10	片麻岩	○	
129	001SB		30	10	11	片麻岩			214	001SB		32	25	18	片麻岩			299	501SW		23	17	15	アブライト	○	
130	001SB		29	28	8	片麻岩			215	001SB		17	11	4	片麻岩			300	501SW		37	16	18	片麻岩	○	
131	001SB		22	10	11	花崗岩			216	001SB		28	20	13	砂岩			301	501SW		28	19	16	片麻岩	○	
132	001SB		33	20	21	砂岩			217	001SB		36	18	11	片麻岩			302	501SW		16	13	8	片麻岩		
133	001SB		22	20	11	砂岩			218	001SB		29	10	7	片麻岩			303	501SW		30	13	8	片麻岩	○	
134	001SB		23	15	12	砂岩			219	001SB		28	14	11	片麻岩			304	501SW		22	24	15	片麻岩	○	
135	001SB		28	22	19	片麻岩			220	001SB		21	20	14	片麻岩			305	501SW		22	16	6	片麻岩	○	
136	001SB		18	16	6	片麻岩			221	001SB		50	27	13	片麻岩			306	501SW		24	15	15	片麻岩	○	
137	001SB		24	14	7	砂岩			222	001SB		35	15	12	片麻岩			307	501SW		11	6	4	片麻岩		
138	001SB		22	18	10	砂岩			223	001SB		29	20	19	片麻岩			308	501SW		27	17	13	片麻岩		
139	001SB		16	15	16	片麻岩			224	001SB		35	13	11	片麻岩			309	501SW		24	17	15	片麻岩		
140	001SB		30	20	14	片麻岩			225	001SB		26	20	11	砂岩			310	501SW		33	11	9	片麻岩		

羽根遺跡

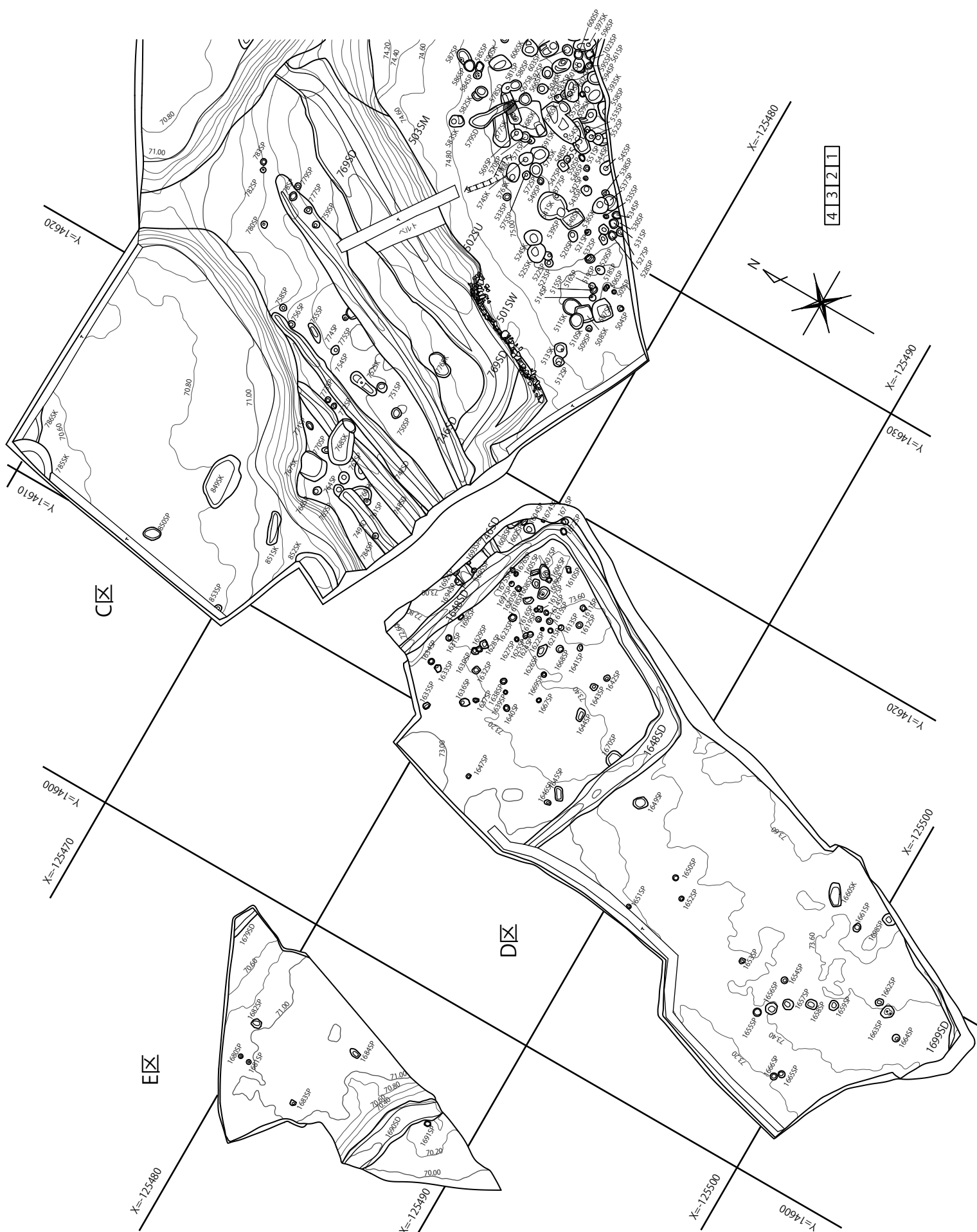
石取り上げ観察表 6

(08C)									(08C)									(08C)								
番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺跡名	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考	番号	遺構名	形状	長さ (cm)	幅(cm)	厚さ (cm)	石材	被熱	備考
341	501SW		18	14	2	片麻岩	○		426	501SW		35	26	10	片麻岩	○		511	501SW		22	15	14	片麻岩	○	
342	501SW		9	6	3	片麻岩			427	501SW		23	8	9	片麻岩			512	501SW		32	15	10	片麻岩	○	
343	501SW		38	20	9	片麻岩			428	501SW		50	21	17	片麻岩			513	501SW		26	18	13	片麻岩	○	
344	501SW		23	11	6	片麻岩	○		429	501SW		50	35	11	片麻岩			514	501SW		29	19	10	片麻岩		
345	501SW		22	11	8	片麻岩	○		430	501SW		24	12	5	片麻岩			515	501SW		26	14	11	片麻岩		
346	501SW		35	25	15	片麻岩	○		431	501SW		30	16	17	片麻岩			516	501SW		40	15	14	片麻岩	○	
347	501SW		10	5	3	片麻岩			432	501SW		31	11	11	片麻岩			517	501SW		31	13	9	片麻岩		
348	501SW		12	10	6	片麻岩			433	501SW		30	15	5	片麻岩			518	501SW		36	29	16	片麻岩		
349	501SW		12	12	3	片麻岩			434	501SW		33	17	11	片麻岩			519	501SW		35	18	10	片麻岩		
350	501SW		42	23	18	片麻岩	○		435	501SW		13	5	5	片麻岩			520	501SW		30	22	10	片麻岩	○	
351	501SW		27	19	9	片麻岩	○		436	501SW		24	9	5	片麻岩			521	501SW		23	10	4	片麻岩	○	
352	501SW		21	15	8	片麻岩	○		437	501SW		32	17	11	片麻岩	○		522	501SW		34	16	10	片麻岩	○	
353	501SW		16	8	3	片麻岩			438	501SW		22	10	9	片麻岩	○		523	501SW		36	16	13	片麻岩		
354	501SW		23	10	5	片麻岩	○		439	501SW		28	16	7	片麻岩			524	501SW		34	12	10	片麻岩		
355	501SW		12	9	4	片麻岩			440	501SW		28	18	12	片麻岩	○		525	501SW		30	18	11	片麻岩		
356	501SW		20	11	7	片麻岩			441	501SW		28	15	6	片麻岩	○		526	501SW		36	10	9	片麻岩		
357	501SW		27	15	8	片麻岩	○		442	501SW		24	11	6	片麻岩			527	501SW		30	15	13	片麻岩		
358	501SW		18	8	6	片麻岩			443	501SW		21	16	4	片麻岩			528	501SW		37	18	13	片麻岩		
359	501SW		27	20	8	片麻岩	○		444	501SW		23	21	11	片麻岩	○		529	501SW		37	16	11	片麻岩		
360	501SW		24	14	6	片麻岩	○		445	501SW		18	12	4	片麻岩			530	501SW		36	21	16	片麻岩	○	
361	501SW		24	16	10	片麻岩	○		446	501SW		41	20	11	片麻岩			531	501SW		40	23	14	片麻岩		
362	501SW		30	24	13	片麻岩			447	501SW		30	21	8	片麻岩			532	501SW		38	18	11	片麻岩		
363	501SW		27	16	8	片麻岩	○		448	501SW		33	13	11	片麻岩			533	501SW		36	17	10	片麻岩		
364	501SW		31	23	13	片麻岩	○		449	501SW		24	20	7	片麻岩	○		534	501SW		30	17	15	片麻岩	○	
365	501SW		27	23	8	片麻岩			450	501SW		32	19	9	片麻岩	○		535	501SW		35	26	16	片麻岩	○	
366	501SW		27	13	10	片麻岩	○		451	501SW		22	17	5	片麻岩	○		536	501SW		39	20	10	片麻岩	○	
367	501SW		27	17	19	片麻岩			452	501SW		22	14	4	片麻岩			537	501SW		48	24	7	片麻岩		
368	501SW		21	20	10	片麻岩	○		453	501SW		21	8	5	片麻岩			538	501SW		32	20	16	片麻岩		
369	501SW		19	9	4	片麻岩	○		454	501SW		31	13	5	片麻岩			539	501SW		45	26	16	片麻岩		
370	501SW		27	13	8	片麻岩	○		455	501SW		19	7	4	片麻岩			540	501SW		30	13	11	片麻岩		
371	501SW		20	9	7	片麻岩	○		456	501SW		30	17	10	片麻岩			541	501SW		15	12	10	片麻岩		
372	501SW		30	10	8	片麻岩	○		457	501SW		36	20	14	片麻岩			542	501SW		20	12	11	片麻岩	○	
373	501SW		33	12	7	片麻岩			458	501SW		31	18	10	片麻岩			543	501SW		23	17	13	片麻岩		
374	501SW		20	7	5	片麻岩			459	501SW		31	10	8	片麻岩			544	501SW		27	23	22	片麻岩		
375	501SW		34	15	11	片麻岩			460	501SW		33	21	8	片麻岩			545	501SW		27	23	25		○	
376	501SW		36	18	9	片麻岩	○		461	501SW		35	15	8	片麻岩	○		546	501SW		23	20	23			石塔
377	501SW		15	13	2	片麻岩			462	501SW		31	15	7	片麻岩			547	501SW		33	27	19			
378	501SW		25	16	11	片麻岩			463	501SW		27	18	12	片麻岩	○		548	501SW		25	25	20			
379	501SW		28	21	13	片麻岩	○		464	501SW		27	21	8	片麻岩			549	501SW		38	24	24		○	
380	501SW		25	19	6	片麻岩			465	501SW		31	16	10	片麻岩	○		550	501SW		24	14	11		○	
381	501SW		27	14	4	片麻岩			466	501SW		24	15	9	片麻岩			551	501SW		30	13	10			
382	501SW		27	18	3	片麻岩			467	501SW		24	19	8	片麻岩			552	501SW		26	13	3			
383	501SW		27	17	7	片麻岩	○		468	501SW		32	18	17	片麻岩			553	501SW		14	13	3			
384	501SW		20	12	8	片麻岩	○		469	501SW		26	14	3	片麻岩			554	501SW		33	31	7			
385	501SW		28	14	14	片麻岩	○		470	501SW		27	21	9	片麻岩			555	501SW		38	40	12		○	
386	501SW		17	14	3	片麻岩			471	501SW		36	17	11	片麻岩			556	501SW		45	35	18			
387	501SW		21	15	7	片麻岩			472	501SW		35	16	14	片麻岩			557	501SW		38	28	15		○	
388	501SW		33	19	13	片麻岩			473	501SW		30	16	9	片麻岩											
389	501SW		35	15	15	片麻岩			474	501SW		26	15	14	片麻岩											
390	501SW		29	19	16	片麻岩			475	501SW		34	17	6	片麻岩	○										
391	501SW		31	11	8	片麻岩			476	501SW		24	17	3	片麻岩											
392	501SW		29	19	13	片麻岩	○		477	501SW		34	17	9	片麻岩											
393	501SW		29	24	12	片麻岩	○		478	501SW		34	25	15	片麻岩											
394	501SW		23	14	8	片麻岩	○		479	501SW		32	24	11	片麻岩											
395	501SW		28	12	8	片麻岩	○		480	501SW		37	20	8	片麻岩	○										
396	5																									

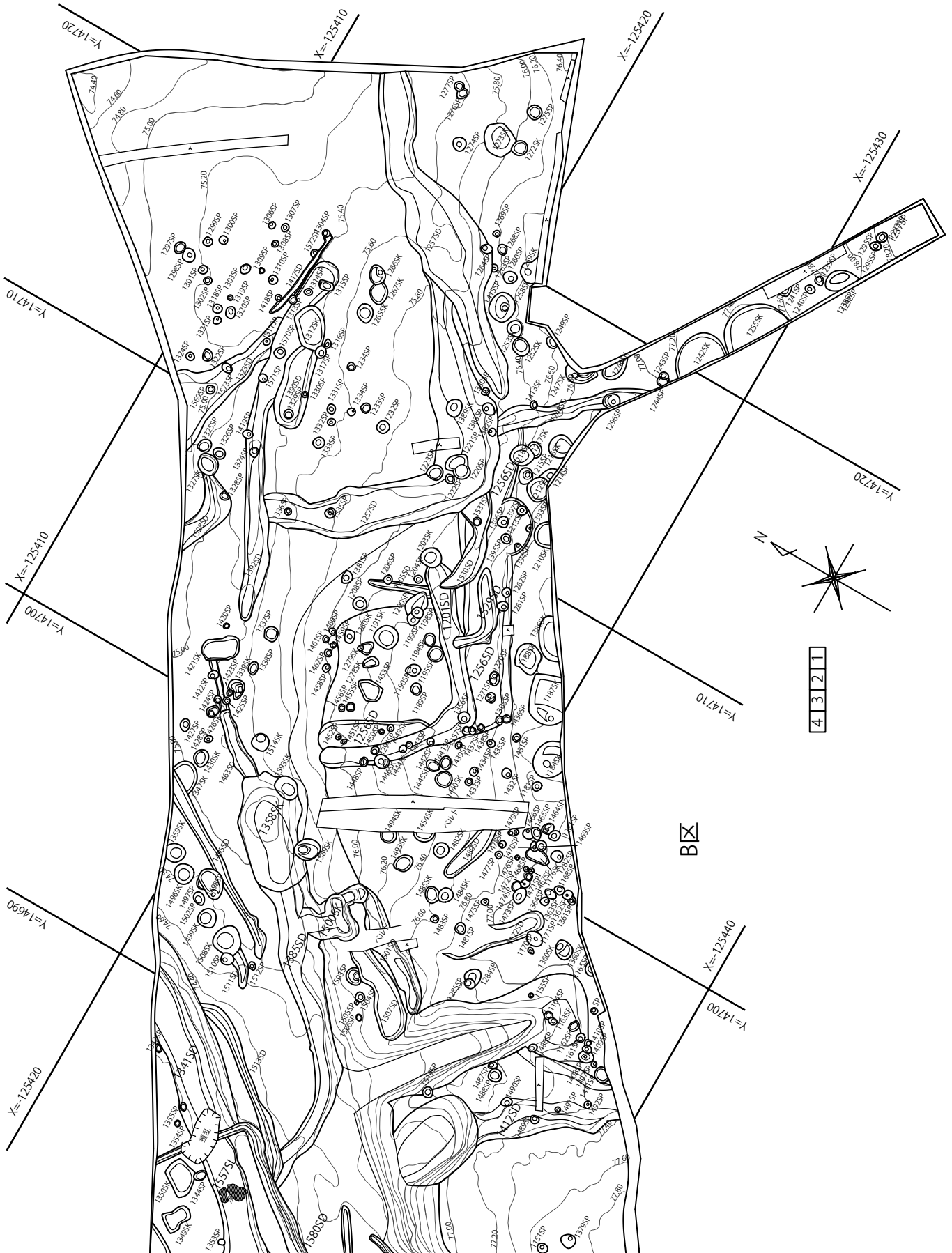


遺構図 3 (1 面遺構図 3) 1/200

羽根遺跡



羽根遺跡



遺構図 6 (2面遺構図 2) 1/200

羽根遺跡



遺構図 8 (2 面遺構図 4) 1/200

写真図版 1



調査区遠景（南西からみる）



調査区全体（南西からみる）

写真図版 2



A 区 1 面全体 (北東からみる)



A 区 2 面全体 (北東からみる)

写真図版 3



Ab 区全体（東からみる）



B 区 1 面全体（南西からみる）

写真図版 4



B 区 2 面全体 (南西からみる)



B 区 2 面北半分 (北からみる)

写真図版 5



C 区 1 面全体 (北西からみる)



C 区 1 面南半分 (北東からみる)

写真図版 6



C 区 2 面全体 (西からみる)



D 区・E 区全体 (南西からみる)

写真図版 7



001SB 全体 (東からみる)



322SI 土層断面 (北東からみる)



1595SB 全体 (南西からみる)



031SD 全体 (南からみる)



034SD (南西からみる)



048SD 全体 (南西からみる)



048SD 石組み (東からみる)



048SD 石組み (南東からみる)

写真図版 8



051SD 全体 (南西からみる)



051SD 石組み (西からみる)



053SD 全体 (北東からみる)



052SS 南東部 (北西からみる)



070SD 検出状況 (南西からみる)



070SD 全体 (北西からみる)



246SD 全体 (南西からみる)



386SD 全体 (北西からみる)

写真図版 9



746SD・747SD・748SD 全体 (南西からみる)



746SD 石組み (北東からみる)



1256SD 遺物出土状態 (西からみる)



1341SD 石組み (北西からみる)



1385SD 石組み (北東からみる)



164D8SD 全体 (南からみる)



1591NR 全体 (西からみる)



501SW・502SU・503SM 検出状況 (北西からみる)

写真図版 10



501SW 全体 (北西からみる)



501SW 北端 (北からみる)



501SW 基底石 (西からみる)



502SU 全体 (北西からみる)



502SU 石塔廃棄集中部 (北西からみる)



503SM 全体 (北からみる)



503SM 土層断面 (北西からみる)



503SM 内耳鍋出土状態 (南西からみる)

写真図版 11



205SK・206SX・248SK 全体 (南西からみる)



247SX 全体 (南西からみる)



265SP 全体 (北からみる)



413SX 全体 (北西からみる)



828SK・829SK (南西からみる)



884SK 全体 (北西からみる)



950SK 全体 (南西からみる)



1352SK 全体 (西からみる)

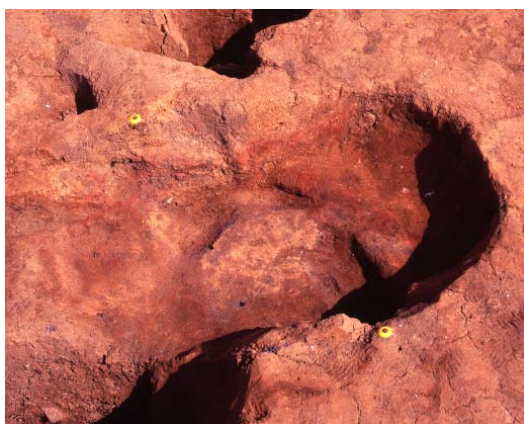
写真図版 12



1358SK 全体 (北東からみる)



1500SK 全体 (北西からみる)



555SL 全体 (南からみる)



555SL 断ち割り断面 (南東からみる)



1557SL 検出 (南西からみる)



1557SL 全体 (南からみる)



1348SE 土層断面 (南東からみる)

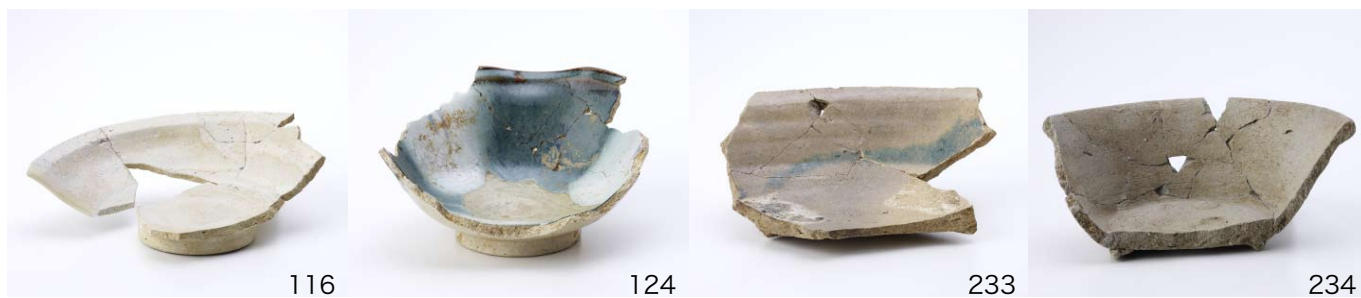


1594SE 土層断面 (北東からみる)

写真図版 13



写真図版 14



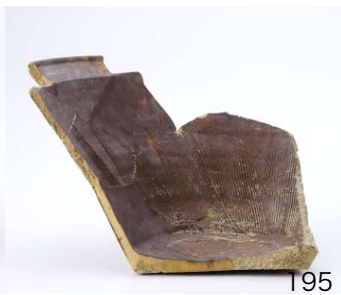
写真図版 15



写真図版 16



写真図版 17



写真図版 18



写真図版 19



36



37



28



86



87



273



121



51



38



39



502SU 出土—石五輪塔

写真図版 20



写真図版 21



写真図版 22



写真図版 23



鍛冶関連遺物

金属製品



木製品・石塔類以外の石器・石製品・貝製品

写真図版 24



出土銭貨



縄文時代に属すると考えられる石器

愛知県埋蔵文化財センター調査報告書 第 166 集

羽根遺跡

2010 年 3 月 31 日

編集・発行 財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター

印刷 サンメッセ株式会社